中落合遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第168集



2008

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



中落合遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第168集

平成20年 財団法人 山形県埋蔵文化財センター





調査区全景(上空から) 2枚の撮影写真を合成・加工した



SB56、SA26完掘状況(北から)



SB170・817完掘状況(南から)



EU1遺物出土状況(西から)



EU1出土土器



墨書・刻書土器

本書は財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した中落合遺跡の調査成果をまとめたものです。

中落合遺跡は山形県南部の置賜盆地の東北部に位置する南陽市に所在します。南陽市は、果樹栽培が盛んで、ぶどうを代表として県内でも有数の「果樹栽培のまち」で知られています。また、開湯900年余の伝統のある赤湯温泉には、さまざまな逸話や伝説が残り、宮内熊野大社、県南県立自然公園など温泉と歴史、そして観光の町でもあります。

遺跡の周辺には、蒲生田古墳群や、県内最大で東北でも6番目の大きさを誇る国指定史跡の稲荷森古墳、出土品の彩漆土器とクッキー状の炭化物が国の重要文化財に指定されている押出遺跡などがあります。

この度、一般国道113号赤湯バイパス改築事業に伴い、工事に先立って中落合遺跡の発掘調査を実施しました。調査では、計画的に配置された様子が窺える古代の掘立柱建物や区画施設の他、井戸、溝、河川、そして古墳時代の方形に巡る溝などが確認され、須恵器や土師器、黒色土器などの遺物が出土しました。中には「禾」、「東東」、「上」などの文字が墨で書かれた墨書土器もあります。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産と言えます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた大きな責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の啓発・普及・学術研究・教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、調査において御支援・御協力いただいた関係の皆様に心から感謝申し上 げます。

平成20年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 山 口 常 夫

本書は、一般国道113号赤湯バイパス改築事業に係る「中落合遺跡」の発掘調査報告書である。

既刊の年報、調査説明資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。

調査は国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

出土遺物・調査記録類は、報告書作成後、山形県教育委員会に移管する。

調査要項

遺跡名 中落合遺跡

遺跡番号 昭和55年度登録

所 在 地 山形県南陽市大字中落合

調查委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所

調査受託者 財団法人山形県埋蔵文化財センター

受 託 期 間 平成17年4月1日~平成20年3月31日

現地調査 平成17年6月1日~平成17年12月16日

調査担当者

平成17年度 調査第三課長 渋谷 孝雄

調査研究主幹 長橋 至

主任調査研究員 氏家 信行(調査主任)

主任調査研究員 須藤 孝宏

調 査 員 粕谷 孝

平成18年度 調査第一課長 野尻 侃

調査研究主幹 長橋 至

主任調査研究員 氏家 信行(調査主任)

平成19年度 調 査 課 長 長橋 至

主任調査研究員 氏家 信行(調査主任)

調査研究員 高桑 弘美

調 査 員 須賀井明子

調 査 指 導 山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室

調 査 協 力 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所調査第二課

山形県教育庁置賜教育事務所

南陽市教育委員会

凡 例

- 1 本書の執筆は氏家信行 (第 I ~ IV 章第 1 節、第 VI 章)、髙桑弘美 (第 IV 章第 2 節) が担当し、柏倉俊夫、小笠原正道、 佐東秀行、野尻侃、長橋至、黒坂雅人、伊藤邦弘が全体の監修をした。
- 2 遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第X系(世界測地系)により、高さは海抜高で表す。方位は座標北を表す。
- 3 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

 SH…周溝
 SB…掘立柱建物
 SA…柱穴列
 SE…井戸

 EU…合口甕棺
 SK…土坑
 SG…河川
 SD…溝

 SX…性格不明遺構
 RP…登録土器
 RQ…登録石器
 P……土器

S ·······礫

- 4 遺構・遺物実測図の縮尺などは各図に示し、各々スケールを付した。遺構実測図中のスクリーントーンは柱痕跡を表している。なお、遺構実測図中の土器は1/8、木製品は1/12の縮尺で採録し、墨書・刻書土器分布図の遺構・遺物図は任意の縮尺で採録した。
- 5 墨書・刻書土器の「□」は、解読不明文字を示す。
- 6 遺物観察表の()内数値は図上復元による推定値を示し、出土地点のFは覆土、Yは床面を示す。
- 7 写真図版は任意の縮尺で採録した。
- 8 基本層序および遺構覆土の色調記載については、1997年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版基準 土色帖」によった。
- 9 発掘調査及び本書を作成するにあたり、下記の方々からご協力、ご助言をいただいた。(敬称略) 北野博司 三上喜孝 宮本長二郎
- 10 委託業務は下記のとおりである。

基準点測量業務 新和設計株式会社

地形・遺構撮影業務 日本特殊撮影株式会社

遺構写真実測業務 株式会社セビアス

自然科学分析業務 パリノ・サーヴェイ株式会社

株式会社パレオ・ラボ

目 次

		I i	骨査の組	Z緯				
			1	調査に至れ	る経過・		· 1	
			2	調査の概要	要		· 1	
	I	I Z	工地と 環	環境				
			1	地理的環境	竟		· 4	
			2	歷史的環境	竟		. 4	
	Ι	II 進	遺構と遺	遺物の分布				
			1	遺構の分	布		. 8	
			2	遺物の分	布······		. 8	
	Ι	V 追	遺構と遺	量物				
			1	検出遺構·			. 9	
			2					
	7	V É	1 然科学	学分析			·21	
	7	/I 糸	》 括					
			1	調査のま	とめ		·28	
			2	遺跡の性権	各と年	代観	·28	
	幸	报告書	責抄録⋯			·····	於末	
				遺構配置図·				
				=	ź.			
				表	ξ.			
表1 振	立柱建物観察表 (1)			105	表6	遺物観察表	(2)	110
表2 振	立柱建物観察表(2)			106	表7	遺物観察表	(3)	111
表3 据	立柱建物観察表 (3)			107	表8	遺物観察表	(4)	
表4 振	立柱建物観察表(4)			108	表9	遺物観察表	(5)	113
表5 遺	物観察表 (1)			109	表10	遺物観察表	(6)	114
				X	版			
第1図	調査区概要図			3	第10図	遺構配	置図6	37
第2図	地形分類図			5	第11図	遺構配	置図7	38
第3図	遺跡位置図			6	第12図	遺構配	置図8	39
第4図	遺構配置図の割付図			31	第13図	S H70)周溝	40
第5図	遺構配置図1			32	第14図	S B 56	掘立柱建物 (1)	41
第6図	遺構配置図2				第15図			42
第7図	遺構配置図3				第16図			43
第8図	遺構配置図4				第17図			(1)44
第9図	遺構配置図 5			36	第18図	S B 170	リ・817掘立柱建物((2)45

第19図	S B 180 · 18	1·500掘立柱建物	47	第47図	遺物実測図	S B 817 · 180 · 500 · 821·····	77
第20図	S B 180掘立	柱建物 (1)	48	第48図	遺物実測図	EU1, SK31·45·73·····	78
第21図	S B 180掘立	柱建物 (2)	49	第49図	遺物実測図	S K 169 · 219 · 411 · 765 ·	
第22図	S B 500掘立	柱建物(1)	51		767 · 852、 S	S X 851	79
第23図	S B 500掘立	柱建物 (2)	52	第50図	遺物実測図	S K 852、 S X 851 · 316 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	80
第24図	S B 181掘立	柱建物	54	第51図	遺物実測図	S X783 · 784·····	81
第25図	S B 250掘立	柱建物	55	第52図	遺物実測図	S X783 · 784、 S K785 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	82
第26図	S B 280掘立	柱建物	56	第53図	遺物実測図	S K786 · 83 · 154 · 410 ·	
第27図	SB570掘立	柱建物	57		524 · 576 · 6	39	83
第28図	S B 759 · 80	1掘立柱建物 (1)	58	第54図	遺物実測図	S K 660 · 807 · 824、	
第29図	S B 759 · 80	1掘立柱建物 (2)	59		S X 153 · 17	71 · 400 · 858·····	84
第30図	SB821掘立	柱建物	60	第55図	遺物実測図	S G 55·····	85
第31図	SB860掘立	柱建物	61	第56図	遺物実測図	S G 55	86
第32図	S A777 · S	D 7 ・8 区画施設	62	第57図	遺物実測図	S G 55·····	87
第33図	S A 26 · S I) 28区画施設	63	第58図	遺物実測図	S G 55	88
第34図	EU1合口藥	悪棺、SE462・463井戸	64	第59図	遺物実測図	S G 55	89
第35図	S E 464 · 46	5・516・523井戸	65	第60図	遺物実測図	S G 55·····	90
第36図	S K31 · 45 ·	73·154·169土坑	66	第61図	遺物実測図	S G 55	91
第37図	S K219 · 41	1·765·767·852土坑、		第62図	遺物実測図	S G 55	92
	S X851性格	不明遺構	67	第63図	遺物実測図	S G 55	93
第38図	S X 316 · 78	3·784性格不明遺構、		第64図	遺物実測図	S G 55·····	94
	S K785~78	7土坑	68	第65図	遺物実測図	S G 55	95
第39図	S D 54溝、S	S G 55河川······	69	第66図	遺物実測図	S D 20 · 286 · 701 ·	
第40図	S G 55河川道	貴物分布図	70		300 · 311····		96
第41図	S D 20溝·····		71	第67図	遺物実測図	S D 645 ·····	97
第42図	S D 286 · 28	7 · 312 · 333 · 364 ·		第68図	遺物実測図	S D 645、 S P	98
	468 · 701 · 7	89溝	·····72	第69図	遺物実測図	遺構外出土土器 (1)	99
第43図	S D 286 · 28	7 · 300 · 311~313 ·		第70図	遺物実測図	遺構外出土土器 (2)	100
	333 · 364 · 4	68・480・645溝	73	第71図	遺物実測図	遺構外出土土器 (3)	101
第44図	S D 300 · 31	1~313断面	74	第72図	遺物実測図	遺構外出土土器 (4)	102
第45図	S D 333 · 36	4・468・480・645断面	75	第73図	墨書・刻書	上器集成図	103
第46図	遺物実測図	S B 170 ·····	76	第74図	墨書・刻書	上器分布図	104
			写真	図版			
巻頭写真 1		調査区全景		写真図版(6	S B 170 · 817	
巻頭写真 2	2	SB56、SA26、SB170·817		写真図版 ′	7	S B 180 · 181 · 500	
卷頭写真3	3	E U 1 遺物出土状況・出土土器		写真図版	8	S B 250 · 280	
卷頭写真4	1	墨書・刻書土器		写真図版	9	S B 111 · 570	
写真図版1	L	遺跡近景・調査区全景		写真図版1	10	S B 759 · 810 · 860	
写真図版 2	2	A区南半・西半完掘全景		写真図版1	1	SA777、SD7·8	
写真図版3	3	B区・C区完掘全景		写真図版1	12	S A26、S D28	
写真図版 4	ŀ	S H700		写真図版1	13	E U 1	

写真図版14 S E 462 · 463 · 464 · 465

写真図版 5 S B 56

写真図版15	S E 462~465、 S E 516 · 523	写真図版31	SK・SX・SG出土遺物
写真図版16	S K31 · 45 · 73 · 154 · 169 · 219	写真図版32	S G 55出土遺物
写真図版17	S K411 · 767 · 852、 S X 851	写真図版33	SG55出土遺物
写真図版18	S X 316 · 783 · 784、 S K 785~787	写真図版34	S G 55出土遺物
写真図版19	S G 55	写真図版35	SG55出土遺物
写真図版20	S D 20	写真図版36	S G 55出土遺物
写真図版21	S D311 · 468 · 480 · 645完掘	写真図版37	S G 55出土遺物
	S D300・311・701土層断面	写真図版38	SG55出土遺物
写真図版22	S D312·333土層断面	写真図版39	S G 55出土遺物
写真図版23	S D 286 · 287	写真図版40	S G 55出土遺物
写真図版24	SD645土層断面·RP出土状況	写真図版41	SG55・SD出土遺物
写真図版25	SB出土遺物	写真図版42	SD出土遺物
写真図版26	EU·SK出土遺物	写真図版43	SD・SP出土遺物
写真図版27	SK・SX出土遺物	写真図版44	SP·遺構外出土遺物
写真図版28	SK・SX出土遺物	写真図版45	SP・遺構外出土遺物
写真図版29	SX出土遺物	写真図版46	遺構外出土遺物
写真図版30	SK・SX出土遺物	写真図版47	SB・遺構外出土遺物

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

中落合遺跡は、南陽市南東部の中落合地区に所在し、 吉野川・織機川合成扇状地の中央を流れる上無川の自然 場防上の微高地に立地する。

今回の調査は、一般国道113号赤湯バイパス改築事業 に伴う緊急発掘調査として実施された。

赤湯バイパスは、地域高規格道路「新潟山形南部連絡 道路(延長約80km)」の一部として計画された南陽市大 字竹原から高畠町大字深沼に至る延長7.2kmの一般国道 113号の自動車専用道路で、国道113号南陽市街地の交通 渋滞の解消や東北中央自動車道と一体となっての地域間 交流、置賜地域内の連携強化促進などの効果が期待され ている。

この計画に基づき山形県教育委員会は、当時の建設省 山形工事事務所(現国土交通省山形河川国道事務所)と 協議を行い、遺跡の保護を図ることを目的に、平成7年 と8年に赤湯バイパス予定路線内について、事業計画区 域内の遺跡の有無と範囲を確認する表面踏査(A調査) を行った。

その結果、東畑A遺跡・東畑B遺跡・鵜の木館跡・百 刈田遺跡・西中上遺跡・大塚遺跡・中落合遺跡・檜原遺跡・庚壇遺跡・天王遺跡・上大作裏遺跡が確認され、東畑B遺跡を除く10遺跡が赤湯バイパスの路線内に含まれることがわかった。

これを基に協議を進め、平成12年度から開発計画との調整を図るため、路線内の用地取得や果樹の伐採終了後に重機械を使用してのトレンチ調査を行い、遺構や遺物の広がりと確認面までの深さを把握する試掘調査(B調査)を実施することとした。

試掘調査の結果、東畑A遺跡を含む10遺跡につて記録保存を目的とする緊急発掘調査を行うことで協議が整い、山形県教育委員会・山形河川国道事務所・財団法人山形県埋蔵文化財センターの三者による協議の結果、山形県埋蔵文化財センターに委託することで合意した。

中落合遺跡は、昭和55年の淞郷堰土地改良事業水路工

事の際に発見され、同年11月に施工実施部分について南陽市教育委員会が緊急発掘調査を行っている周知の遺跡であったが、平成16年度に遺跡の範囲を再度確認するための試掘調査が山形県教育委員会によって実施された。

試掘調査では、事業計画区域内に4本のトレンチと4ヶ所の試掘ピットを設定して、重機または手掘りによる試掘をした後、層序及び遺構検出面の精査を行ったところ、2本のトレンチから平安時代の土器とともに土色変化や溝跡・土坑・柱穴が確認され、2ヶ所の試掘ピットから土師器片が出土した。また、事業区域内を横断する市道落合東西線の路肩から須恵器甕の体部片を採取した。

この結果、中落合遺跡は平安時代の集落跡であることが再確認され、平成8年度の表面踏査(A調査)から東西250m、南北200mと考えられていた遺跡範囲は、南側に15m程広がることが判明した。また、市道の下にも遺構が遺存している可能性が推測されることから、事業に係る遺跡の範囲内について記録保存が必要であると判断された。

この試掘調査の結果を受け、山形県埋蔵文化財センターと国土交通省山形河川国道事務所との間で調査の経費や調査の日程などの細部にわたる調整を進め、平成17年度に緊急発掘調査を実施した。

2 調査の概要

調査に先立って、平成17年4月26日に国土交通省山形河川国道事務所と山形県埋蔵文化財センターによる平成17年度一般国道113号赤湯バイパス関係遺跡の発掘調査に関する調整及び打ち合わせを行った。

この結果、中落合遺跡の調査は事業区域内の調査区を 横断する市道落合東西線を除く部分を先に行い、その状 況を確認した後に、遺構の遺存が考えられる市道部分に ついての調査の有無を協議することで合意した。以下に 調査の概要を述べる。

<現地調査>

現地での調査は6月1日から開始し、市道部分を除い

て市道北側をA区、南側をB区とする調査区を設定した。 遺構確認面までの深さを調べるための線掘りを行うと 同時に確認された深さまで重機による表土除去を6月7 日から6月28日の期間で行った。

6月27・29・30日に委託業務による $10m \times 10m$ の方形 単位の基準点を設置し、それを基に $5m \times 5m$ を1 単位とする調査用方限(グリッド)杭を設定した。グリッ ドは世界測地系をもとに平面直角座標系第X系:X = -216550.000、<math>Y = -61175.000をX = 15 G、Y = 20 Gとし、 東西軸(X 軸)は西から東へ、南北軸(Y 軸)は南から 北へ、昇順でアラビア数字による番号を割り当てた。

その後、人手により土を丁寧に削り遺構を検出する作業を行い、検出された遺構に登録番号を付けるとともに、 遺構の掘り下げは、覆土をベルト状、あるいは、半截して土層観察後に完掘した。

遺物は、完形品及び一括土器について登録番号を付し、 他は遺構毎またはグリッド毎に取り上げた。また、遺構 の精査と併行して、デジタル図化のための遺構平面・断 面のデジタル写真や、記録保存のための写真撮影などの 諸記録作業を行った。

9月13日に、調査がほぼ終了したB区と、既に遺構検出を終え一部精査に入っていたA区の1回目の空中写真撮影を実施し、翌14日にはB区の調査を終了した。途中、8月上旬と下旬に重機を使用してA区西側の盛土部分と農道部分の除去作業を行っている。

また、A区とB区の遺構・遺物の分布状況から市道部分にも遺跡が遺存している可能性が高いと推測されたため、国土交通省山形河川国道事務所と協議を行い、市道部分の試掘調査を行うことになった。

市道の試掘調査は、A区の調査と並行し、9月28日に 実施した。調査は、1.5m×5mと1.5m×10mの2本の トレンチを設定し、重機でアスファルトや砂、盛土を除 去した後に面削りを行った。その結果、2本のトレンチ から溝跡、土坑、柱穴等の遺構や、奈良・平安時代の土 器が出土し、市道部分にも遺構・遺物が存在しているこ とが確認された。

これを基に、国土交通省山形河川国道事務所と再度協議を行ったところ、調査が終了しているB区部分に市道落合東西線の迂回路を設置した後、調査を行うことで合意した。

調査も終盤に近づいた11月19日に調査の成果を広く公表する調査説明会を開催し、あいにくの雪の降る悪天候のなかであったが、多くの参加者を得た。

迂回路工事は11月中旬に行われたため、市道の表土除去は迂回路完成後の11月24・25日に行い調査区をC区として調査を開始した。

調査はA区と併行して進めていき、遺構検出・遺構精 査・記録の順で行った。

そして、調査終了日の12月16日にA区とC区の調査区 全体の空中写真撮影を実施し、器材撤収を行った。現地 調査は6月1日から12月16日までの実働131日間実施した。

<整理作業>

整理作業は、平成17年度~19年度に行った。

平成17年度は図面、写真等の記録類の整理と遺物の基礎整理(洗浄・注記)を行った。

図面整理は、遺構平面、断面図のデジタル図化の校正 及び、手取り図面の修正等をした。

遺物の基礎整理は、出土遺物の洗浄をした後に注記作業をした。注記は遺跡名「中オチアイ」と出土地点を明記し、現場で登録したものには登録番号を付した。

平成18年度は出土遺物の復元作業を主に行い、一部実 測作業と拓本を開始した。

復元作業は遺構ごとに接合を行い、さらに遺構周辺の グリッド出土遺物、その他の出土遺物の復元を実施した。

復元終了後、遺構出土遺物を中心に状態の良いものについて抽出を行った。抽出した遺物について実測・拓本を実施した。

平成19年度は、図版作成、版組み、原稿執筆など報告 書作成作業を行った。

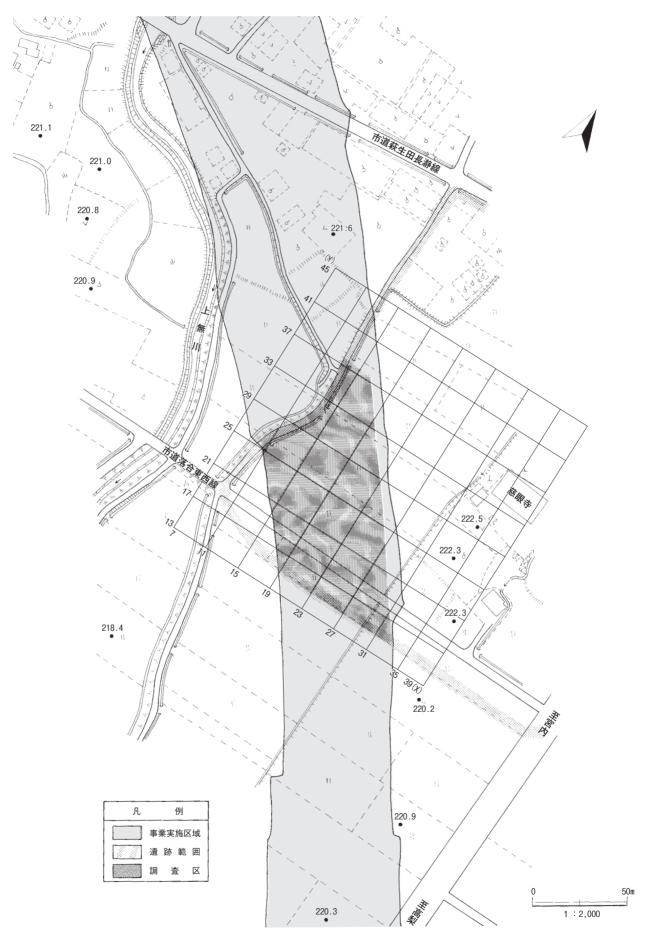
遺構図は一部をトレース、個別図はデジタルデータから作成した。

遺物は前年度に引き続き、実測、拓本を行い、その後 にトレース作業及び、写真撮影を実施した。

墨書・刻書土器については、山形大学人文学部三上准 教授に鑑定と解読の指導をお願いした。

報告書の版組み作業と並行して本文執筆をおこなった。

なお、平成17・18年度に木製品の樹種同定と年代測定 の自然科学分析を業務委託している。



第1図 調査区概要図

Ⅱ 立地と環境

1 地理的環境

中落合遺跡は、南陽市大字中落合地内に所在し、JR 赤湯駅から西へ約1.4kmの地点に位置する。標高は221~ 222mを測り、吉野川・織機川扇状地の中央を流れる上 無川の自然堤防上の微高地に立地する。

遺跡が所在する南陽市は、山形県の南東部、米沢盆地の東北端に位置し、東西15km、南北24kmの三角形状の市域をなす。周囲は山々に囲まれ、東に脊梁山脈である奥羽山脈、南には山形県の「母なる川」最上川の源流となる吾妻連峰、南西に飯豊連峰、北西には朝日連峰などの峰々が連なっている。

気候は盆地特有の内陸型気候を示し、平均気温は低い が夏冬の気温差は大きい。

市の北部は山地や丘陵地域であるが、南部は約6分の 1が低地で南北に縦断する国道13号線付近を境に、東側 は泥炭層が堆積する大谷地低湿地が形成され、西側には、 肥沃な宮内扇状地が広がる。

宮内扇状地は、吉野川、織機川、上無川などの中小河川の作用によって開析され、西方の小沢などが形成した小扇状地が分布する複合扇状地である。扇状地を流れるそれぞれの河川流域には流路に沿って自然堤防の微高地が延びている。織機川と上無川によってできた自然堤防は旧吉野川河道の北西、国道113号線とフラワー長井線の間にある。織機川流域は広範囲に自然堤防が形成され、周辺はやや湿地が広がる河間低地に囲まれる。西側は後背湿地であるが、東側に矢ノ目・長瀞・西落合・砂塚の各地区が、西側は大仏・大作地区などが存在している。また、上無川の自然堤防は東側でほぼ東西に延び、長期に亘る河川流路の変化によって開析された扇状地に、自然堤防や後背湿地または河間低地が形成される。その自然堤防トに萩生田・坂井・中落合地区が所在している。

中落合地区は、市の南部で市街地の中央部にあたり四 方が平地で稲作と果樹栽培が盛んな地域である。水に恵 まれ、田畑や果樹園に囲まれた田園地帯で中落合遺跡の すぐ東に慈眼寺がある。

2 歷史的環境

中落合遺跡が所在する南陽市には現在まで約260箇所 の遺跡が確認されている。

旧石器時代では、石刃が採集されている長岡山遺跡が長岡丘陵に立地する。

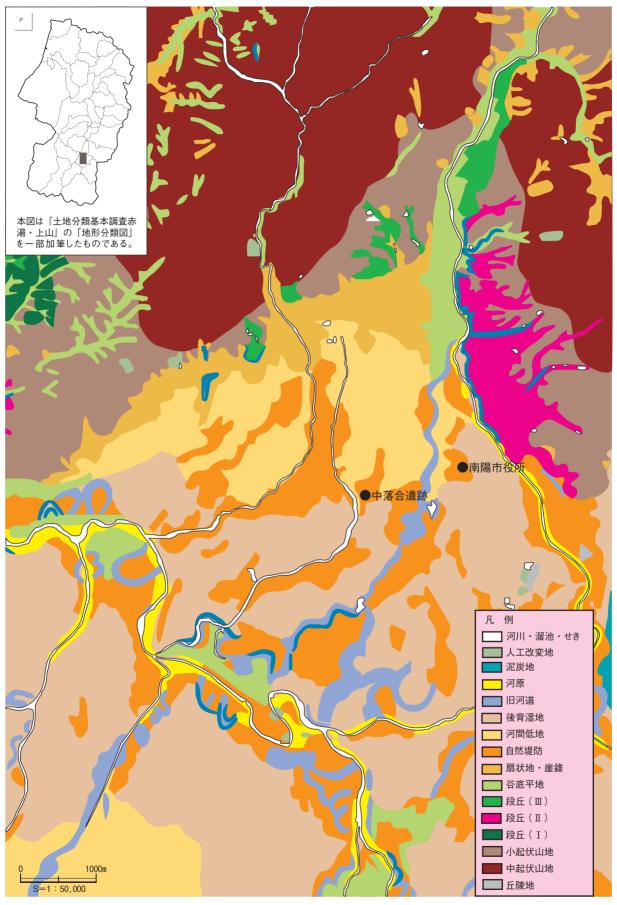
縄文時代の遺跡は山間部から谷地田周辺まで広く分布 し、前期から中期の遺跡では高原山遺跡・掛在家遺跡・ 漆山遺跡・東六角遺跡・諏訪前遺跡などの集落が営まれ、 後・晩期では北前遺跡などが所在する。

弥生時代の遺跡は、天王山式並行の土器が出土した沢 田遺跡の他、百刈田遺跡第3次調査で中期の再葬墓が、 庚壇遺跡からは後期の竪穴住居跡が確認されている。

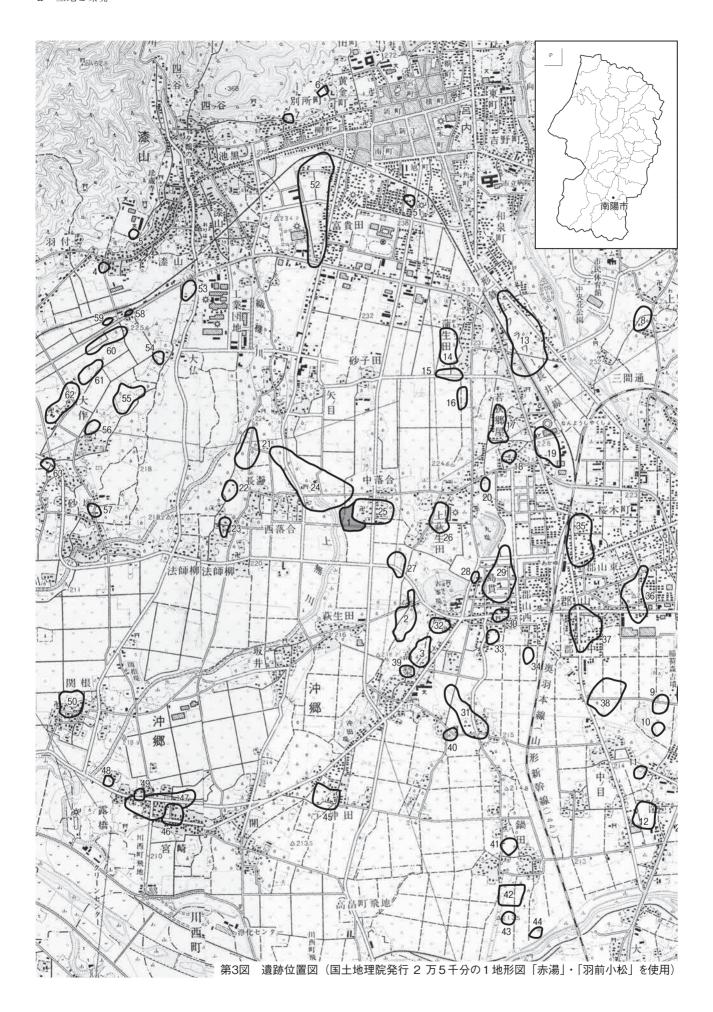
古墳時代の遺跡では、国指定史跡の稲荷森古墳が吉野 川右岸、赤湯地区に所在している。稲荷森古墳は全長96 mを測り県内最大、東北でも6番目の大きさの前方後円 墳である。4世紀後半の古墳で、現在は史跡公園として 整備されている。その他、島貫遺跡・沢田遺跡・百刈田 遺跡などで集落跡が確認されている。また、大塚遺跡で 方形周溝墓が確認され、織機川・上無川流域の自然堤防 上にも古墳時代の集落が存在する可能性を窺わせる。

奈良・平安時代の遺跡は、宮内扇状地に庚壇遺跡・檜原遺跡・沢田遺跡・西中上遺跡・植木場一遺跡・富貴田遺跡など多く確認されている。南陽市周辺は置賜郷ないし宮城郷と呼ばれ、「郡山」という地名から沖郷地区には8世紀末から9世紀末にかけて古代置賜郡衙があったとみられている地域である。今回の調査で中落合遺跡から、計画的に配置された建物跡が確認され、置賜郡衙を構成する施設の一部とも推測される。

中世の遺跡は多くの城館跡が確認されており、若狭郷屋敷・中屋敷・中落合館などは旧吉野川の両岸に、畿内城館・大野原館・沖田館・宮崎館・植木場一遺跡などは扇端部の最上川に隣接して位置している。最上川や旧吉野川に面した館跡は、舟運を利用した生産物資の補給や輸送など、物流の拠点としての役割をしていたとも考えられる。



第2図 地形分類図(山形県「赤湯・上山」)



番号	遺跡名	種別	時 代	番号	遺跡名	種別	時 代
1	中落合	集落跡	古墳・奈良・平安・近世	33	沢口	集落跡	奈良・平安
2	大塚	集落跡	古墳~平安	34	間々ノ上	散布地	奈良
3	西中上	集落跡	奈良・平安	35	諏訪前	集落跡	縄中・古墳・平安
4	前田	散布地	縄文	36	東六角	集落跡	縄中・古墳・平安
5	漆山	集落跡	縄文中期	37	矢の目館	館跡	室町
6	別所A	散布地	平安	38	早稲田	散布地	奈良
7	別所B	散布地	縄文	39	将監屋敷	散布地	奈良・平安
8	上野	集落跡	縄文・中近世	40	前小屋	散布地	縄文
9	稲荷森古墳	古 墳	古墳前期	41	大屋敷	散布地	平安
10	長岡南森	散布地	縄文中期・古墳	42	畿内城館	館跡	中世
11	中ノ目	散布地	奈良・平安	43	畿内田	散布地	平安
12	鵜の木館	館 跡	古墳・平安・中近世	44	窪田尻	散布地	平安
13	観音堂	散布地	縄文・平安	45	沖田館	館 跡	中世
14	蒲生田館	館跡	中世	46	宮崎館	館跡	中世
15	南館館ノ内	散布地	縄文・平安	47	植木場一	館跡外	奈良・平安・室町
16	当時作	散布地	縄文・奈良・平安	48	露橋A館	館跡	中世
17	若狭郷屋敷	館跡	中世	49	露橋B館	館跡	中世
18	中屋敷	館跡	中世	50	関根館	館跡	中世
19	唐越	散布地	縄文・奈良・平安	51	大清水	散布地	縄文・平安
20	西田	散布地	平安	52	富貴田	集落跡	縄文・奈良
21	庚壇	集落跡	弥生後期~平安	53	東高堰	散布地	弥生中期・平安
22	北前	散布地	縄文晩期	54	大仏	散布地	縄文後期
23	長瀞館	館跡	中世	55	天王	散布地	古墳・奈良・平安
24	檜原	散布地	縄文	56	中野	散布地	縄文中期
25	中落合館	館 跡	中世	57	下八ツ口	散布地	縄文
26	萩生田	集落跡	弥生・奈良	58	大根在家	散布地	平安
27	梅ノ木	散布地	奈良・平安	59	四百刈	散布地	縄文
28	島貫	集落跡	古墳~平安	60	高山原	集落跡	縄文前期・平安
29	沢田	集落跡	弥生・古墳~平安	61	掛在家	集落跡	縄前・弥生~奈良
30	郡山中堀	散布地	奈良・平安	62	上大作裏	散布地	縄文・平安
31	百刈田遺跡	集落跡	縄・弥・古・奈・平	63	塩釜	集落跡	縄文中期
32	古屋敷	散布地	奈良				

Ⅲ 遺構と遺物の分布

1 遺構の分布

今回は、東西200m、南北220mを測る遺跡範囲のうち 面積約5,700㎡を調査した。調査で検出された主な遺構 は周溝、掘立柱建物、区画施設、合口甕棺、井戸、土坑、 河川、溝、柱穴などである。遺構は古代のものが大半を 占め、古墳時代のものは周溝のみ、近世のものは溝数条 である。

遺構の分布状況は、調査区のほぼ中央部に集中し、北側及び南側が希薄になる傾向がみられた。調査区北端では溝と周溝のみで、南端のB区でも掘立柱建物1棟と溝、河川、区画施設、土坑などが検出されたが遺構数は限られている。

遺構毎では、周溝が1基A区の北端から検出された。 掘立柱建物は、調査区中央南寄り19~27-15~22Gに 多く分布する。建て替えを含め11棟がこの区域に集中し ている。この区域は、今調査で確認された区画施設の内 部と推定され遺跡の主体となる建物が分布していると考 えられる。建物はさらに東側に延びる可能性がある。ま た、22~25-25・26Gには総柱の掘立柱建物が2棟分布 している。これら13棟の掘立柱建物は、左右対称コの字 型の配置となり計画的な配置が窺える。この他の掘立柱 建物はA区中央西側に1棟のみ分布している。

区画施設は、調査区南西端を角として北側と東側にほぼ直線状に分布し掘立柱建物と軸線がほぼ一致している。一部、削平のため不明瞭となるが、北側は19-24G、東側は22-15G付近まで延びていると考えられ、掘立柱建物の大半を区画する分布状況となる。

合口甕棺は、17-21 G に 1 基のみ検出され、区画施設 の西外側に位置する。井戸は、調査区中央西側にのみに 分布し、6 基が集中して検出された。

土坑は、調査区西側と中央やや南側に多く分布する傾向が見られ、井戸と同様に隣接して構築されている。

河川は調査区南東端に1条のみ検出された。さらに南 北方向に延びると考えられ、掘立柱建物跡との関連を窺 わせる。 溝跡は、ほぼ調査区全体に分布するが、西側に比較的 多く分布する傾向を示し、細く長い溝が互いに切り合っ ている。

以上から、遺構の分布状況は区画施設の内部と外部で 明確な違いが認められる。

2 遺物の分布

遺物は、整理箱にして40箱出土した。奈良・平安時代の土師器、須恵器、黒色土器などが大半を占め、陶磁器片は数点、縄文土器は1点の出土である。

土器は破片資料が多く、摩滅も著しく遺存状態が悪い。 また、墨書・刻書土器は破片も含め50点出土した。遺物 の出土は河川跡と土坑、一部の溝跡からの出土が多く、 掘立柱建物や井戸からの出土は極めて少ない。

土師器、須恵器の大半が南東隅のSG55河川跡(30~32-15~17G)と調査区西側($12\sim17-21\sim25$ G)及び中央南側($21\sim26-18\cdot19$ G)の土坑が集中する区域から出土し、他は希薄になる。特にSG55は全体に遺物が分布する。

中央南側では、土坑から須恵器・土師器の出土が多く、他の遺構からの出土は極めて少ない。また、西側では調査区西端付近のSD645溝と土坑群から須恵器・土師器が出土している。また、EU1からは土師器の甕と須恵器の坏が一括出土した。

墨書や刻書土器は、大半がSG55から出土し、50点中35点の出土である。SG55以外では区画施設内の掘立柱建物南側の土坑周辺に集中する。

陶磁器はその分布が限られ、A区のみからの出土となり、遺構からは調査区北端のSD701溝と中央を北西から南東に縦断するSD286溝のみとなる。SD701・SD286共に近世の溝と考えられる。

木製品は区画施設内の掘立柱建物の柱穴から柱材が出 土した。

以上、遺物の分布状況は概ね遺構の分布と同様であるが、その出土量は遺構毎に顕著な違が認められた。

IV 遺構と遺物

1 検出遺構

検出された主な遺構は、周溝、掘立柱建物、合口甕棺、井戸、土坑、河川、区画施設、溝、柱穴などである。竪穴住居は無く、計画的に配置されている様子が窺える掘立柱建物のみで構成されていることから、官衙もしくは、それに関連する施設の様相を呈する。遺構は調査区中央に建物が、A区の西側及び中央南側に井戸、土坑、溝などが集中し北端と南端が希薄になる傾向が見られた。遺構の時期は概ね、古墳時代と奈良・平安時代、そして近世と推測される。以下に主な遺構の概略を述べる。

(1) 周 溝

S H700周溝 (第13図)

A区北側の15~17-33~35Gで検出された方形に巡る 周溝である。全体に削平され、溝の底面付近のみが検出 された。また、東と西側の一部が近年の削平により撹 乱を受けている。周溝の軸線はN-4°-Wに傾き、溝 の幅0.9~2.2m、深さ15~25cmで、西に比べ東側が細く、 浅くなる。規模は東西方向が外辺10m、内辺6.4m、南 北方向は外辺9m、内辺6mとほぼ正方形に近い。溝の 断面は壁面が急角度に立ち上がり、底面が平坦となる台 形状を呈する。覆土は複数の粘土層と粘質シルト層が堆 積し、自然堆積と考えられる。古墳時代の方形周溝墓と も推測されるが、出土遺物が無く詳細は不明である。

(2) 掘立柱建物

掘立柱建物は重複も含め14棟が検出された。建物の時期は、出土遺物や柱穴の規模などから、奈良・平安時代に属すると考えられる。調査区中央南寄り区画施設内の19~27-15~22Gに、建て替えを含め11棟がこの区域に集中し、22~25-25・26Gに同規模の総柱建物が2棟並列して見つかった。これら13棟のうちSB181・759・801を除く10棟は、建物の軸線方向や柱穴の掘り方規模から、建て替えを含めて、ほぼ同時期に存在したと考えられる。特に、これら10棟の掘立柱建物は、左右対称コ

の字型の配置となり、計画的な配置が窺える。その他に はA区中央西側 $13 \cdot 14 - 25 \cdot 26$ G に 1 棟分布している。

S B 56掘立柱建物 (第14·15図)

B区西側19~21-16・17Gで検出された。柱穴は6基 確認できた。南側の中柱はSD20溝跡により削平された と考えられ、北側が調査区外に延びる梁行2間、桁行2 間以上の南北棟の建物と考えられる。主軸方向はN-2°-Wである。建物の規模は東西梁行5.0m、南北桁行 6.8m以上を測り、柱間距離は桁行が西側で2.4m、2.4m、 東側が2.4m、2.3mとなる。南側梁行は2.5m、2.5mの等 間隔になると考えられる。柱穴の掘り方は、EB4のみ が径100cmの円形で他は108~142×80~120cmを測る隅丸 方形となる。掘り方は他の建物と比較して大きく、深さ は14~28cmを測る。柱痕跡は20~38cmのほぼ円形を呈し 5ヶ所で確認された。柱穴の掘り方が桁と梁の方向に長 軸方向を合わせて掘り込まれ、南側の2本の角柱は斜め 方向に掘られるという官衙遺跡の建物に見られる特徴と ともに、柱痕跡全てが掘り方の内側に寄っている。これ らの類例は宮城県多賀城跡や栃木県下野国府跡、集落跡 では群馬県三ッ木遺跡などに見られる。また、建物の西 側にSA7・8、南側にSA26の区画施設が廻る。遺物 は、EB2から樹種がスギの柱材、柱穴の覆土から土師 器の破片が数点出土した。

SD20溝により南側の中柱が削平されていることから 平安時代以前の建物跡と考えられる。

S B 111掘立柱建物 (第16図)

A区南側中央20・21-21・22Gで検出され、10基の柱穴で構成される建物である。北西隅の柱穴は近年の削平により撹乱を受け、底面付近の検出となり、東側の柱穴の一部をSD20溝に切られる。梁行2間、桁行3間の南北棟の建物で、主軸方向はN-2°-Wである。規模は東西梁行4.5m、南北桁行4.8mを測り、面積は21.6㎡となる。柱間距離は南側梁行が西から2.4m、2.1mで、北側梁行は2.2m、2.3mとなり、西側桁行は南から1.5m、1.6m、1.7mで、東側が1.7m、1.6m、1.5mを測る。掘り方の平面形は38~88×34~60cmを測る円形または隅丸方形

で、深さは10~36cmである。柱痕跡はEB8で確認でき、 径20cmのほぼ円形を呈する。柱穴の覆土に橙色の焼土が 含まれ、焼失の可能性が考えられる。

EB1・6の覆土から須恵器、土師器破片が数点出土 した。SD20溝により東側の柱穴が切られることから平 安時代以前の建物と考えられる。

SB170·817掘立柱建物 (第17·18図)

A区南側ほぼ中央SB111の東、24・25-21・22Gで 2棟が重複して検出された。

SB170は梁行3間、桁行4間の南北棟の建物で、SB817を切る。主軸方向はN-3°-Wである。建物の規模は東西梁行5.6m、南北桁行7.7mを測り、面積は43.12㎡となる。柱間距離は南側梁行が西から1.9m、1.9m、1.8mで北側梁行は1.9m、1.8m、1.9mとなり、西側桁行は南から1.9m、1.9m、2.0m、1.9mで東側桁行は1.9m、2.0m、1.9m、1.9mを測る。また、この建物に付随する間仕切り柱(SP147・149)と考えられるものが内部に配置されている。確認された柱穴は16基で、掘り方の平面形は、62~114×62~108cmを測る隅丸方形または不正形で深さは22~44cmである。柱痕跡は径20~30cmの円形を呈し12ヶ所で確認された。EB2・3・9から樹種がクリの柱材が、EB1・3・10・11・13から8世紀末から9世紀初頭に属すると思われる須恵器の有台坏や壺、甕などが出土している。

SB817は梁行 3 間、桁行 4 間の南北棟の建物で、SB170に切られる。主軸方向はN-4°-Wである。建物の規模は東西梁行5.2m、南北桁行7.6mを測り、面積は39.25mとなる。柱間距離は南側梁行が西から1.8m、1.6m、1.8mで北側梁行も1.8m、1.6m、1.8mで東側桁行は2.0m、1.9m、1.9m、1.9m、2.0m、1.8mで東側桁行は2.0m、1.9m、1.8m、1.9mを測る。掘り方の平面形はSB170の柱穴に切られるものが大半を占めるため詳細は不明だが、42~86×34~55cmを測る隅丸方形と考えられ、14基の柱穴が確認された。

柱痕跡は検出されなかったが、EB13から須恵器の蓋が出土している。柱穴の切り合いからSB170がSB817の後に建てられている。また、前述のSB170に付随した2本の間仕切り柱の他にも、間仕切り柱とも考えられるSP146・148・150・305が内部に配置されているが、どちらの建物に付随するかは不明である。

S B 180・181・500掘立柱建物 (第19~24図)

A区南東側SB170・817の東、21~23-21・22Gで3棟が重複して検出された。

S B 180は、柱穴13基で構成される建物で、北側梁行 の東から2本目の中柱は確認できない。南側梁行3間、 北側梁行2間、東西桁行4間の南北棟の建物となり、S B500に切られる。主軸方向はN-3°-Wである。建物 の規模は東西梁行が南側で5.8m、北側で5.5m、南北桁 行は西側で7.1m、東側で6.8mを測り、面積は39.25㎡と なる。柱間距離は、南側梁行が西から2.0m、1.8m、2.0 mで、北側梁行は1.9m、3.6mとなり、西側桁行は南か ら2.1m、1.6m、1.6m、1.8mで、東側桁行は1.7m、1.6m、1.7 m、1.8mを測る。掘り方の平面形は74~112×72~110 cmを測る隅丸方形や不整形で、深さは7~60cmである。 柱痕跡は20~34cmのほぼ円形を呈し、全ての柱穴で確認 された。柱痕の覆土に、橙色焼土が含まれていることか ら焼失した可能性が考えられる。EB4から8世紀末頃 と考えられる須恵器の無台坏、EB9から須恵器の甕破 片、EB1・5から須恵器や土師器の破片が出土した。

SB500は、柱穴12基で構成される梁行3間、桁行3間の南北棟の建物で、SB180を切る。主軸方向はN-2°-Wである。建物の規模は東西梁行が南側で5.8m、北側で5.9m、南北桁行は西側で7.3m、東側で7.1mを測り、面積は42.86㎡となる。柱間距離は南側梁行が西から1.9m、1.9m、2.0mで、北側梁行は2.0m、1.7m、2.2mとなり、西側桁行は南から2.5m、2.2m、2.6mで、東側桁行は2.4m、2.2m、2.5mを測る。掘り方の平面形は66~105×56~90cmの隅丸方形や円形を呈し、深さは12~44cmを測る。柱痕跡は20~32cmのほぼ円形で、EB8以外の柱穴で確認できた。SB500はSB180が焼失した後に建て替えられた建物と思われる。SB500の柱穴の覆土にも橙色の焼土が含まれ、覆土の状況から柱を建てる際にSB180の焼土が混入したと考えられるが、SB500自体の焼失の可能性もある。

遺物はEB11から樹種がクリの柱材が、EB2・6・10の覆土から8世紀末に属すると思われる須恵器の蓋や有台坏、土師器の破片が出土している。

S B 181も柱穴12基で構成される梁行3間、桁行3間の南北棟の建物で、S B 180の柱穴を切る。主軸方向は $N-5^{\circ}-W$ である。建物の規模は東西梁行が南側で5.0

m、北側で4.9m、南北桁行は5.6mを測り、面積は28.22 mとなる。柱間距離は南側梁行が西から1.8m、1.5m、1.7 mで、北側梁行は1.6m、1.5m、1.8mとなり、西側桁行は南から2.0m、1.7m、1.9mで、東側桁行は2.0m、1.8m、1.8 mを測る。掘り方の平面形は22~52×22~42cmを測る隅丸方形や楕円形で、深さは6~28cmである。柱痕跡は確認できなかった。SB181は、柱穴の規模などから足場柱穴の可能性も考えられる。遺物の出土は無い。

S B 250掘立柱建物 (第25図)

A区中央部東端24-25・26Gで検出されたSB280と同規模で、主軸方向も一致する掘立柱建物である。柱穴 9基で構成される梁行2間、桁行2間で中央にも柱を持つ総柱の建物である。主軸方向はN-1°-Wとなる。建物の規模は東西梁行と南北桁行ともに3.4mを測り、面積は11.56㎡となる。柱間距離は南側梁行が西から1.8m、1.6mで、北側梁行は1.7m、1.7mとなり、西側桁行は南から1.7m、1.7mで、東側桁行は1.8m、1.6mを測る。掘り方の平面形は40~91×37~70cmを測る隅丸方形や円形などで深さは6~32cmである。南側の柱穴が水田段差の削平のために浅くなっている。柱痕跡は4ヶ所で確認でき、径18~20cmのほぼ円形を呈する。建物の規模・構造から倉庫と考えられる。遺物の出土は無い。

S B 280掘立柱建物 (第26図)

A区中央部東側の22-25・26Gで検出されたSB250と同規模で、主軸方向も一致する掘立柱建物である。柱穴9基で構成される梁行2間、桁行2間で、中央にも柱を持つ総柱の建物である。主軸方向はN-1°-Eとなる。建物の規模は東西梁行が3.5m、南北桁行は西側で3.5m、東側で3.6mを測り、面積は12.43㎡となる。柱間距離は南側梁行が西から1.8m、1.7mで、北側梁行は1.8m、1.7mとなり、西側桁行は南から1.7m、1.8mで、東側桁行は1.8m、1.8mを測る。掘り方の平面形は35~77×28~69cmを測る隅丸方形や楕円形などで、深さは6~38cmである。SB250と同様に南側の柱穴が削平のために浅くなっている。柱痕跡は2ヶ所で確認でき、径24cmのほぼ円形を呈する。建物の規模・構造から倉庫と考えられる。EB4の覆土から底部へラ切り無台坏の小破片が出土している。

S B 570掘立柱建物 (第27図)

A区中央部西端の13・14-25・26Gで検出された。S

D468とSE465に東側の柱穴の一部が切られ、SP566を含め10基の柱穴が確認された。南側梁行2間、北側梁行3間で、桁行3間の南北棟の建物である。主軸方向はN-9°-Wとなる。建物の規模は東西梁行が南側で5.2m、北側で5.4m、南北桁行は5.6mを測り、面積は29.68㎡となる。

柱間距離は南側梁行が西から2.5m、2.7m、北側梁行は1.9m、2.0m、1.5mとなり、西側桁行は南から1.6m、2.2m、1.8mで、東側桁行も西側桁行の柱間距離と対応すると考えられる。柱痕跡は2ヶ所で確認でき径22~26cmのほぼ円形を呈する。遺物はEB2の覆土から土師器の破片が出土した。

S B 759・801掘立柱建物 (第28・29図)

A区南側東端の26・27-20・21 G で、2 棟が重複して 検出された。

SB759は柱穴10基で構成される梁行2間、桁行3間の南北棟の建物で、SB801に切られる。主軸方向はN-14°-Wとなる。建物の規模は東西梁行が南側で4.6m、北側で4.8m、南北桁行は西側で5.6m、東側で5.5mを測り、面積は26.09㎡となる。柱間距離は南側梁行が西から2.3m、2.3mで、北側梁行は2.4m、2.4mとなり、西側桁行は南から2.0m、1.7m、1.9mで、東側桁行は2.1m、1.7m、1.7mを測る。掘り方の平面形は64~110×62~90 cmを測る隅丸方形や楕円形を呈し、深さは14~48cmである。柱痕跡は確認できなかったがEB2から礎板が出土した。

SB801も10基の柱穴で構成される梁行2間、桁行3間の南北棟の建物で、SB759を切る。主軸方向はN-14°-Wである。建物の規模は東西梁行が南側で4.7m、北側で4.7m、南北桁行は西側で5.3m、東側で5.4mを測り、面積は25.15mとなる。

柱間距離は南側梁行が西から2.5m、2.2mで、北側梁行は2.1m、2.6mとなり、西側桁行は南から1.9m、1.6m、1.8mで、東側桁行は1.9m、1.7m、1.8mを測る。掘り方の平面形は50~92×40~90cmを測る隅丸方形や不整形などで、深さは10~46cmである。柱痕跡は確認できなかった。遺物の出土は無い。

SB759とSB801は主軸方向が一致し、場所と建物の 規模もほぼ同じであることから、SB801はSB759の建 て替えと考えられる。区画施設内の他の建物と主軸方向 は違うが、区画施設内の建物の一部であった可能性も考えられる。

S B821掘立柱建物 (第30図)

A区の南東端とC区東端の、 $26 \cdot 27 - 18 \cdot 19$ GでA・C区にまたがり9基の柱穴が確認できた。一部、水路等のために調査できなかったが、柱間距離から柱穴の存在が考えられ、梁行3間、桁行3間の東西棟の建物と推測される。主軸方向はN-1°-Eとなる。建物の規模は南北梁行が3.9m、東西桁行は南側で4.6m、北側で4.7mを測り、面積は18.14mとなる。柱間距離が判別できるのは南側桁行のみで、西から1.5m、1.4m、1.7mとなる。

柱痕跡は2ヶ所で確認でき、径22~24cmのほぼ円形を 呈する。EB1から柱の根固めに使用されたと思われる 縄文時代の可能性がある凹石が出土し、EB5・6の覆 土から土師器の破片が出土している。

S B 860掘立柱建物 (第31図)

A区の南端とC区西側 $20\cdot 21-19\cdot 20$ GでA・C区にまたがり8基の柱穴が確認されたが、一部の柱穴が水路のために未確認である。また、梁行の東から2本目の中柱がSD20に破壊された可能性が高く、梁行3間、桁行3間の南北棟の建物と考えられる。主軸方向はN-1°-Wとなる。建物の規模は東西梁行が南側で5.2m、北側で4.9m、南北桁行は西側で5.4m、東側で5.6mを測り、面積は27.79㎡となる。

掘り方の平面形は54~100×44~66cmを測る隅丸方形や楕円形などで、深さは12~34cmである。柱痕跡は3ヶ所で確認でき径16~24cmのほぼ円形を呈する。EB3・5の覆土から須恵器と土師器の破片が出土した。

(3) 区画施設(第32·33図)

B区南西側からC区西側、そしてA区中央南側に連続して検出された柱列で、南面の一部がSD20溝に切られている。B区の南側でSD28が東西方向に構築され、9-15Gでほぼ直角に北側に曲りSD7に続く。さらにC区を経て、A区でSA777に繋がる。途中、南西角でSD7の東に付帯施設もしくは造り替えとも考えられるSD8が確認された。また、SA777の東側では撹乱の影響か、不明瞭となるが、A区の19-23・24G検出された柱列まで続く可能性が考えられる。そして、SA26の2.5m東側に検出されたSD28も覆土の状況から区画施設の

一部とも考えられた。平面形は、径20~50cmの楕円形や 方形の小穴が連続しているプランとなり、全体形は南側 と西側に連続する、L字状の形態が確認された。

検出された長さは、南面が16.5m(S D28 含 b)、西面はS A777までで28m、 $19-23\cdot 24$ G O k D e

覆土は地山土の違いからか、B区の柱列は黒色、暗褐色、褐色シルトが堆積し、A・C区の柱列には黒色、黒褐色の粘質シルトが堆積する。 覆土から須恵器や土師器の小破片が数点出土している。

時期は、区画施設の軸線とほぼ一致する10棟の建物跡 と同時期の8世紀末から9世紀後半と考えられる。

(4) 合口甕棺

E U 1 合口甕棺 (第34図)

A区南西側の17-21Gで検出された。長径92cm、短径50cmを測り、平面形は楕円形を呈する。上部が削平されているため確認面からの深さは8cmと浅くなり、土器も約1/2の遺存となる。掘り込みは、埋納された土器より若干大きく、合口甕棺をほぼ南北方向に1基と、須恵器の無台坏を伏せた状態で1点埋納されている。

須恵器の無台坏から9世紀後半の時期と考えられる。

(5) 井 戸

井戸跡は6基確認され、A区西側に集中して検出された。全て素掘りの井戸で、土層断面から覆土は自然堆積と考えられる。時期は出土遺物から、概ね平安時代と考えられる。

S E 462井戸 (第34図)

A区西側14-25GでSE463・465の南側に隣接して検 出された。平面形は長径1.9m、短径1.7mを測り楕円形 を呈する。確認面からの深さは0.8mを測る。断面形は 開口部が広く、底がやや狭くなる台形状の形態で底面が 平坦な素掘りの井戸である。覆土は4層に分かれ、黒褐 色または黒色のシルトに褐色シルトを混入する。覆土か ら須恵器や土師器の破片が出土した。

S E 463井戸 (第34図)

A区南西側の14-25・26GでSE465の東側に隣接して検出された。平面形は径1.9mを測る円形を呈する。底面径は約60cm、確認面からの深さは80cmを測る。断面形は開口部が広く、底が狭くなる台形状の形態で、底面が平坦となる素掘りの井戸である。覆土は6層に分かれ黒褐色シルトに褐色シルトや酸化土が混入し、最下層はグライ化し粘土質となる。覆土から須恵器・土師器の破片が出土している。

S E 464井戸 (第35図)

A区南西側の14-26 GでSE 463の北側に検出され、SD468に西側を切られる。平面形は径1.7mを測る円形を呈する。底面径は約40cm、確認面からの深さは1.1mを測る。断面形は開口部が広く底が狭くなる台形状の形態で底面が平坦となる素掘りの井戸で、壁面に崩落が認められた。覆土は5層に大別され、概ね黒色や黒褐色のシルトで、3・4層は粘質となる。覆土から須恵器・土師器の破片が出土した。

S E 465井戸 (第35図)

A区南西側14-25・26GでSE413の西側で検出され、 東側をSD468に切られる。平面形は径1.8mを測る円形 を呈し、確認面からの深さは1.0mを測る。断面形は開 口部が広く、掘り方途中に段を形成した後、ほぼ垂直に 掘り下げられる台形状の形態で、底面は中央が弧を描く レンズ状となる素掘りの井戸である。覆土は4層に分か れ、概ね黒褐色のシルトまたは粘質シルトとなる。3層 に拳大の礫を含む。出土遺物は無い。

S E 516井戸 (第35図)

A区側14-23GでSE523の南側に検出された。平面 形は長径1.5m、短径1.4mの楕円形を呈し、確認面から の深さは1.0mを測る。断面形は開口部が広く斜めに掘 りこまれ、底が狭くなる円錐状の形態の素掘りの井戸で ある。覆土は概ね上層が極暗赤褐色のシルトで、下層は 黒色または黒褐色のシルトとなる。覆土から須恵器・土 師器の破片が出土した。

S E 523井戸 (第35図)

A区南西側の14-23GでSE516の北側に検出された。 平面形は径1.2mを測る円形を呈し、確認面からの深さは0.7mを測る。断面形は開口部が広く、掘り方途中に 段を形成しながら斜めに掘り込まれ、底が狭くなる台形 状の形態で、底面が平坦な素掘りの井戸である。覆土は 2層の黒色シルトであり、赤褐色の焼土が混入する。覆 土から須恵器・土師器の破片が出土した。

(6) 土坑・性格不明遺構

今回の調査で検出された土坑・性格不明遺構は、90基を数える。A区西側とC区近辺に多く分布し、楕円形や方形の平面プランを呈した比較的浅いものが大半を占める。出土遺物から、時期は奈良時代後半から平安時代に所属すると考えられる。

S K 31土坑 (第36図)

B区中央部西寄り22-17Gで検出された。平面形は長辺2.0m、短辺1.0mを測り不整形を呈する。確認面からの深さは10~20cmを測り、断面形は北側が深く南側が浅くなる形態となる。覆土は3層に分かれ、底面には砂が堆積する。遺物は、覆土から内外面に黒色処理が施された脚部が出土している。

S K 45土坑 (第36図)

B区中央部東寄り26-16Gで検出された。平面形は長径1.9m、短径1.1mの不整楕円形を呈する。確認面からの深さは6~10cmを測り、断面形は北側が深く南側が浅いレンズ状の形態となる。覆土は4層に分かれるが概ね上層には黒色のシルト、下層には黄褐色粘土が堆積し、1・2層には炭化粒が混入する。覆土から8世紀末頃に属すると思われる須恵器の蓋や有台坏、無台坏などが出土している。

S K73土坑 (第36図)

A区南側の東端28-22Gで検出され、東側が調査区外に延びるため平面形は不明で、確認面からの深さは15~20cmを測る。断面形は壁面が緩やかに立ち上がり、底面が平坦なほぼ台形状を呈する。覆土は5層に分かれるが、黒褐色シルトで酸化鉄や黄褐色のシルトが混入している。覆土から須恵器の短頸壺の蓋が出土した。

S K 154土坑 (第36図)

A区南側の24-20Gで検出され、東側隅をSP760に

切られる。平面形は長径1.0m、短径0.6mの楕円形を呈する。確認面からの深さは10cmを測る。断面形は壁面が急角度で立ち上がり、底面が平坦となる台形状となる。 覆土は2層に分かれ黒色と黒褐色のシルトで、1層に炭化物が混入する。遺物は覆土から須恵器の蓋が出土した。

A区南東側23・24-22・23Gで検出された。平面形は 長辺2.6m、短辺2.0mの隅丸長方形を呈する。確認面か らの深さは15cmを測る。断面形は壁面が緩やかに立ち上 がり、底面が平坦となる台形状となる。覆土は黒褐色シ ルトと灰黄褐色シルトの2層に分かれ、1層に微量の炭 化物が混入する。覆土から須恵器の甕片と蓋が出土した。

S K 219土坑 (第37図)

S K 169土坑 (第36図)

A区南側21-21GでSB111の東側に検出された。平面形は長径2.3m、短径1.5mの楕円形を呈する。確認面からの深さは20cmを測る。断面形は底面に凹凸があるレンズ状となる。覆土は1層で黒色シルトに炭化粒が含まれる。覆土から須恵器の無台坏や、8世紀末から9世紀初頭と考えられる有台坏が出土した。

S K 411土坑 (第37図)

A区南西側15-23Gで検出され、北側でSP409を切る。平面形は長径2.2m、短径1.3mの楕円形を呈する。確認面からの深さは10cmを測る。断面形は壁面が緩やかに立ち上がり、底面は平坦となる台形状となる。覆土は3層で黒色と暗褐色のシルトに分かれる。遺物は覆土から須恵器の蓋、有台坏、無台坏、土師器の鉢など8世紀末頃の所産と思われる土器が出土している。

S K 765土坑 (第37図)

A区中央部南端24-20Gで検出された。平面形は長径 0.9m、短径0.5mの楕円形を呈する。確認面からの深さは20cmを測る。断面形は壁面が急角度で立ち上がり底面が平坦な台形状となる。覆土は3層に分かれ、概ね黒褐色シルトと黒色シルトになる。覆土から須恵器の甕片が出土している。

S K 767土坑 (第37図)

A区中央部南端24-20Gで検出された。平面形は長径 0.8m、短径0.6mの不整形を呈する。確認面からの深さは5~20cmを測る。断面形は、周縁部が浅く中央部が深くなる形態となる。覆土は2層で黒色シルトと黒褐色砂質シルトに分かれる。須恵器の鉢片が覆土から出土した。

S K 852土坑・S X 851性格不明遺構 (第37図)

C区中央部22-19Gで検出され、土層断面からSK 852をSX851が切ると考えられた。

S K852の平面形は東側を S X851に切られる、長径1.5 m以上、短径1.2mの楕円形で、断面形は壁面が緩やかに立ち上がるレンズ状になると考えられる。確認面からの深さは15cmを測る。覆土は1層の黒色シルトでにぶい 黄褐色シルトが含まれる。

S K851の平面形は長辺2.1m、短辺0.9mの長方形を呈し、確認面からの深さは20cmを測る。断面形は壁面が急角度で立ち上がり底面が弧を描く形態となる。覆土は2層に分かれ黒色と暗褐色のシルトとなる。

出土遺物は、SK852・SX851の覆土から9世紀初頭の所産と思われる須恵器や土師器の坏や甕破片などが出土している。

S X 316性格不明遺構 (第38図)

A区西側17-23・24GでSD312に隣接して検出された。平面形は長径6.2m、短径2.2mの不整楕円形を呈する。確認面からの深さは10~25cmを測り、南側が深く掘り込まれる。断面形は、壁面は急角度で立ち上がり、底面は凹凸で、南側から北側にかけて浅くなる形態となる。覆土は4層に分かれるが、概ね黒色シルトににぶい黄褐色シルトが含まれる。

覆土からこね鉢、黒色土器の他に8世紀末頃の所産と 考えられる須恵器の無台坏が出土している。

S K 785~787土坑、S X 783·784性格不明遺構 (第38図)

A区南端23・24-20Gで5基が重複して検出され、南半が調査区外に延びることから、検出段階では判別できなかったが、土層断面及び各土坑の深さから5基の重複と判断した。平面形は概ね楕円形や隅丸方形で、断面形は台形状になると考えられる。確認面からの深さは、SX783は30cm、SX784は45cm、SK785は20cm、SK786は40cm、SK787は20cmを測り、切り合い関係は、SX784はSX783・785を切り、SK785とSK787がSK786を切っていると考えられる。覆土に炭化粒や橙色焼土が混入している。

遺物は、覆土から須恵器の蓋、有台坏、無台坏、壺や 土師器の甕、黒色土器などが出土し、須恵器の有台坏と 無台坏には墨書が書かれたものがある。出土土器の年代 は9世紀中葉~末の所産と考えられる。

(7) 河 川

S G 55河川 (第39·40図)

SG55は、B区東端30・31-15~17Gで検出された南北方向に延びる河川である。調査区の関係から一部の検出になった。底面の高低差より北から南に流れていたと考えられる。幅5.5mで、確認面からの深さは20~40cmであるが、土層断面に撹乱が認められることから、上部にかなりの削平を受けていると考えられる。一部、底面に土坑状に深い部分が確認された。覆土は概ね、黒褐色や黒色の粘土質のシルトになり、部分的にグライ化が見られた。底面及び覆土から多量の須恵器、土師器、黒色土器などが出土し、中には墨書・刻書土器が35点含まれる。土器は8世紀末から9世紀末に属するものも出土しているが、9世紀中葉から後半の土器が多く認められる。

(8) 溝

溝は、大小合わせて38条確認したが、連続する同一の 溝でありながら別番号を付したものや近代以降のものも 含まれる。分布状況は、A区に多くB・C区は希薄にな る傾向が認められたが、SD20はA・B・Cを縦断して いる。時期は、概ね平安時代と近世に大別される。

S D 20溝 (第41図)

調査区の20・21-15~29Gで検出された。A~C区まで調査区の中央を南北に縦断する溝で、SB56・860・111を切る。長さ70.5mに渡り検出されたが、南側はほ場整備による削平が認められることから、さらに調査区外にも延びていたと考えられる。幅1.0~1.7m、確認面からの深さ10~30cmを測り北側が浅くなる。断面形は壁面が斜めに立ち上がり、底面が平坦となる台形状を呈する。覆土は、黒褐色シルトや黒色粘土を上層に堆積し、底層に砂や小礫を多く堆積する。遺物は、須恵器の無台坏や壺など9世紀代に属すると思われる土器が出土した。

S D 54溝 (第39図)

SD54は、SG55の南東側の32-15Gで検出された東西方向の溝で、東側が調査区外に延びる。幅0.2~0.4mで、確認面からの深さ20~40cmを測る。断面形は壁面が急角度で掘りこまれ底面が細くなるV字状になる。覆土は2層で、黒色シルトと黒褐色の砂混じりシルトになる。

S D 701溝 (第42図)

A区北端15~18-35 G、SH700の北側で検出された 調査区を東西に横断する溝である。調査区内では長さ18 mを測るが、東側は調査区外、西側は削平により検出さ れなかったことから、さらに東西方向に延びると考えら れる。幅0.7~1.0m、深さ15~25cmを測り、東側で浅く なる。断面形は壁面が緩やかに立ち上がり底面は弧を描 くレンズ状を呈する。覆土は1層で、黒色シルトににぶ い黄色褐色シルトが含まれる。覆土から近世の陶器の皿 が2点出土した。遺物から、時期は16世紀後半から17世 紀初頭と推測される。

S D 789溝 (第42図)

A区西側14-29・30Gで検出された南北方向の溝で、 長さ6.5mを測り、東側でSD312を切る。幅50cm、確認 面からの深さ5~10cmと浅い。断面形は、壁面が急角度 で立ち上がり底面が平坦となる台形状を呈する。覆土は、 黒褐砂質シルトで、小礫が混入する。出土遺物は無い。

S D286 · 287溝 (第42 · 43図)

S D 286は A 区中央15~19~25~33 G で検出され、東側で検出された S D 287と南北方向に平行に走る。16~32 G 及び19~26 G で西側に屈曲して分岐する溝が構築され、15~32 G で S D 364、17~26 G では S D 312 に接する。長さは、南北方向が42 m、東西方向が北側で 5 m、南側で12.5 mとなる。土層断面から、拡幅している様子が窺われる。溝が分岐する19~26 G から積み重ねられた径20 cm大の礫が検出された。溝分岐に伴う流路変更の施設とも考えられる。幅0.5~1.0 m、確認面からの深さは10~30 cmを測り、南側で幅が広く深くなる。断面形は U 字またはレンズ状を呈する。南側が水田段差で削平されていたことから、さらに南に延びていた可能性も考えられる。覆土から須恵器の破片と共に近世の陶磁器が出土した。

SD287はA区中央16~20-25~33Gで検出され、西側のSD286と南北方向に平行に走る溝である。20-27 G付近で東側に延びる細い溝が構築されている。検出できた長さは41.5mであるが、北側で一部不明瞭になる。また、SD286と同様に南側に延びていた可能性がある。幅は20~30cm、確認面からの深さは6~15cmを測り、断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色のシルトや砂質シルトが堆積する。出土遺物は無い。

S D 287と S D 286の間は幅2.0~2.5mの道路だった可能性も考えられる。道路の硬化面など確認できなかった。

S D 300溝 (第43·44図)

A区南西側17・18-20~23Gで検出された南北方向の 溝で、SD311とSD313に切られる。調査区内での検出 された長さは19mであるが、さらに南側に延びると考え られる。幅は0.7~1.0m、確認面からの深さ20~25cmを 測る。断面形は壁面が急角度で、底面が平坦となる台形 状となるが、北端のみ壁面が緩やかに立ち上がり、底面 が弧を描くレンズ状の形態となる。覆土は、黒褐色シル トが主に堆積し、4層の黒色シルトに炭化物が含まれる。 覆土から須恵器の甕片や土師器片が出土した。

S D311溝 (第43·44図)

A区南西端14~18-22Gで検出された東西方向の溝で、東端で近世の撹乱を受ける。SX400、SD468・312・300を切り、SD480・364に切られる。調査区内で検出された長さは約19.5mを測るが、さらに西側の調査区外に延びる。幅70~90cm、確認面からの深さは10~40cmを測り、断面形は東西端は壁面が緩やかに立ち上がり底面が弧を描くレンズ状で、中央部は壁面が急角度で底面が平坦となる台形状を呈する。覆土は黒褐色、暗褐色、褐色のシルトが主に堆積し、砂の層が混じる。覆土から土師器の有台坏・甕の破片などが出土した。

S D312溝 (第42~44図)

A区南西側14~17-22~29 Gで検出された S D 311・313・364・789に切られ、S D 333を切り、S D 286と接する溝である。南側の18-22 G から北側に延び、S D 286と接する18-27 G 付近から西側に曲り、16-27 G で S D 789に切られる。南から西方向に曲る溝となる。検出された長さは40mで、幅40~60cm、確認面からの深さ10~25cmを測る。断面形は台形状やレンズ状を呈し、15-28 G 付近で幅が広くなっている。覆土は大半が1層の黒褐色粘土質シルトとなるが、17-23 G では、3 層に分かれ、暗灰黄褐色やにぶい黄褐色粘土質シルトが含まれ、黒褐色粘土質シルトが下層に堆積する。覆土から須恵器や土師器の破片が少量出土しているが、S D 311からの流れ込みの可能性が考えられる。

S D313・364溝 (第42~45図)

S D 313はA 区南端16~19-21~23 G で、S D 364はA 区西端15・16-21~32 G で検出された。別番号を付したが連続する溝と考えられる。17-22 G 及び16-22 G で S D 311を切る。南北方向から北東方向に屈曲する溝で、

長さ70.5mで、幅20~70cm、確認面からの深さ5~40cm を測り、南側及び北西側が細く浅くなる。断面形は北側がU字状の形態で、南と北西側は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルト、褐色シルトに大別される。覆土から須恵器や土師器の破片が出土した。

S D333溝 (第42·43·45図)

A区南西側14~18-24~27 Gで検出された北西から南東方向の溝で、西側でSD364に東側でSD312に切られる。長さ28.5mで幅18~24cm、確認面からの深さ5~25cmを測る細く深い溝である。断面形は、壁面がほぼ直角に立ち上がり、底面が平坦になる箱型の形態を呈する。覆土は1層で、黒褐色シルトである。遺物の出土は無い。SD468溝(第42・43・45図)

A区西側14・15-21~28Gで検出された南北方向の溝で、14-27Gで一部不明瞭になり、S E $464 \cdot 465$ を切り、南側でS D 311に切られる。S D 311の南側は削平のためか極端に細くなる。長さ38.5mで幅20~90cm、確認面からの深さは8~18cmを測る。断面形は壁面が緩やかに立ち上がり、底面が平坦となる台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトが堆積し、1 層に炭化物が含まれる。

S D645溝 (第43·45図)

A区西端12~14-23・24Gで検出された。西側から南側に曲線を描く溝である。SK655・657・660に切られる。調査区内での長さ11.0mで、さらに西側の調査区外に延びる。幅1.4~3.2m、確認面からの深さ15~35cmを測る。断面形は西側では壁面が急角度で立ち上がり底面が平坦な台形状となるが、南側は壁面が緩やかに立ち上がり、底面が弧を描くレンズ状となる。覆土は3層に分かれるが、概ね黒色と褐色のシルトとなり、暗褐色シルトがブロック状に堆積する。遺物は、須恵器や土師器、黒色土器の有台坏、無台坏、甕などが覆土から出土し、有台坏には底部に墨痕がある転用硯がある。出土土器は8世紀末から9世紀初頭に属すると考えられる。

S D 480溝(第43·45図)

2 出土遺物

今回の調査では、縄文時代・古墳時代・奈良時代・平安時代・中世・近世の遺物が出土した。出土箱数は、整理箱で40箱を数える。時期の割合は、奈良~平安時代の遺物が多数を占め、その他の時期は少数に限られる。出土遺物は、全体的に遺存状態が悪く、状態の良いものについて抽出を行い報告書に掲載した。

(1) 縄文時代の遺物 (第47・72図)

縄文時代の遺物は、縄文土器297が出土した。全体的に磨滅する。器形は深鉢で、体部の粘土紐積み上げより破損した破片とみられる。地文は、LR縦転がしである。地文施文後、渦巻文と懸垂文が沈線で描出されている。外面は褐色、内面は黒褐色を呈する。時期は、縄文時代中期中葉大木8b式と考えられる。他にSB821-EB1から縄文時代の可能性がある凹石が出土している。

(2) 古墳時代の遺物(第53図)

古墳時代の遺物は、土師器の高坏または器台の脚部と みられる75がある。細砂・赤色粒が混入する胎土で、全 体的に磨滅する。坏部は黒色処理とミガキが施される。 75が出土したSK524からは、奈良・平安時代の須恵器 無台坏・甕が出土しており、75は流れ込みと考えられる。

(3) 奈良・平安時代の遺物 (第46~71図)

奈良・平安時代の遺物は、土器・木製品・石製品がある。土器には、須恵器と土師器がある。土師器は製作技法により、ロクロを使うものと使わないものがある。さらに、土師器の中で、内面または内外面に黒色処理を施したものがある。黒色処理された土師器は、黒色土器と呼称する。土器の器種には、坏類の食膳具(供膳具)、鉢・甕等の煮炊具、壺・甕等の貯蔵具がある。木製品には、掘立柱建物の柱材がある。石製品には、掘立柱建物の根固め石がある。

土器の分類

本遺跡から比較的まとまって出土した須恵器の無台坏について、寸法及び器形などの観点から分類をおこなった。分類の基準は以下のとおりである。

寸法で5類に分類

A類 底径 9 cm以上、器高4.5 cm未満のもの

B類 底径7cm以上9cm未満、器高4.5cm未満のもの

C類 底径7cm以上9cm未満、器高4.5cm以上のもの

D類 底径7cm未満で、器高4.5cm未満のもの

E類 底径 7 cm未満で、器高4.5cm以上のもの

器形で3類に細分

a類 体部が内湾ぎみに立ち上がるもの

b類 体部が直線状に立ち上がるもの

c 類 口縁部が外反するもの

底部の切り離し技法で3類に細分

1類 底部切り離しが回転ヘラ切りのもの

2類 底部切り離しが静止糸切りのもの

3類 底部切り離しが回転糸切りのもの

SB170掘立柱建物出土遺物 (第46図)

須恵器有台坏・壺・甕、木製品柱材がある。須恵器有台坏1は、内底面が大きく平坦なつくりで、体部下半は丸みを帯びる。底部および高台が厚く、胎土は砂礫を多く含む。底部に墨痕がある。2は、体部下半の屈曲が明瞭な稜碗である。3・6は須恵器壺で、3の体部下半に刻書「×」がある。4・5は、須恵器甕で外面平行タタキ、4の内面は円形アテ痕とナデ、5の内面は平行アテ痕が認められる。2・3・5・6の胎土に、黒色粒が大量に混入する。7・8は、木製品柱材で、樹種はクリである。遺存状態は良くないが、芯持ち材であったとみられる。

S B817掘立柱建物出土遺物 (第47図)

須恵器蓋9がある。つまみ径は3.5cmを測る。内面自 然釉が付着し、胎土は黒色粒・細砂を含み粗雑である。

S B 180掘立柱建物出土遺物 (第47図)

須恵器無台坏・甕がある。無台坏10は、分類Aa1に属する。体部下半に緩やかな屈曲を持ち、底部が厚く凹がある。無台坏甕11は、外面平行タタキ・内面青海波アテが認められる。胎土は黒色粒を多量に含み、黒色吹き出しが特徴的である。図示していないが、EB8から、刻書「×ヵ」がある須恵器無台坏底部片が出土している。

SB500掘立柱建物出土遺物 (第47図)

須恵器蓋・有台坏・無台坏がある。有台坏13は、体部下半に明瞭な稜をもつ稜碗である。体部上半から口縁部は緩やかに外反し、体部上半にはロクロナデの凹凸が残る。図示していないが、EB7・11から須恵器無台坏で底部回転へラ切りの小破片、EB3から須恵器坏類で体

部ロクロナデの凹凸が残る小破片が出土している。

S B 821掘立柱建物出土遺物 (第47図)

14は、出土状況より柱穴の根固め石として機能したと考えられる。平坦な2面に凹部があり、その形状から縄文時代の凹石の可能性が高い。

EU1合口甕棺出土遺物 (第48図)

須恵器無台坏、土師器甕がある。須恵器無台坏17は、 分類Eb3に属する。口唇部が肥厚し、体部ロクロナデ の凸凹が明瞭である。内外面に茶色の汚れが残る。

土師器甕15・16は、1/2以下の遺存で、全体的に磨滅している。15は外面全体に、16は外面体部上半に被熱痕がある。15は底部が平坦で、頸部は短く口縁部は緩やかに外反する。粘土輪積み痕は不明瞭であるが、輪積み幅は3~4cmとみられる。土師器甕16は、頸部は短く口縁部が外反する。外面にはハケメが施され、粘土輪積み幅は4cm前後である。体部上半には7×4cm大の楕円形の孔があり、穿孔の可能性がある。

S K31土坑出土遺物 (第48図)

黒色土器18がある。18は内外面に細かいミガキが施された精緻なつくりである。高坏などの脚部とみられる。

S K 73土坑出土遺物 (第48図)

須恵器蓋19がある。19は体部中央部に重ね焼きの痕跡が認められ、胎土に黒色粒が混入する。口唇部が玉縁状になり、内面に凹がある。短頸壺の蓋とみられる。

S K 45土坑出土遺物 (第48図)

須恵器蓋・有台坏・無台坏がある。有台坏21は、底部 回転ヘラ切りで高台が剥離している。無台坏22・23は底 部回転ヘラ切りで、底径は9cmを超える。23は底部が厚 く、体部下半にヘラケズリが施される。

S K 219土坑出土遺物 (第49図)

須恵器有台坏がある。24・25の胎土は黒色粒が混入する。24は底部回転ヘラ切りで、高台がハ字状に張り出す。

S K 169土坑出土遺物 (第49図)

須恵器蓋・甕がある。蓋26は、内面自然釉が付着し、つまみ径は2.7cmを測り厚みがある。甕27は、外面平行タタキ、内面青海波アテ、28は内外面平行タタキが施される。26~28の胎土は黒色粒・細砂を含み粗雑である。

S K 411土坑出土遺物 (第49図)

須恵器蓋・有台坏・無台坏、土師器鉢がある。有台坏 30は、焼成が甘く乳白色である。全体に薄い作りで、体 部下半に緩やかな稜を持つ。磨滅しているが、体部に細かいロクロナデが残る。無台坏31は、赤褐色で分類Ab1に属する。体部ロクロナデは不明瞭で内底面に凹凸がある。土師器鉢32は、全体に磨滅し外面に被熱痕がある。

S K 765土坑出土遺物 (第49図)

須恵器壺33がある。胎土は、9・19・26の蓋と類似し 粗雑である。口縁部がつまみ出され、端部に面を持つ。 胎土および寸法から、蓋19とセットになる可能性がある。

S K 767土坑出土遺物 (第49図)

須恵器鉢34がある。焼成が甘く乳白色を呈する。胎土 に黒色粒が混入する。頸部が短く、外側に屈曲する。

S K 852土坑・S X 851性格不明遺構出土遺物 (第49・ 50図)

S K 852·S X 851は、S K 852→S X 851の重複関係で、 出土遺物は接合する。須恵器蓋・有台坏・無台坏、土師 器無台坏・甕・鉢がある。

須恵器蓋35は、胎土が9・19・26の蓋と類似する。遺存する器高は2.1cmで、扁平な作りである。有台坏36・37は、体部下半に稜を持つ稜碗である。胎土は緻密で、37は黒色粒が混入する。底部回転ヘラ切りで、底部は厚く、内底面が緩やかに落ち込む。無台坏38・39は、分類Bb1に属する。胎土はともに黒色粒が混入し、38が緻密、39が粗雑である。38は体部外面ロクロナデが細かく残る。

土師器は全体的に磨滅し、調整は不明瞭である。無台 坏40・41は、外面に被熱痕がある。40の底部~体部は丸 みを帯びるが、41は屈曲して立ち上がる。甕42・43は口 縁部破片で、外面に被熱痕がある。頸部は短く外側に屈 曲する。甕44・45は底部破片で、底部に木葉痕がある。 45は、内面にハケメが施され、体部が外側に開く。

S X 316性格不明遺構出土遺物 (第50図)

須恵器無台坏・こね鉢、黒色土器無台坏がある。無台 坏46は、分類Ab1に属し、箱型である。焼成が甘く乳 白色を呈する。体部ロクロナデは不明瞭で、内底面に凹 凸がある。こね鉢47は、内外面ロクロナデが施され、底 部の切り離しは不明である。内外面に火はねがみられ、内底面が凹状に破損している。46・47の胎土は、9・19・26の蓋と類似し粗雑である。

黒色土器皿48は、全面に丁寧なミガキが施される。外面には、ケズリで成形された痕跡が認められる。

SK785~787土坑、SX783·784性格不明遺構出土遺

物 (第51~53図)

5基の遺構が重複し、出土遺物は接合する。須恵器蓋・ 有台坏・無台坏・壺、土師器甕、黒色土器無台坏がある。 須恵器蓋49~51のつまみは、51が2.6cmと小型で、49・ 50が3.4cmを測る。50の外面天井部に、「井ヵ」の刻書が ある。須恵器有台坏は、器高が7.2cmを測る深身の52と、 器高が4.2cmで浅い作りの54の二種がある。52は、体部 内外面に丁寧なロクロナデが施され、底部は回転ヘラ切 りである。底部外面に「□万ヵ」の墨書がある。53は、 底部回転糸切りで、高台が短い。底部外面に「丁ヵ」の 墨書がある。54は、体部内外面に丁寧なロクロナデが施 される。内底面が平坦で磨滅している。高台は細く短い。 55は、底部・高台が厚い。須恵器無台坏は、分類Bb3 の56、分類Db1の57、分類Db3の58・59、分類Ea3の 60、底部破片61・62、体部破片63~66がある。56は全体 的に薄く、内底面に凸凹がある。57は、底部が厚く内底 面に凸凹がある。58・59は、体部外面に細かいロクロナ デが施される。60は、底部が厚く円柱状に突き出し、体 部のロクロナデは凹凸が明瞭である。60~62は、底部に 墨書があるが、解読できない。67は、内外面ロクロナデ が施され、内面火はねが認められる。須恵器の胎土は、 黒色粒を含み緻密な49・52・53・58・64・65と、9・ 19・26などの蓋に類似して粗雑である50・51・54・55・ 56・57・59・60・62・63・66・67、黒色粒・海面骨針を 含み緻密な61に大別される。

土師器甕68~70は、底部破片で全体的に磨滅する。

黒色土器無台坏71は、内面が黒色処理されている。底部は平坦で木葉痕があり、体部は緩やかに丸みを持ち立ち上がり、内面ミガキ外面ナデが施される。

その他の土坑・性格不明遺構出土遺物 (第53・54図)

SK83から出土した須恵器蓋72は、黒色粒を含む緻密な胎土で外面に墨痕がある。墨痕は3つのまとまりがみられる。SK154から出土した73は、口径17cmと推定される大型の蓋で、胎土は粗雑である。SK410から出土した74は、大型の須恵器甕である。体部外面に平行タタキ、内面に同心円アテが施される。SK639からは、須恵器有台坏77・甕78が出土した。77は、底部回転糸切りで、高台は欠損する。内底面は平坦で、箱型を呈する。77・78の胎土は粗雑である。SK807から出土した須恵器有台坏80は、体部下半に稜を持つ稜碗で、胎土は小礫が混

入し粗雑である。S K 824から出土した須恵器無台坏81は、底部回転糸切りで、体部内外面にロクロナデの凹凸が明瞭に残る。S K 660から出土した皿79、S X 153から出土した無台坏83、及びS X 171から出土した無台坏84は、内面黒色処理・ミガキが施された黒色土器である。

S G55河川出土遺物 (第55~65図)

須恵器蓋・有台坏・双耳坏・皿・無台坏・鉢・こね鉢・ 甕・壺、土師器有台坏・無台坏、黒色土器有台坏・無台 坏など多様な器種がある。

須恵器蓋は、天井部が平坦になる88~91・93、天井部 が丸みを帯びる92がある。93は、体部が垂直に立ち上が り、天井部にケズリが施される。つまみ径は3.5cmを測り、 ゆがんで付着している。88は、つまみ内に墨書「田」が ある。須恵器有台坏は、体部下半に稜を持つ稜碗115~ 117、器高が5.5cmを超える深身の95・96・98・105、器 高が5.5cm未満の94・102~104・111・112がある。底部 切り離しは、回転ヘラ切りと回転糸切りがある。94は、 高台が高く坏部は箱型を呈し、底部にナデが施され刻 書「×」がある。98は、高台が低く体部は開き、口縁部 が外反する。体部に墨書「春ヵ」または「奉ヵ」が逆位 である。須恵器皿は、体部が扁平に開く119と、体部が 緩やかに立ち上がる118・120・121がある。118は、底部 回転糸切りの目が粗く、中心部が厚くなる。底部に「東 東」の墨書がある。底部内面に墨が付着し内底面が磨滅 することから、転用硯とみられる。双耳坏は、耳部122 ~125がある。耳部はケズリが明瞭に残る。須恵器無台 坏は、分類Ab1の126~129、Ba3の130、Bb1の131~ 138, Bb 3 \mathcal{O} 139 \sim 143, Da 3 \mathcal{O} 144 · 145, Db 1 \mathcal{O} 146 \sim 149、Db 3 \mathcal{O} 150~165、Dc 3 \mathcal{O} 166 · 167、Eb 3 \mathcal{O} 168~ 171、Ec 3 の172、底部破片173~186がある。23点の無 台坏底部に墨書がある。須恵器甕191・192は、大型で外 面平行タタキ内面同心円アテが施される。胎土は細砂が 混入し粗雑であるが焼成は良好である。須恵器壺は、短 頸壺199・200、長頸壺201、小型壺203がある。

土師器・黒色土器は全体的に磨滅している。211は底 部に網代痕がある。

溝出土遺物 (第66~68図)

S D 20からは、須恵器無台坏220と須恵器壺221が出土 した。220は底部回転糸切りである。S D 645からは、須 恵器有台坏・無台坏、土師器甕、黒色土器無台坏が出土 した。須恵器無台坏は、分類Ab1·Bb1·Bc1がある。 **墨書・刻書土器**(第73・74図)

墨書土器41点、刻書土器9点がある。SG55河川から 35点、区画施設内建物周辺から13点、西側遺構集中域か ら2点出土した。墨書の文字は、「禾 | が9点、「禾ヵ | が4点、「東東」・「玉木」・「直万」・「□万ヵ」・「田」・「上」・ 「干」・「丁ヵ」・「舂ヵ」または「奉ヵ」が各1点、「□」 が13点、墨痕が6点である。刻書の文字は、「× | が3 点、「×ヵ」が2点(未掲載1点を含む)、「大ヵ」・「井 ヵ」が各1点、「□」が2点である。種別は、墨書土器 はすべて須恵器で、刻書土器も底部に刻書「×」がある 土師器288以外須恵器である。墨書土器の器種は、無台 坏27点、有台坏11点、皿1点、蓋2点で食膳具に限られ る。一方刻書土器は、無台坏2点、有台坏3点、蓋2点、 壺1点、横瓶1点である。墨書の部位は坏類の底部が多 数を占め、体部に逆位で「春ヵ」または「奉ヵ」がある 有台坏98とつまみに「田」がある蓋88は例外的な印象を 受ける。「舂ヵ」は、山形市上敷免遺跡に出土例があり、 ウジ名の可能性が指摘されている(三上2007)。「禾」は、 一筆目を丁寧にはじき、達筆が多い。底部の上半に偏っ て小さく書かれた95・153・174、中央に大きく書かれた 176・178があるが、土器の時期差との関係は見出せない。 「禾」は遊佐町上高田遺跡に出土例(齋藤1998)がある。

遺物の年代観

本遺跡では、遺構出土の良好な一括遺物が無い。そ こで、量的にまとまりのある須恵器無台坏を寸法と形態 などから分類し、先行研究との対比によりおおよその時 期を特定したい。置賜地方の定点資料としては、米沢 市大浦 B 遺跡の漆紙文書具注暦延暦二十三年 (804) と 共伴するAN2出土遺物があるが、その出土状況からA N2出土遺物は、9世紀初頭を下らないと考えられてい る (手塚1993・阿部1999)。また、米沢市大神窯跡灰原 や川西町壇山1号窯跡資料は、AN2と同時期かやや先 行する時期が想定されている (阿部1999)。本遺跡の須 恵器無台坏分類Ab1は、大神窯跡灰原や壇山1号窯跡 資料に類似した形態・寸法をみることができる。また、 分類Ab1は、箱型を呈するものの全体的に薄い作りで 粗雑な印象から、高畠町山の神1号墳出土須恵器群(阿 部1999) とは異なり、山の神1号墳に後続すると考えら れ、8世紀後半の時期が想定される。須恵器無台坏Ea 3は、川西町道伝遺跡SD35に類似した形態・寸法をみることができる。本遺跡で最も新しい要素が読み取れるEa3は、内陸地方の定点資料山形市今塚遺跡SD377出土遺物との比較から9世紀第4四半期に入る可能性が高い。須恵器無台坏は、分類Bb1・Bb3がAb1に後続し9世紀前半、Da3・Db1・Db3・Dc3がEa3に先行する資料で、9世紀中葉と考えられる。須恵器皿118は、9世紀第3四半期とする長井市加賀塚遺跡資料(佐藤2006)に類似したものがある。

本遺跡の主な年代観は、SB170出土の稜碗2が小型化した大神窯跡窯体内資料と類似し9世紀初頭、SB180出土の須恵器無台坏180が分類Aa1で8世紀後半、SB500出土の稜碗13が大型で明瞭な稜の作りから壇山1号窯跡と類似し8世紀第4四半期の時期が想定される。SB56・111を切るSD20は、回転糸切りの須恵器無台坏220が出土することから9世紀代を遡らないとみられる。合口甕棺EU1は、須恵器無台坏17が分類Eb3に属し、9世紀後半の時期が考えられる。

(4) 中世の遺物(第72図)

陶器甕、磁器碗がある。292と293は同一個体の須恵器系陶器甕で、外面平行タタキ内面円形アテが施される。口縁部形態から珠洲Ⅱ期(吉岡1994)13世紀前半の時期と考えられる。295は、内外面青磁釉、高台内無釉である。龍泉窯青磁碗で、13世紀代の時期が考えられる。

(5) 近世の遺物(第66・72図)

陶器皿、磁器皿がある。陶器皿222~224は、瀬戸・美濃とみられる。SD286から出土した志野菊皿222は、内外面薄い長石釉で、底部に円錐ピン痕がある。SD701からは、志野丸皿223と稜皿224が出土した。223は内外面長石釉薬で、口縁部に油煙が残り灯明皿とみられる。222・223は瀬戸・美濃大窯編年の連房式登窯第1小期(藤澤2002)17世紀初頭の時期が考えられる。224は内外面灰釉で、16世紀後半の時期が考えられる。

磁器皿294・296は遺構外出土である。294は内外面透明釉で、外面下半無釉となる。内面に不明文が描かれる。296は内外面透明釉で、底部に籾殻痕がある。294・296は初期伊万里とみられ、II-1期(大橋2000)1610~1630年代と考えられる。

V 自然科学分析

放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ 小林紘一・丹生越子・伊藤 茂・廣田正史・瀬谷 薫 Zaur Lomtatidze・Ineza Jorioliani・佐々木由香

1 はじめに

山形県南陽市に位置する中落合遺跡より検出された 試料について、加速器質量分析法(AMS法)による放 射性炭素年代測定を行った。試料の調製は廣田、瀬谷、 Lomtatidze、Jorjoliani、測定は小林、丹生、伊藤が行い、 本文は伊藤、佐々木が作成した。

2 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。 試料は6点で、うち試料No.1~5の5点が掘立柱建物跡の柱穴から出土した柱材で、試料No.6の1点がS K786(第38図参照)から出土した炭化材片である。柱 材は、掘立柱建物跡SB170のEB2(試料No.1)とE B3(試料No.2)、EB9(試料No.3)の3点(出土 平面および断面位置は第17・18図参照)、SB500のEB 11(試料No.4)の1点(第22・23図参照)、SB56のE B 2 (試料No.5) の 1 点 (第14図参照) の計 5 点である。 樹種は試料No.1 \sim 4 が ρ リで、試料No.5 がスギであった (樹種同定の詳細は別項参照)。

試料No. $1\sim5$ の柱材はいずれも樹皮は遺存しておらず、また劣化により最外年輪は不明であった。試料No. $1\sim4$ の柱材については、残存しているうち、樹皮に近いと考えられる数年輪が採取された。この作業は山形県埋蔵文化財センターが行い、測定試料はそこからさらに外側の $1\sim3$ 年輪分を採取した。試料No. 5 の柱材は遺存したものから外側の1年輪分を測定試料とした。試料No. 5 は最外年輪以外部位不明である。

試料No.6の炭化材は遺存したものから外側の3年輪分を測定試料とした。また採取時に実体顕微鏡下で観察した樹種は広葉樹の散孔材で、最外年輪以外の部位不明であった。試料の採取位置および年代測定試料の写真を図1に示す。試料の想定年代はいずれも奈良・平安時代である。

試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS: NEC製 1.5SDH)を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

表 1 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-8243	調査区: A区 グリッド: 25-21 G 遺構: S B 170-E B 2 試料No: 1 層位: E B 2 - 1 層 深度:確認面より約40cm	試料の種類:生試料・材 器種:柱材(クリ:3年輪分) 試料の性状:最外以外樹皮に近い部分を採取 状態:wet 想定年代:奈良・平安時代	超音波洗浄 サルフィックス 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)
PLD-8244	調査区: A区 グリッド: 25-21・22G 遺構: S B 170-E B 3 試料No: 2 層位: E B 3-F 深度:確認面より約20cm	試料の種類:生試料・材 器種:柱材(クリ:2年輪分) 試料の性状:最外以外樹皮に近い部分を採取 状態:wet 想定年代:奈良・平安時代	超音波洗浄 サルフィックス 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)
PLD-8245	調査区:A区 グリッド:24-22G 遺構:SB170-EB9 試料No:3 層位:EB9-1層 深度:確認面より約30cm	試料の種類:生試料・材 器種:柱材(クリ:2年輪分) 試料の性状:最外以外樹皮に近い部分を採取 状態:wet 想定年代:奈良・平安時代	超音波洗浄 サルフィックス 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)

PLD-8246	調査区:A区 グリッド:22-21G 遺構:SB500-EB11 試料No:4 層位:EB11-3層 深度:確認面から約45cm	試料の種類:生試料・材 器種:柱材(クリ:1年輪分) 試料の性状:最外以外樹皮に近い部分を採取 状態:wet 想定年代:奈良・平安時代	超音波洗浄 サルフィックス 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N, 塩酸:1.2N)
PLD-8247	調査区:B区 グリッド:20-17G 遺構:S B 56-E B 2 試料No: 5 層位:E B 2 -F 深度:確認面から約20cm	試料の種類:生試料・材 器種:柱材(スギ:1年輪分) 試料の性状:最外以外部位不明 状態:wet 想定年代:奈良・平安時代	超音波洗浄 サルフィックス 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N, 塩酸:1.2N)
PLD-8248	調査区:A区 グリッド:23・24-19 G 遺構:S K 786 試料No: 6 層位:S K 786-15層(底面) 深度:確認面から約50cm	試料の種類:炭化物・材 器種:材(散孔材:3年輪分) 試料の性状:最外以外部位不明 状態:dry 想定年代:奈良・平安時代	超音波洗浄 サルフィックス 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1 N, 塩酸:1.2 N)

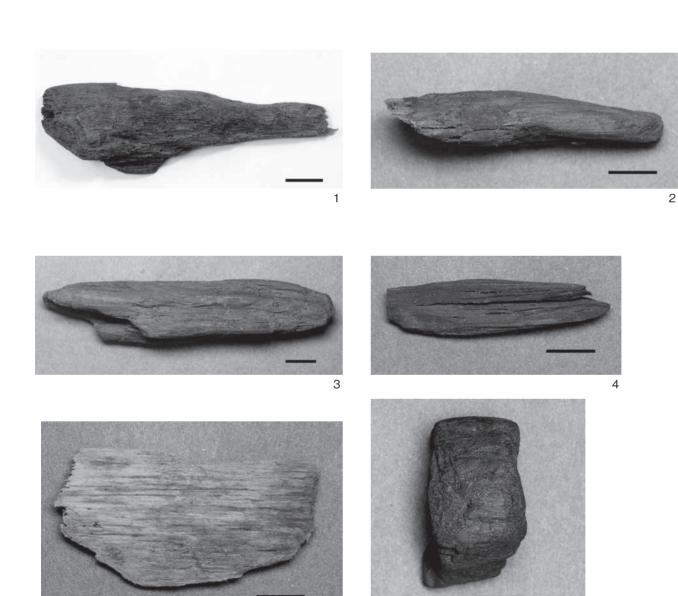


図 1-1 年代測定資料 (スケールバーは 1 cm、資料No. $1 \sim 4$ は元の材から一部採取されたもの)

6

5

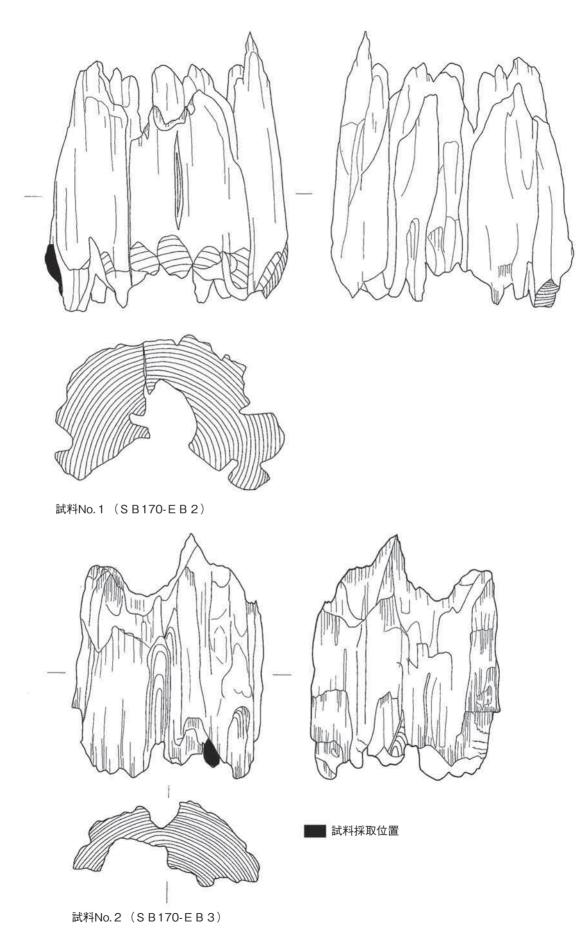


図1-2 試料No.1と2の採取位置(スケールは1/4)

3 結 果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比(δ^{13} C)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代範囲を、図2に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

 14 C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 14 C年代(yrBP)の算出には、 14 Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した 14 C年代誤差($^{\pm}$ 1 σ)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の 14 C年代がその 14 C年代誤差的に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

曆年較正

暦年較正とは、大気中の¹⁴ C 濃度が一定で半減期が 5568年として算出された¹⁴ C 年代に対し、過去の宇宙線 強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴ C 濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴ C の半減期5730 ± 40年)を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年較正にはOxCal3.10(較正曲線データ:INTCAL04)を使用した。なお、1 の暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2 の暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

表2 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	δ ¹³ C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	¹⁴C年代 (yrBP±1σ)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-8243 試料No: 1	-26.73 ± 0.25	1303 ± 17	1305 ± 15	665AD (43.6%) 695AD 700AD (1.8%) 710AD 745AD (22.9%) 765AD	660AD (65.6%) 730AD 740AD (29.8%) 770AD
PLD-8244 試料No.: 2	-23.88 ± 0.17	1302 ± 18	1300 ± 20	665AD (41.4%) 695AD 700AD (3.7%) 710AD 745AD (23.1%) 765AD	660AD (64.7%) 730AD 740AD (30.7%) 770AD
PLD-8245 試料No.: 3	-27.56 ± 0.17	1337 ± 19	1335 ± 20	655AD (68.2%) 680AD	640AD (90.9%) 700AD 740AD (4.5%) 770AD
PLD-8246 試料No.: 4	-26.87 ± 0.22	1271 ± 19	1270 ± 20	685AD (39.2%) 725AD 740AD (29.0%) 770AD	<u>675AD (95.4%) 775AD</u>
PLD-8247 試料No.: 5	-23.12 ± 0.19	1385 ± 20	1385 ± 20	640AD (68.2%) 660AD	615AD (95.4%) 670AD
PLD-8248 試料No.: 6	-22.67 ± 0.21	1367 ± 19	1365 ± 20	645AD (68.2%) 665AD	640AD (95.4%) 680AD

4 考 察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を 行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高 い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の 範囲が示された。

 2σ 暦年代範囲 (95.4%の確率で年代がこの範囲に収まることを意味する)に注目して暦年代範囲を整理する。 S B 170から出土した柱材 (試料No. $1\sim3$) の年代

範囲は640~730calADの範囲が最も確率が高く、740~770calADがそれに次いだ。SB500から出土した柱材(試料No.4)の年代範囲は675-775calAD(95.4%)であった。SB56から出土した柱材(試料No.5)の年代範囲は615-670calAD(95.4%)であった。SK786から出土した炭化材(試料No.6)の年代範囲は640-680calAD(95.4%)であった。

試料の年代は、7世紀前半から8世紀後半の間の年代 範囲を示すものが多かった。試料No.5と6は7世紀代 の年代範囲であった。

木材の¹⁴C年代が示すのは、その部分の年輪が形成された年代である。最外年輪を試料とした場合、その年代が示すのは枯死あるいは伐採の年代であり、木材が利用された年代に近いと考えることができる。一方、最外年輪より内側の部位を試料とした場合、その年代が示すの

は枯死あるいは伐採の年代よりも古い年代である。これは古木効果と呼ばれる。今回の測定試料のうち、試料No.1~4は最外年輪以外の部位であるが樹皮に近い年輪と考えられることから伐採時期に近い年代を示している。それに対して、試料No.5・6は最外年輪以外の部位不明であり、古木効果の影響を考慮する必要がある。

参考文献

中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代. 3-20.

Ramsey, C.B. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.

Ramsey, C.B. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Bertrand, C.J.H., Blackwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Damon, P.E., Edwards, R.L., Fairbanks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Ramsey, C.B., Reimer, R.W., Remmele, S., Southon, J.R., Stuiver, M., Talamo, S., Taylor, F.W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP. Radiocarbon, 46, 1029-1058.

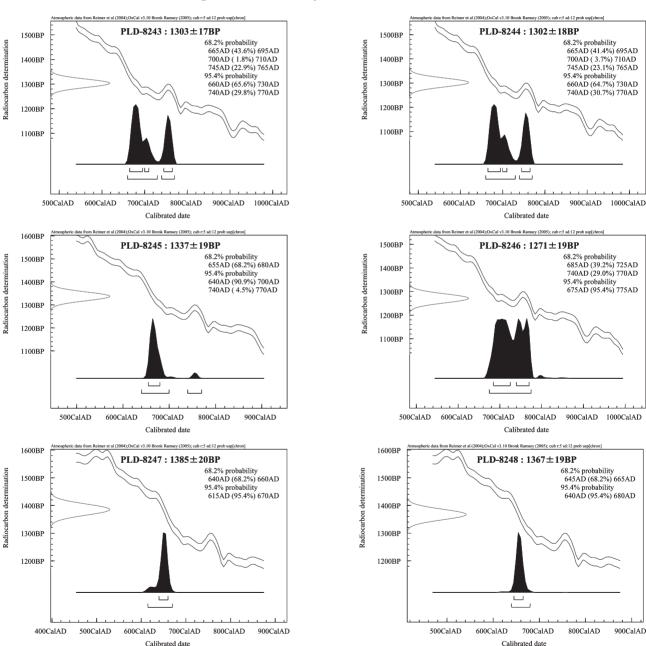


図2 暦年較正年代結果

出土した柱材の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

中落合遺跡は、織機川や吉野川によって形成された扇 状地の扇央部付近の自然堤防上に位置する。発掘調査に より、古墳時代の方形周溝墓、奈良・平安時代の掘立柱 建物跡、井戸跡、道路跡、土坑、中世の溝跡等が検出さ れている。

本報告では、建築部材の木材利用を検討するために、 掘立柱建物跡の柱穴内から出土した柱根を対象として樹 種同定を実施する。

1 試 料

試料は、A区SB170の柱根3点(試料番号1-3)、SB500の柱根1点(試料番号4)、B区SB56の柱根1点(試料番号5)の合計5点である。

2 分析方法

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(抱水クロラール,アラビアゴム粉末,グリセリン,蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東(1982)およびWheeler他(1998)を参考にする。また、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林(1991)、伊東(1995,1996,1997,1998,1999)や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

3 結 果

樹種同定結果を表1に示す。柱根は、針葉樹1種類(スギ)と広葉樹1種類(クリ)に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科ス ギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管

の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は 比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射 組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、 1分野に2-4個で、孔口の長軸方向が水平に近くなる 傾向がある。放射組織は単列、1-15細胞高。

・クリ(Castanea crenata Sieb. et Zucc.)ブナ科クリ属 環孔材で、孔圏部は2-3列、孔圏外で急激~やや緩 やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列す る。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放 射組織は同性、単列、1-15細胞高。

表 1 樹種同定結果

番号	地区	遺構	地点	樹種
1	A区	S B 170	E B 2	クリ
2	A区	S B 170	ЕВЗ	クリ
3	A区	S B 170	E B 9	クリ
4	A区	S B 500	E B 11	クリ
5	B区	S B 56	E B 2	スギ

4 考 察

A区のSB170は、長辺が南北方向、短辺が東西方向にほぼ一致する4間×3間の建物跡である。SB500は、SB170の西に隣接し、SB180など複数回建てられた痕跡があるが、いずれも長辺、短辺の方向・位置がSB170に一致する。一方、B区のSB56は、SB170およびSB500の南西方向にあり、北端が調査区外に伸びているが、長辺が南北方向、短辺が東西方向にほぼ一致する点は同様である。

SB170およびSB500の柱根は全て広葉樹のクリ、B区のSB56の柱根1点は針葉樹のスギであり、地区によって柱根の樹種が異なる結果となった。クリは、重硬で強度および耐朽性が高く、柱材としては適材といえる。スギも木理が通直で割裂性が高く、加工は容易で耐水性も比較的あるため、柱材として適材である。いずれも周辺地域に分布している樹種であることから、入手できる木材の中から材質が適した種類を選択・利用したことが推定される。また、ともにこれまでの山形県内における調査で柱材として出土している樹種であり、特にクリは報告例が多い。建物による樹種の違いは、建物の規模、性格や柱材の加工法(芯持丸木・割材)等を反映している可能性もある。今後、考古学的な所見や柱材の形状・加工法なども含めて検討したい。

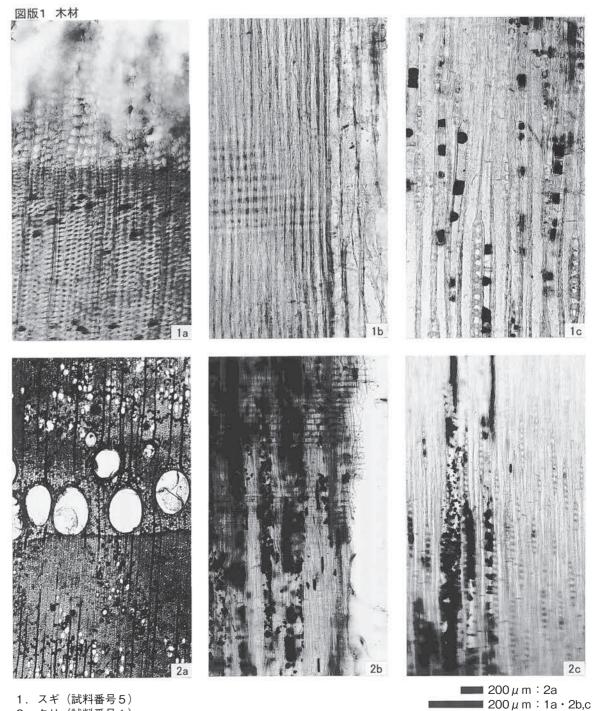
引用文献

林 昭三 1991 日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫 1995 日本産広葉樹材の解剖学的記載 I.木材研究・資料31.京都大学木質科学研究所,81-181. 伊東隆夫 1996 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料32,京都大学木質科学研究所.66-176. 伊東隆夫 1997 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料33,京都大学木質科学研究所,83-201. 伊東隆夫 1998 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料34,京都大学木質科学研究所,30-166. 伊東隆夫 1999 日本産広葉樹材の解剖学的記載 V.木材研究・資料35,京都大学木質科学研究所,47-216.

島地 謙·伊東隆夫 1982 図説木材組織.地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 広葉樹材の識別 I AWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・ 佐伯 浩 (日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]



2. クリ (試料番号1)

a:木口, b:柾目, c:板目

200 μ m : 1b,c

VI 総 括

1 調査のまとめ

今回の調査は、一般国道113号赤湯バイパス改築事業 に伴う、中落合遺跡の発掘調査である。調査によって得 られた成果を以下に述べる。

中落合遺跡は、山形県南陽市大字中落合に所在し、吉野川・織機川扇状地の中央を流れる上無川の自然堤防の微高地に立地する。標高は221~222mを測る。発掘調査は、遺跡にかかる事業実施地区の側道部分を除く、約5,700㎡を対象に実施した。

遺跡からは、古墳時代、奈良・平安時代・近世と考えられる遺構が検出され、遺物は奈良・平安時代の土師器と須恵器を主として、縄文土器や古墳時代の土師器、中近世の陶磁器なども数点含み整理箱で40箱出土した。

古墳時代と考えられるのは周溝SH700である。本遺跡の南東方向約750mに位置する大塚遺跡では、古墳時代前期の土師器が出土した周溝SH258・263・330などが検出されている。これらの周溝とSH700は規模・形態が類似し、関連が窺われる。

奈良・平安時代の遺構は、掘立柱建物、区画施設、合 口甕棺、井戸、土坑、河川、溝、柱穴などが確認された。

掘立柱建物は、調査区中央南寄りの19~27-15~22G に建て替えを含め11棟が集中し、22~25-25・26Gに総 柱建物が2棟並列、A区中央西側に1棟分布する。

区画施設の内側と考えられる19~27-15~26Gに分布する13棟のうち、SB181・759・801を除く10棟は建て替えがあるものの、建物の軸線方向や柱穴の掘り方規模からほぼ同時期に継続して存在したと考えられる。特に、10棟の掘立柱建物は、左右対称コの字型の配置となり計画的な配置が窺える。各建物の構造は、SB250・280は2×2間の総柱、SB56は2×2間以上、SB111・759・801は2×3間、SB181・500・570・821・860は3×3間、SB170・180・817は3×4間となる。主軸方向がほぼ一致するのは、SB56・111・170・817・180・500・181・250・280・821・860で、これらは西に1~5度の傾きに納まり、区画施設西面の軸とほぼ一致

し、SB759・801の主軸方向は区画施設の軸と10度以上のずれがある。

区画施設は、B区南西端を角として、南面で16.5m、西面でSA777までで28m、その先の柱列も含めると44mとなるL字状の形態が確認された。

井戸は、A区南西側に集中して6基が検出され、全て 素掘りの井戸である。

河川はB区東側で検出され、さらに南北方向に延びると考えられる。土器は8世紀末から9世紀末に属するものが出土しているが、9世紀中葉から後半の土器が多く 墨書・刻書土器が35点含まれる。

土坑からは、8世紀末から9世紀後半に属すると考えられる土器が出土しているが、8世紀末から9世紀初頭の土器を含むものが多くみられた。

EU1合口甕棺は、区画施設の東側に位置する。遺物は9世紀後半であり、区画施設終焉の時期である。

近世と考えられるものは溝で、SD286及び701は16世紀後半から17世紀初頭の陶器片が出土している。SD286は土層断面から拡張したと考えられる。また、並列するSD286とSD287及びSD364とSD468は道路側溝と考えられ、近世に属すると思われる。

遺物の分布状況は遺構の分布と同様であるが、その出土量には遺構毎に顕著な違いが認められ、区画施設内では少なく、周辺の土坑や河川から多く出土した。器種は供膳形態の蓋、有台坏、無台坏が多く、貯蔵具の甕や壺は少ない傾向がみられた。また、墨書・刻書土器が50点出土し、文字は「禾」または「禾ヵ」が13点を占める。

遺跡は古墳時代、奈良・平安時代・近世の複合遺跡で、 建物などの主たる時期は8世紀末から9世紀後半まで続 いていたと考えられる。

2 遺跡の性格と年代観

今回の調査では、南面と西面にB区南西隅を角とする区画施設と思われる柱列と、その区画施設内に13棟の掘立柱建物が検出された。竪穴住居が1棟も検出されないことも含め一般的な集落とは違いが認められることか

ら、その性格について若干の考察を加える。

区画施設は、B区南西隅を角として南面と西面に径20~50cm、深さ15~25cmの柱穴が直線状に並ぶ柱列で、その区画施設内に重複を含め13棟の掘立柱建物が検出された。そのうち、11棟の建物の軸線と区画施設は、西に1~5度の傾きに納まり、建物の配置は左右対称コの字型の計画性が窺え、この区画施設内の建物は、さらに東側に延びると考えられる。

区画施設内に存在する建物は、SB56・860・111・ $500 \cdot 180 \cdot 181 \cdot 170 \cdot 817 \cdot 759 \cdot 801 \cdot 821 \cdot 280 \cdot 250 \bigcirc$ 13棟である。しかし、SB759と801は区画施設や他の建 物との主軸方向が違い、SB181は主軸方向は一致するも のの柱穴の規模から、他の建物とは明らかな違いが認め られる。SB181は、SB180・500の足場柱穴の可能性も ある。従って、主軸方向がほぼ一致することや、左右対 称コの字となる計画的な建物の配置などから推測すると、 区画施設とほぼ同時期に存在したであろう建物は、SB 56・860・111・500・180・170・817・821・280・250と考 えられる。これら10棟の建物の内、重複が認められなかっ たSB56・860・111・821・280・250は、建て替えられる こと無く区画施設と共に存在していたと思われる。区画 施設内のほぼ中央に位置する建物は、柱穴の切り合いか らSB180→SB500、SB817→SB170と建て替えられ たと考えられる。そして、SB111及びSB180・500の柱 穴の埋土に焼土が混入していることから、SB180焼失後 にSB500が建てられたと推定される。SB500自体にも 焼失の可能性が残るが、柱穴の掘り方埋土にSB180の焼 土が混入したとも考えられる。SB56は柱穴の掘り方が 他の建物に比べ大きく、南側の角柱2本の掘り方が斜め 方向に掘られるという、極めて官衙的な建物の様相を示 すことや、SB170・817には間仕切り柱が想定されると いう、他の建物には見られない特徴をもつことから、建 物の性格を踏まえた詳細な検討が必要である。

区画施設内の建物はSB111とSB180の焼失や、SB180→SB500、SB817→SB170の重複関係及び出土 土器から、8世紀末の時期に属するSB180・817・111と、これに後続し9世紀代に営まれるSB500・170に分けられる。前者をI期、後者をII期とする。区画施設は $I \sim IIII$ 期の間継続したと考えられ、重複関係がないSB56・821・860、重複関係があるものの軸線の異なるSB 759・801、総柱のSB250・280も、この間に区画施設内 の建物として営まれたと想定される。

自然科学分析の結果で建物の柱穴から出土した柱材の 年代は、7世紀前半から8世紀後半の間の年代範囲を示す。出土土器などから建物は8世紀末から9世紀後半と 考えられ若干の相違も認められる。自然科学分析において、木材の¹⁴C年代が示すのはその部分の年輪が形成された年代であり、最外年輪を試料とした場合、その年代が示すのは枯死あるいは伐採の年代である。木材が利用された年代に近いと考えることができるが、最外年輪より内側の部位を試料とした場合、その年代が示すのは枯死あるいは伐採の年代よりも古い年代となることから、今回の資料とした柱材の年輪が内側であった可能性と、他で使用していた柱材を再利用したということも考えられる。

これまでの置賜盆地の奈良・平安時代の遺跡の調査から、掘立柱建物跡を主とする遺跡として米沢市古志田東遺跡・大浦遺跡、川西町道伝遺跡・太夫小屋遺跡、南陽市鵜の木館跡など溝や塀に囲まれた大型の建物の配置に企画性が窺える遺跡が見つかっている。これらの遺跡からは木簡や漆紙文書、硯などが出土しているものもあるが、一般的な集落とは区分され、官衙もしくは、それに関連する遺跡として捉えられている(伊藤1999・植松2007)。本遺跡も、竪穴住居が無く建物の配置に企画性が窺え、さらに区画施設が確認されたことから、一般的な集落とは言い難く、官衙的なものと感じられる。

置賜郡衙は、第 I 期:高畠町安久津、第 II 期:米沢市戸塚山周辺、第 II 期:南陽市郡山、第 IV 期:川西町道伝と移転したと考えられている(佐藤1989)。中落合遺跡が所在する沖郷地区は郡山という地名から第 II 期の8世紀末から9世紀末にかけて古代郡衙があったとみられている地域である。本遺跡の主たる時期は出土土器より、8世紀末から9世紀後半であり、沖郷地区の古代郡衙が存在したと考えられる時期と一致することと、遺跡の南東約1.5kmにある郡山に近いことなどから、置賜郡衙に関連する施設の一部とも考えられる。しかし、第 I 期:小郡山、第 II 期:郡山、第 II 期:大浦、第 IV 期:道伝(川崎2003)とする説もあることから、今後詳細に検討をしていく必要がある。

引用参考文献

柏倉亮吉ほか 1982 『山形県史第1巻 原始・古代・中世編』 山形県

井上唯雄ほか 1985 『三ッ木遺跡』(早川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書) 群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化 財調査事業団

佐藤鎮雄ほか 1990 『南陽市史 上巻』地質・原始・古代・中世 南陽市教育委員会

營田慶恩ほか 1992 『角川日本地名大辞典6山形県』角川書店

手塚 孝ほか 1993 『大浦 B 遺跡発掘調査報告書』米沢市埋蔵文化財調査報告書第36集 米沢市教育委員会

吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館

手塚 孝 1998 『大神窯跡発掘調査報告書』米沢市埋蔵文化財調査報告書第57集 米沢市教育委員会

齋藤 健ほか 1998 『上高田遺跡第2・3次発掘調査報告書』(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第57集) 財団法人山形県埋蔵文化 財センター

阿部明彦ほか 1999 「山形県の古代土器編年」『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料』第25回古代城柵官衙遺跡検討会事務局 伊藤邦弘ほか 1999 「山形県の官衙関連遺跡」『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料』第25回古代城柵官衙遺跡検討会事務局

大橋康二ほか 2000 『九州陶磁の編年―九州近世陶磁学会10周年記念―』九州近世陶磁学会

高桑弘美ほか 2001 『三条遺跡第2・3次発掘調査報告書』(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第93集) 財団法人山形県埋蔵文化財 センター

藤澤良祐 2002 「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯 財団法人瀬戸市埋蔵文化財 センター

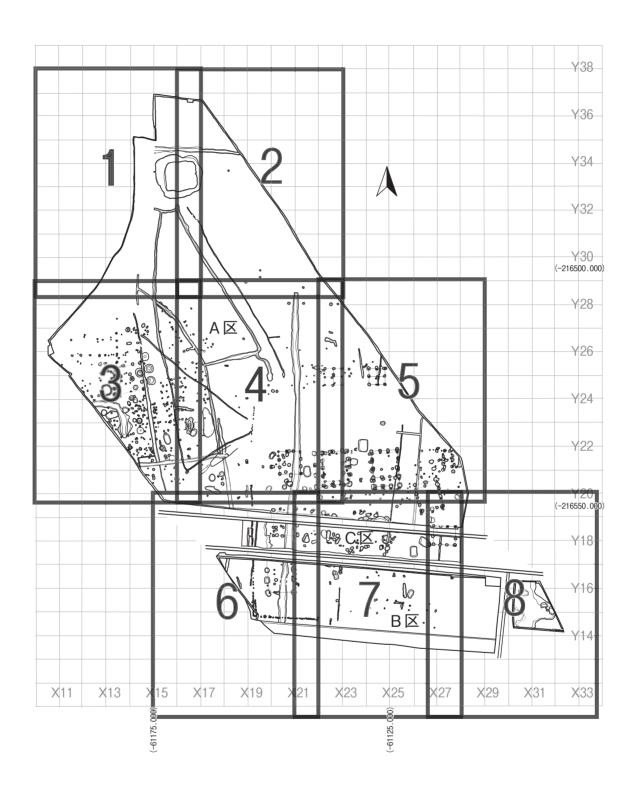
佐藤鎮雄ほか 2003 『図説「置賜の歴史」』 郷土出版社

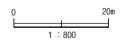
山中敏史ほか 2003 『古代の官衙遺跡 Ⅰ遺構編』独立行政法人 文化財研究所奈良文化財研究所

川崎利夫 2003 「置賜地域における郡衙の変遷について」『米沢史学第19号』山形県立米沢女子短期大学日本史学科米沢史学会 石井浩幸ほか 2006 『鵜の木館跡発掘調査報告書』(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第150集) 財団法人山形県埋蔵文化財センター 佐藤庄ーほか 2006 『蛇崩窯跡発掘調査報告書』(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第155集) 財団法人山形県埋蔵文化財センター 氏家信行ほか 2007 『大塚遺跡・西中上遺跡発掘調査報告書』(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第158集) 財団法人山形県埋蔵文

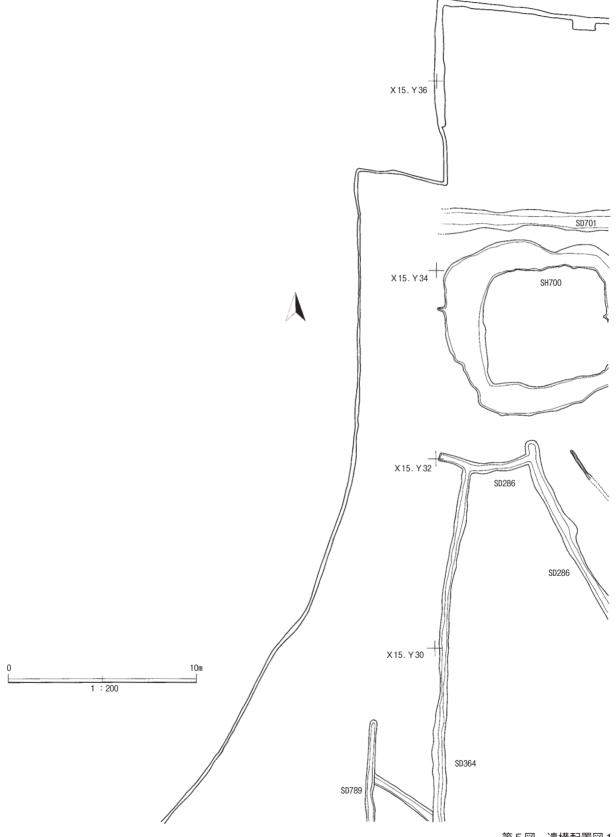
化財センター 三上喜孝 2007 「山形市上敷免遺跡出土の墨書土器」『上敷免遺跡発掘調査報告書』(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第159集) 財団法人山形県埋蔵文化財センター

植松暁彦 2007 「山形県における古代の区画施設を有する遺跡群について」『さあべい第23号』さあべい同人会

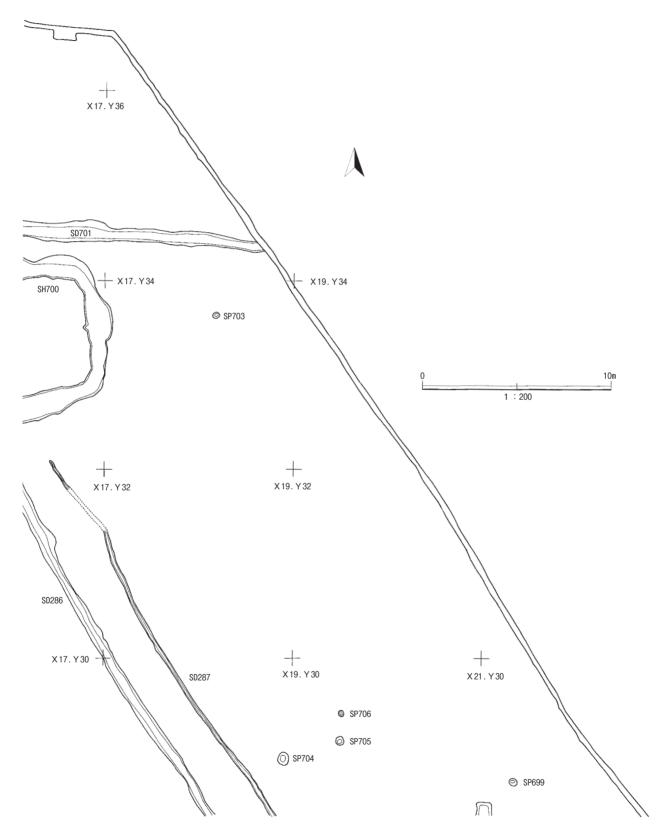




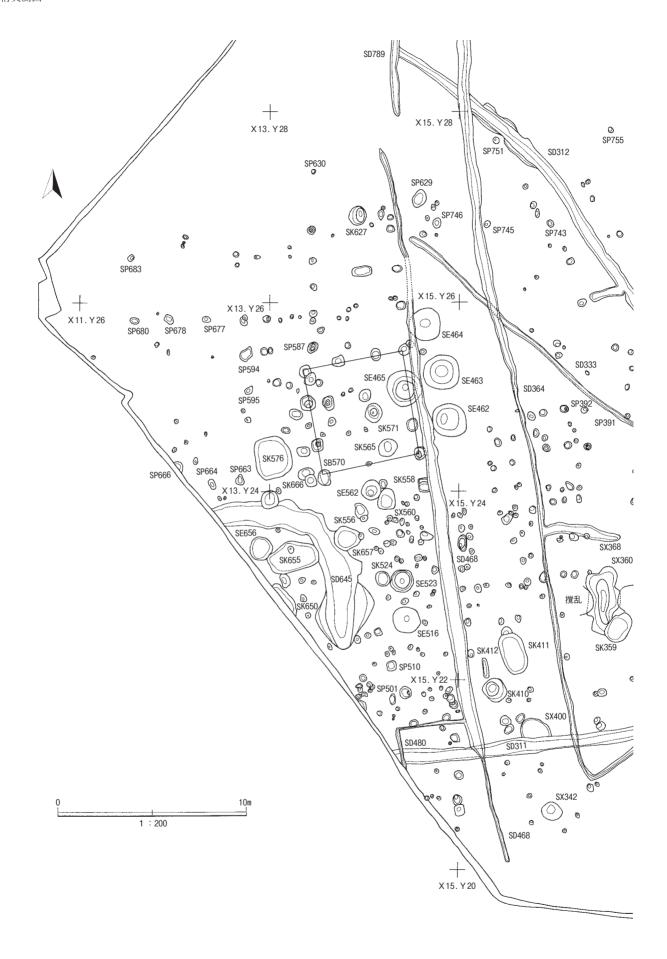
第4図 遺構配置図の割付図



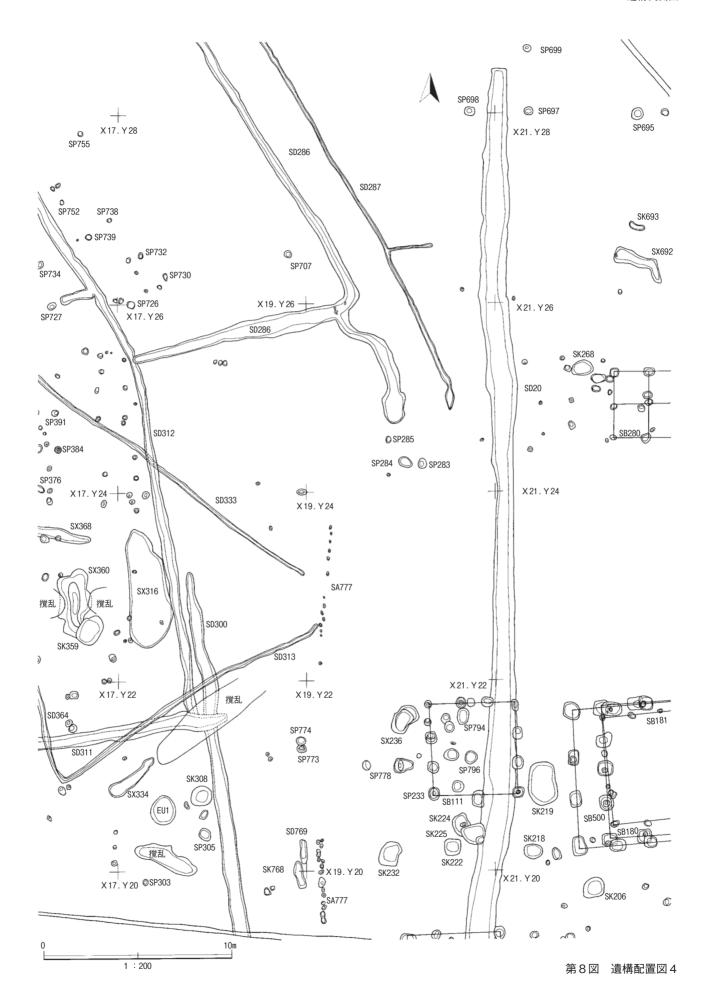
第5図 遺構配置図1

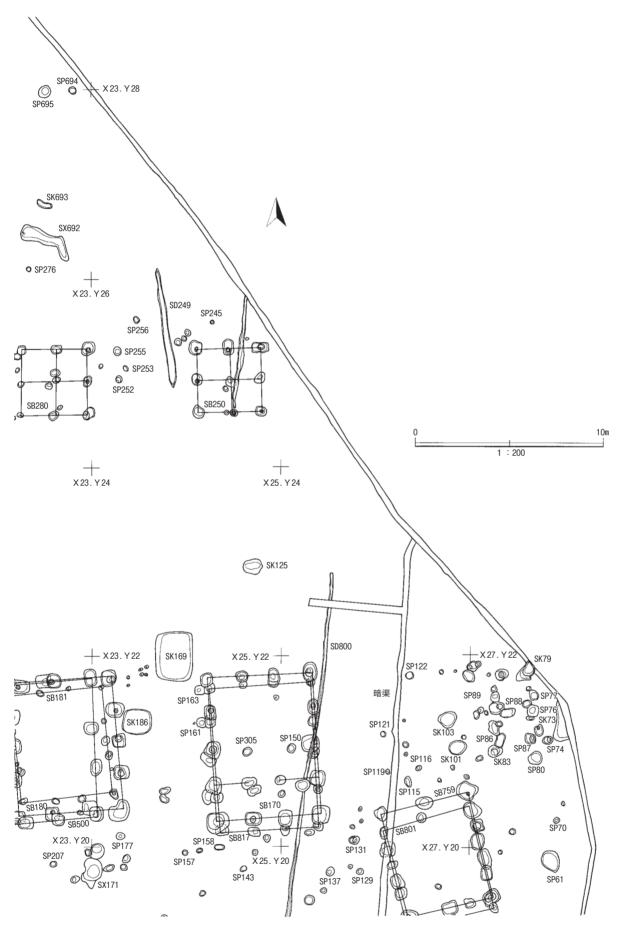


第6図 遺構配置図2

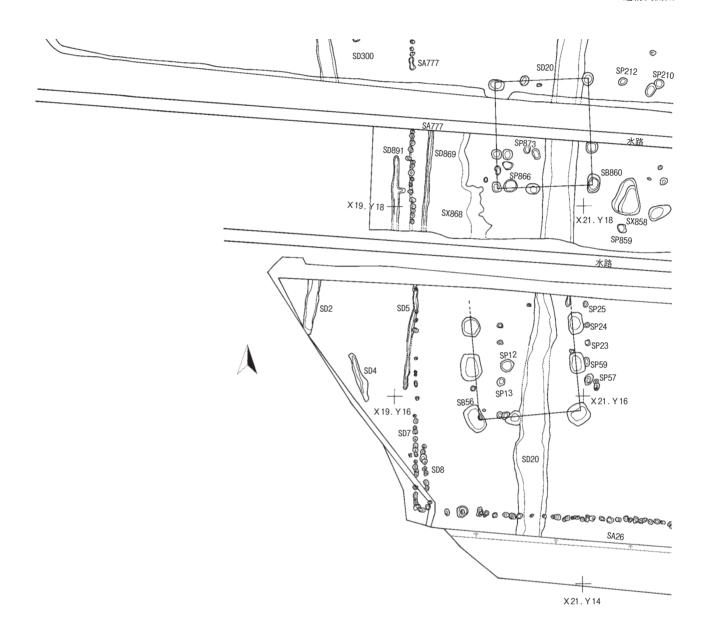


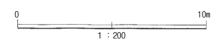
第7図 遺構配置図3



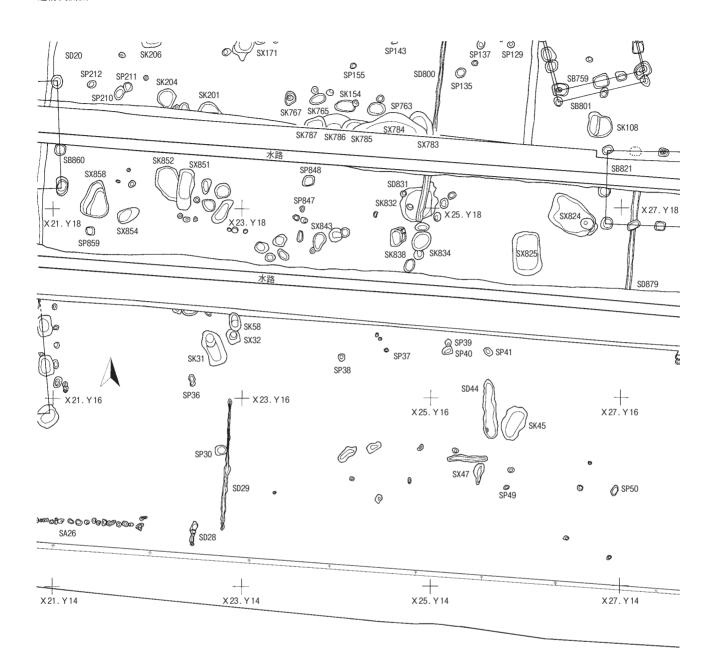


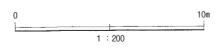
第9図 遺構配置図5



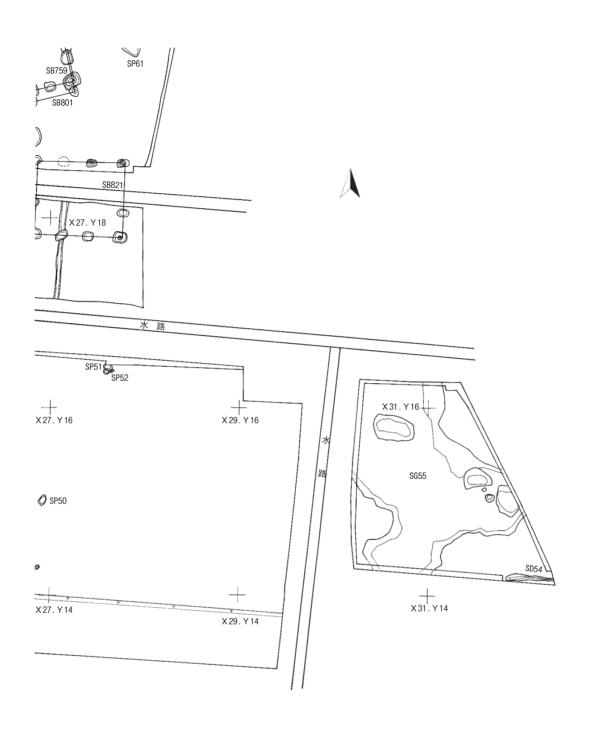


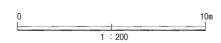
第10図 遺構配置図6



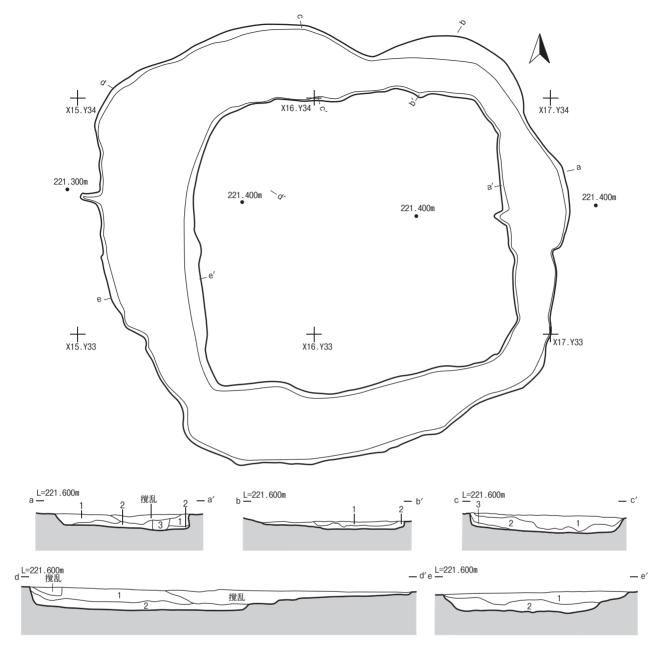


第11図 遺構配置図7





第12図 遺構配置図8



a-a'

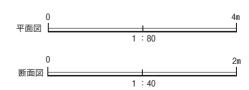
- 1 10YR3/3暗褐色シルト質粘土(黒褐色シルト質粘土をマダラ状に 多く含む。)
- 10YR6/6暗褐色シルト質粘土(黒褐色シルト質粘土をマダラ状に
- 少量混入する。) 3 10YR1.7/1黒色粘土(2の土を点状に少量混入する。)

- 1 10YR3/3暗褐色シルト質粘土(黒褐色シルト質粘土をマダラ状に 多く含む。) 2 10YR6/6暗褐色シルト質粘土(黒褐色シルト質粘土をマダラ状に 少量混入する。)

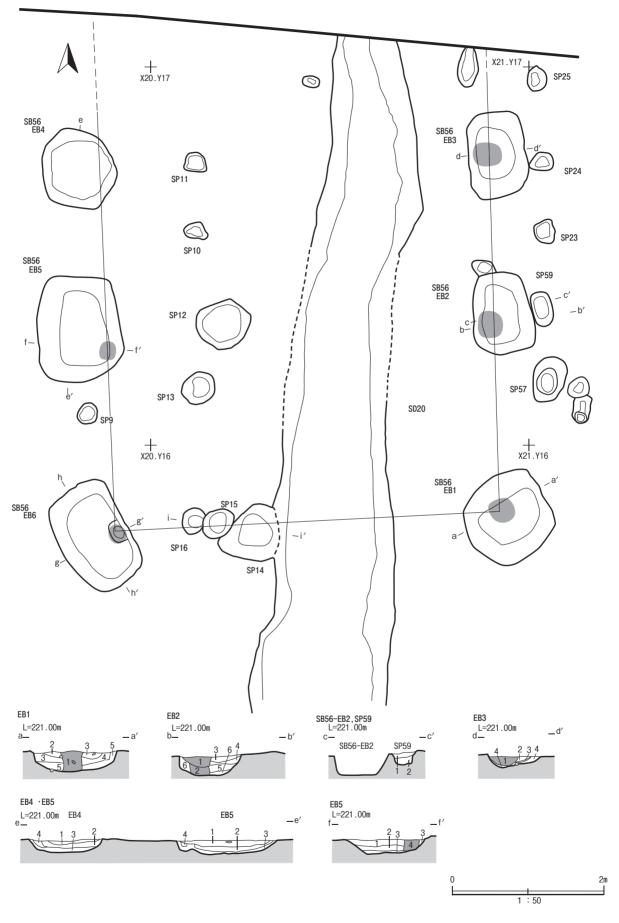
- c-c'
 7.5YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘土をマダラ及び点状に多く含む。かたくしまる。)
 10YR4/4褐色シルト質粘土(1の土をマダラ状に少量含む。しまる。)
 10YR5/6黄褐色シルト(黒褐色粘土を点状に混入する。)

- 1 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを点状に少量含む。) 2 7.5YR3/4暗褐色シルト(黒色粘質シルトをマダラ状に多く混入する。)

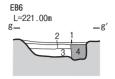
- 1 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを点状に少量含む。) 2 7.5YR3/4暗褐色シルト(黒色粘質シルトをマダラ状に多く混入する。)

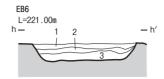


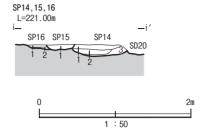
第13図 SH700周溝



第14図 SB56掘立柱建物(1)







SB56-FB1

- \$B56-EB1
 1 10YR1.7/1黒色シルト(褐色シルトを点状に微量含む。)
 2 10YR1.7/1黒色シルト(灰色微砂を斑状に混入する。)
 3 10YR3/1黒褐色粘質シルト(小礫を含み、灰色砂を多く混入する。)
 4 10YR3/1黒褐色粘質シルト(小礫を少量含み、褐色砂をブロック状に微量入する。)
- 5 10YR4/1褐灰色砂混じりシルト(4の土を帯状、点状に含み、灰色砂を多量混入する。)

SB56-EB2

- 8B56-EB2
 1 10YR1.7/1黒色粘質シルト(褐色粘土を点状に微量含む。)
 2 10YR1.7/1黒色粘質シルト(黄褐色シルトをプロック状に少量含む。)
 3 10YR2/1黒色シルト(黄褐色微砂を斑状に混入する。)
 4 10YR4/3にぶい黄褐色微砂(3の土を斑状に少量含む。)
 5 10YR4/6褐色粘質シルト(黒色粘質シルトを斑状に多く混入する。)
 6 10YR1.7/1黒色粘土(褐色粘質シルトをプロック状に少量混入する。)

SP59

- 1 10YR1.7/1黒色シルト(灰色シルトを斑状に含む。)
- 2 10YR2/1黒色粘質シルト(褐色シルトを点状に微量含む。)

SB56-EB3

- 10YR1.7/1黒色粘質シルト(褐色シルトを班状に少量混入し、微量の炭化粒を含む。)
- 10YR5/6黄褐色シルト(黒色シルトを帯状に含む。)
- 3 2.5Y2/1黒色砂混じりシルト(2の土を斑状に微量含む。)
- 10YR2/1黒色砂混じり粘質シルト(小礫を多量に含む。)

- 10YR4/2灰黄褐色シルト(黒色粘質シルトと酸化土を点状に少量含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(酸化土と1の土を点状に微量含む。)
- 10YR2/1黒色砂混じり粘質シルト(灰色細砂を混入し、礫を含む。)
- 10YR2/2黒褐色砂混じりシルト(礫を多く含み、褐色粘土をブロック状に混入する。)

SB56-FB5

- 10YR4/2灰黄褐色シルト(黒色粘質シルトと酸化土を点状に少量含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色シルトを班状に混入する。)
- 3 7.5YR5/6明褐色シルト(2の黒色粘質シルトを斑状に少量混入する。)
- 10YR1.7/1黒色シルト(茶褐色シルトをブロック状に含む。)

SB56-EB6

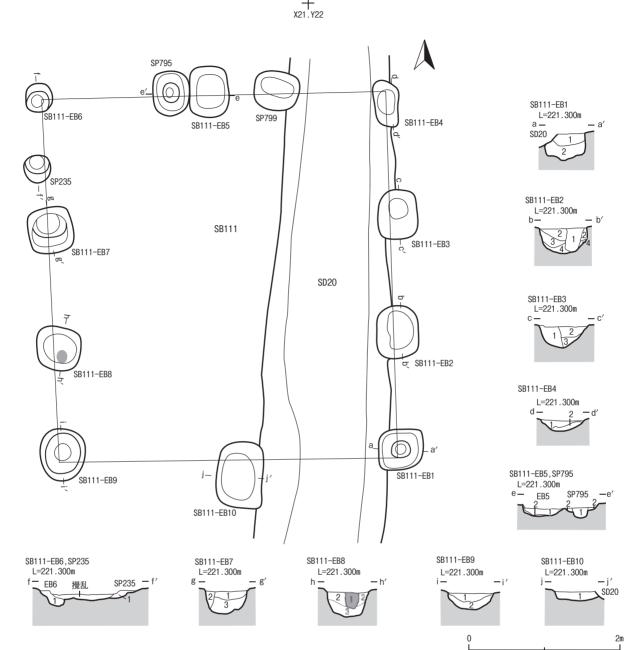
- 1 10YR6/6明黄褐色シルト(黒色シルトを斑状に混入する。) 2 10YR3/3暗褐色シルト(黒色シルトを斑状に多く含む。)
- 2 101RO/5個報告ンが「無色シルトを構成」ラスロも。) 3 10YR2/1黒色粘質シルト(黒色シルトを比りの黄褐色シルトを帯状に混入する。) 4 10YR1.7/1黒色粘質シルト(褐色シルトを点状に少量含む。)

- 1 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色シルトを斑状に少量混入する。)
- 10YR1.7/1黒色シルト(黄褐色シルトを点状に混入する。)
- 3 10YR2/2黒褐色粘質シルト(小礫を多く含み、黄褐色シルトを点状に微量含む。)

1 10YR2/1黒色シルト(黄褐色シルトを点状に微量含む。)

SP16

- 1 10YR3/2黒褐色シルト(黄色シルトを点状に含む。) 2 10YR3/4暗褐色シルト(黄褐色微砂を少量混入する。)



- 10YR3/2黒褐色シルト(褐色シルトを斑状に少量含む。) 10YR3/3暗褐色シルト(褐色粘質シルトをブロック状に多く含む。)

SB111-EB2

- 10YR2/2黒褐色シルト(黄褐色砂混じりシルトをブロック状に含み、橙色 粘土粒を点状に含む。炭化粒も点状に含む。) 10YR2/3黒褐色シルト(黄褐色砂混じりシルトを点状に混入する。) 10YR2/3黒褐色粘質シルト(黄褐色砂混じりシルトを斑状に少量含む。) 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(3の土を斑状に少量混入する。) 1
- 4

SB111-EB3

- 10YR2/2黒褐色粘質シルト(黄褐色シルト質粘土を斑状に含む。) 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色シルト質粘土をブロック状に少量含む。)
- 10YR3/3暗褐色シルト質粘土(2の土を斑状に少量含む。)

SB111-EB4

- 10YR2/2黒褐色粘質シルト(橙色焼土粒を点状に含み、黄褐色シルト質粘土 を微量混入する。)
- 10YR3/4暗褐色シルト質粘土(1の土を斑状に微量含む。)

SB111-EB5

- 10YR1.7/1黒色粘質シルト(酸化土を点状に微量含む。) 10YR2/2黒褐色粘質シルト(灰色微砂を斑状に少量混入する。)

SP795

- 10YR1.7/1黒色粘質シルト(橙色焼土を点状に含む。)
- 2 10YR2/2黒褐色粘質シルト(酸化土を斑状に微量含む。)

SB111-EB6

SP235

- 1 10YR1.7/1黒色粘質シルト(橙色焼土を粒状に微量含む。)
- 1 10YR2/1黒色粘質シルト(炭化粒と橙色焼土を点状に少量含む。) SR111-FR7

- 1 10YR2/1黒色シルト(橙色焼土を微量点状に含む。) 2 10YR2/2黒褐色粘質シルト(木の根を混入し小礫を少量含む。) 3 7.5YR1.7/1黒色粘質シルト(黄褐色微砂を小ブロックで含み、橙色 焼土粒を点状に微量含む。)

SB111-EB8

- 7.5YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色シルト質粘土を点状に少量含む。)
- 10YR2/2黒褐色粘質シルト(黄褐色シルト質粘土をブロック状に含み小礫を混入する。)
- 10YR2/3黒褐色砂混じりシルト(微礫を多く含み微砂を混入する。)

SB111-EB9

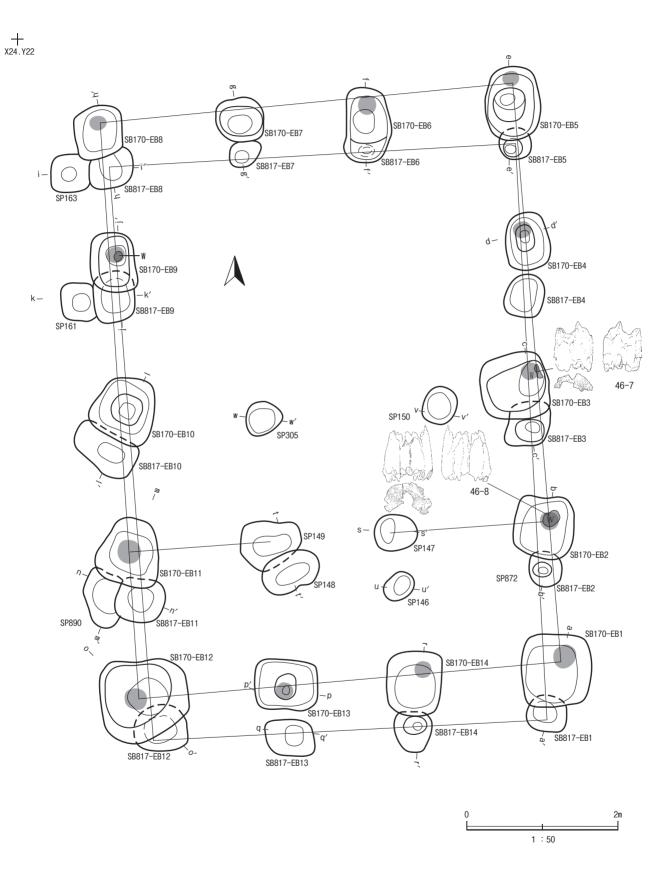
- 7.5YR2/1黒色粘質シルト(酸化土を点状に微量含み礫を混入する。) 2 10YR2/1黒色粘質シルト(小礫を多く混入し褐色微砂を微量含む。)

SB111-EB10

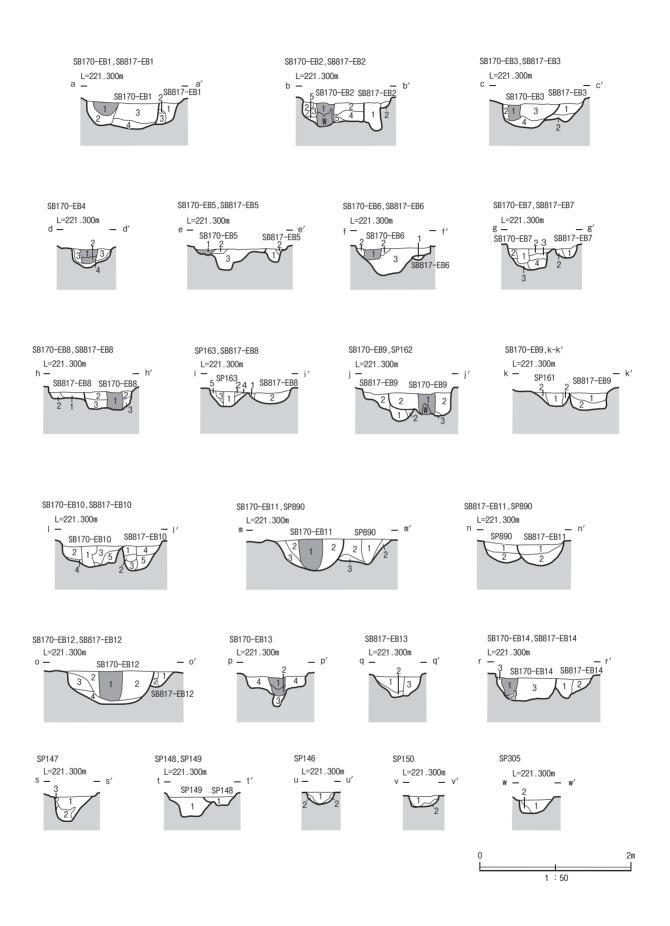
1 10YR2/2黒褐色粘質シルト(黄褐色シルトをブロック状に混入し小 礫を少量含む。)

第16図 SB111掘立柱建物

1:50



第17図 SB170·817掘立柱建物(1)



第18図 SB170·817掘立柱建物(2)

- 10YR2/2黒褐色シルト(しまり強く、粘性あり。炭化物と褐色シルトを微量含む。) 10YR2/2黒褐色シルト(しまり強く、粘性あり。褐色シルトが全体に少量混じる。)
- 10YR4/6褐色シルト(しまり強く、粘性あり。黒色シルトが粒状に少量混じる。)
- 10YR4/6褐色シルト(しまり強く、粘性あり。黒色シルトが粒状に微量混じる。)
- 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性やや強い。褐色シルトが極微量混じる。) 10YR4/6褐色シルト(しまり強く、粘性やや強い。黒色シルトと混じる。) 10YR4/6褐色シルト(しまり強く、粘性やや強い。黒色シルトと混じる。)

SB170-FB2

- 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性やや強い。) 10YR3/4暗褐色シルト(しまり強く、粘性やや強い。黒色シルトが微量混じる。) 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性やや強い。) 10YR4/4褐色シルト(しまり強く、粘性やや強い。黒色シルトが少量混じる。)

- 10YR4/1褐灰色シルト(しまり強い。粘性強い。炭化物、黒色シルトを含む。)

10YR2/1黒色シルト(しまり強い。粘性やや強い。)

10YR3/4暗褐色シルト(しまり強い。粘性やや強い。黒色シルトが微量混じる。) 9

SB170-FB3

- 10YR3/1黒褐色シルト(しまり強く、粘性強い。) 10YR4/4褐色シルト(しまり強い。粘性強い。黒色と褐灰色シルトの混じる。) 10YR4/4褐色シルト(しまり強い。粘性強い。黒色シルトが全体に混じる。)
- 10YR4/1褐灰色シルト(しまり強い。粘性強い。黒色と褐色のシルトを含む。)

- 017-ED3 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性強い。褐色と褐灰色シルトが多く混じる。) 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性強い。褐色と褐灰色シルトが混じる。)

SR170-FR4

- 10YR3/1黒褐色シルト(にぶい黄褐色シルトを少量、炭化物を微量含む。)
- 10YR3/1黒褐色シルト(にぶい黄褐色シルト炭化物をそれ少量すつ含む。) 10YR3/1黒褐色シルト(にぶい黄褐色シルト炭化物をそれ少量すつ含む。)
- 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまり強い。粘性強い。)

- 10YR2/1黒色シルト(しまり強い。にぶい黄褐色シルトを微量含む。) 10YR6/2灰黄褐色シルト(しまり強い。黒色シルトをプロックで少量含む。) 10YR2/1黒色シルト(しまる。にぶい黄褐色と灰黄褐色シルトをやや多く含む。)
- 1 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、にぶい黄褐色シルトを極微量含む。) 2 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまり強く、粘性強い。)

- 1 10YR2/1黒色シルト(にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。) 2 10YR2/1黒色シルト(にぶい黄褐色シルトを粒状に少量含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(にぶい黄褐色シルトブロックを全体にやや多く含む。)

SB170-EB6

1 10YR2/1黒色シルト(にぶい黄褐色シルトを微量含む。)

SB170-FB7

- 10YR2/1黒色シルト(にぶい黄褐色シルトを上層部に微量含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(にぶい黄褐色シルトを全体に少量含む。) 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまり、粘性強い。黒色シルトを少量含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(にぶい黄褐色シルトを下層部に微量含む。)

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまり強く、黒色シルトを下層部に少量含む。) 2 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。)

- 1 10YR3/1黒褐色シルト(しまり強い。粘性やや強い。) 2 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(黒褐色シルトブロックを30%程含む。)
- 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまり強い。粘性やや強い黒褐色シルトを含む。) SB817-EB8
- 1 10YR3/1黒褐色シルト(しまり、粘性やや強く、にぶい黄褐色シルトを含む。)
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまり強く、粘性やや強い。)

SP163

- 10YR2/2黒褐色シルト(しまり、粘性強い。炭化物を少量含む。)
- 10YR2/2黒褐色シルト(しまり、粘性強い。灰黄褐色シルトを少量含む。) 10YR3/2黒褐色シルト(しまり、粘性強い。にぶい黄褐色シルトが混じる。) 10YR5/2灰黄褐色シルト(しまり強く、粘性強い。)
- 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまり、粘性強い。黒褐色シルトを少量含む。)

SB817-EB8

- 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまり強く、粘性強い。)
- 2 10YR2/2黒褐色シルト(しまり、粘性強い。にぶい黄褐色と灰黄褐色シルト のブロックを中央にやや多く含む。)

- 10YR3/1黒褐色シルト(しまり強く、粘性やや強い。) 10YR3/1黒褐色シルト(しまり強く、粘性やや強い。にぶい黄褐色シル トを多く含む。
- 10YR2/1 黒色シルト(黄褐色シルトを少量含む。)

SB817-EB10

- 10YR3/1黒褐色シルト(黄褐色シルトを塊で少量含む。)
- 2 10YR2/1黒色シルト(黄褐色シルトを粒状に少量含む。)

- 1 10YR2/2黒褐色シルト(しまり、粘性強い。にぶい黄褐色シルトを含む。) 2 10YR2/2黒褐色シルト(しまり、粘性強い。にぶい黄褐色シルトを微量含む。)
- 1 10YR2/2黒褐色シルト(しまり、粘性強い。にぶい黄褐色シルトが混じる。) 2 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまり、粘性強い。黒褐色シルトを少量含む。)

SB170-EB10

- 1 10YR2/1黒色シルト(しまり、粘性やや強い。にぶい黄褐色シルトを含む。) 2 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性やや強い。) 3 10YR2/1黒色シルト(しまり、粘性やや強い。黒色シルトをや多く含む。) 4 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまり強い。粘性強い。) 5 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまり強い。粘性強い。)

SB817-EB10

- 58817-1510 1 10YR2/1黒色シルト(しまり強い。) 2 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性強い。にぶい黄褐色シルトを少量含む。) 3 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性強い。)

- 4 10YR2/1黒色シルト5 10YR5/4にぶい黄褐色シルト

SB170-FB11

- 10YR2/1黒色シルト(しまり、粘性やや強い。褐色シルトを全体に含む。)
- 2 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性やや強い。褐色シルトを少量含む。) 3 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性やや強い。褐色シルトを微量含む。) SP890

10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性やや強い。褐色シルトを微量含む。)2 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性やや強い。褐色シル少量含む。)

- 10YR4/4褐色シルト(しまり強い。粘性強い。黒色シルトを微量含む。)

SR170-FR11

- 1 10YR2/2黒褐色シルト(しまり、粘性強い。灰黄褐色シルトと炭化粒を含む。) 2 10YR2/2黒褐色シルト(しまり、粘性強い。黒色シルトと炭化物を少量含む。) SP890
- 1 10YR5/2灰黄褐色シルト(しまり強く、粘性強い。黒色シルトが微量混じる。) 2 10YR5/2灰黄褐色シルト(しまり強く、粘性強い。黒色シルトが少量混じる。)

- 10YR4/6褐色シルト(黒色シルトがやや多く混じる。炭化物を少量含む。)
- 10YR4/6褐色シルト(ま)強い。下層に黒色シルトが少量混じる。 10YR2/1黒色シルト(粘性あり。暗褐色シルトプロックを少量含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(しまり強い。粘性中程度。褐色シルトブロックを含む。) SR817-FR12
- 1 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性中程度。褐色シルトが少量混じる。)
- 2 10YR5/3にぶい黄褐色シルト(しまり強い。粘性強い。)

SB170-EB13

- 1 10YR3/1黒褐色シルト(しまり強く、粘性やや強い。炭化物を少量含む。)

- 2 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性やや強い。褐色シルトを少量含む。) 3 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性やや強い。褐色シルトを微量含む。) 4 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性やや強い。褐色シルトをやや多く含む。)

- SB817-FB13
- 1 10YR2/1黒色シルト(しまる。にぶい黄褐色シルトを表層部に極微量含む。) 2 10YR2/1黒色シルト(しまる。にぶい黄褐色シルトを微量含む。) 3 10YR5/3にぶい黄褐色シルト(しまる。黒色シルトを全体に少量含む。)

SB170-EB14

- 1 10YR3/4暗褐色シルト(しまる。にぶい黄褐色シルトを斑状に多く含む。) 2 10YR2/2黒褐色シルト(しまる。にぶい黄褐色シルトを粒状に微量含む。)
- 3 10YR3/2黒褐色シルト(しまる。にぶい黄褐色シルトをブロック状に含む。)

SP147

- 1 10YR2/1黒色シルト(にぶい黄色褐色シルトプロックを多く含む。) 2 10YR2/1黒色シルト(しまり強い。粘性強い。) 3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまり強い。粘性強い。)

SP148

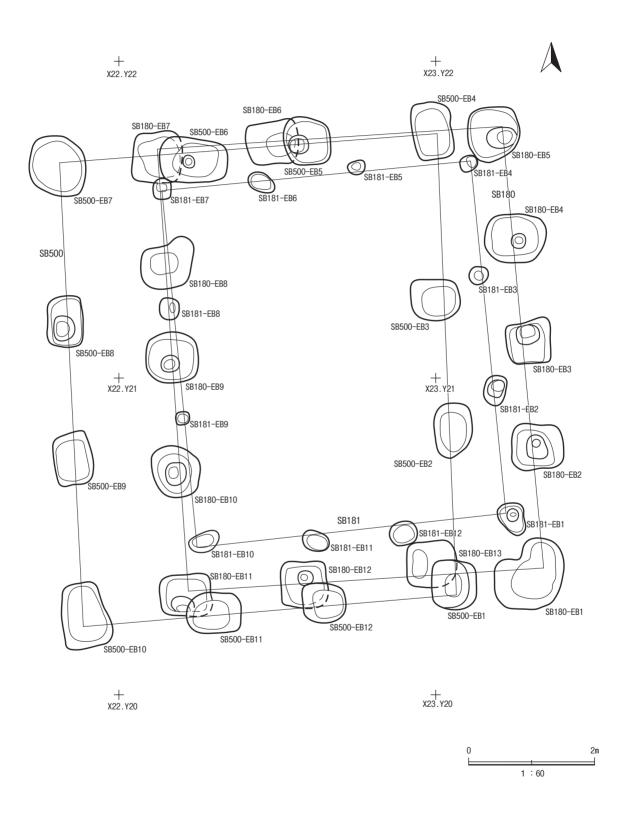
10YR2/1黒色シルト(にぶい黄褐色シルトを全体にやや多く含む。) 1 10YR2/1里色シルト(にぶい黄褐色シルトを下部層に微量含む。)

SP149

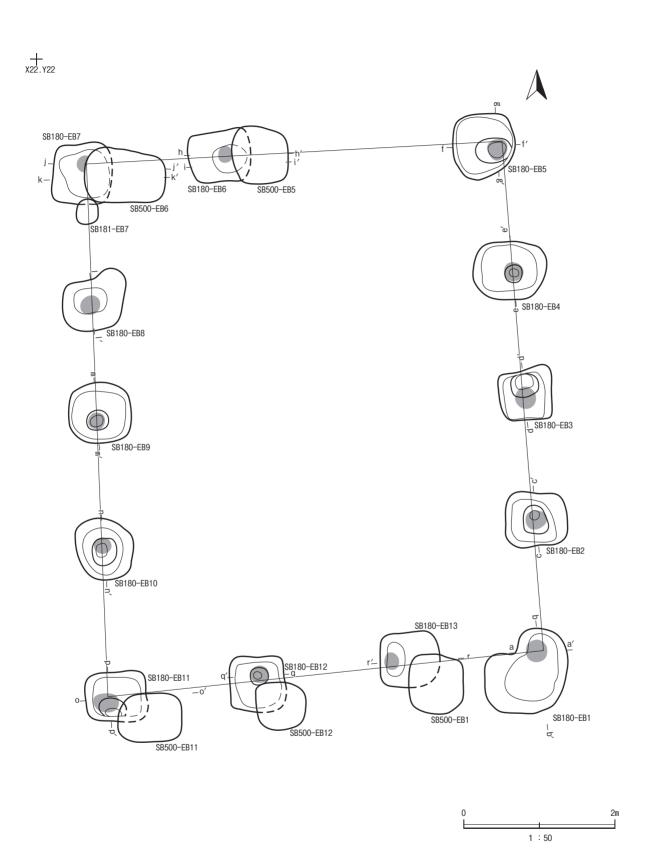
- 1 10YR3/1黒褐色シルト(にぶい黄褐色シルトプロック、酸化鉄を少量含む。) 2 10YR5/3にぶい黄褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。)

- 1 10YR3/2黒褐色シルト(灰黄褐色シルトプロックと炭化物を少量含む。) 2 10YR4/2灰黄褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。)

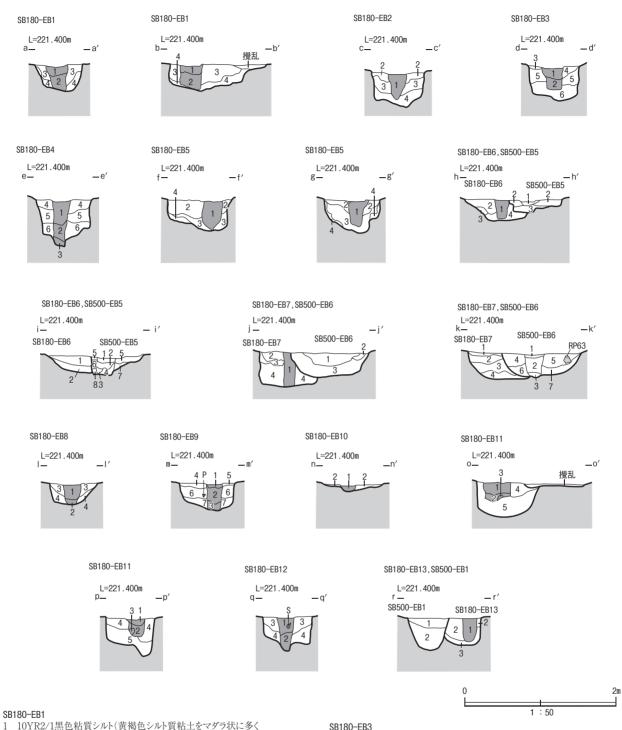
- 37307 1 10YR2/1黒色シルト(しまり強い。にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。) 2 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまり強く、黒色シルトブロックを微量含む。)



第19図 SB180・181・500掘立柱建物



第20図 SB180掘立柱建物(1)



- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色シルト質粘土をマダラ状に多く 含む。橙色焼土を点状に微量含む。)
- 10YR1.7/1黒色粘質シルト(黄褐色シルト質粘土を小ブロックで少量含み、橙色焼土を点状に微量含む。)
- 10YR2/2黒褐色粘質シルト(黄褐色シルト質粘土をブロック状に少 3 量含む。)
- 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト(黒褐色粘質シルトをマダラ状に 多く混入する。)

SB180-EB2

- 10YR4/4褐色粘質シルト(黒褐色粘質シルトを斑状に多く含む。橙 色焼土を点状に微量含む。)
- 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト(黒褐色粘質シルトを斑状に少量 含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色シルト質粘土を点状に少量含む。)
- 10YR1.7/1黒色粘質シルト(黄褐色シルトを小ブロックで微量含む。)

SB180-EB3

- 10YR5/6黄褐色粘質シルト(黒褐色粘質シルトを斑状に多く混 入する。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(1の土を点状に少量含む。)
- 3 10YR4/6褐色粘質シルト(黒褐色シルトを斑状に少量含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを点状に含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを小ブロックで混 入する。)
- 10YR1.7/1黒色粘質シルト(黄褐色シルト質粘土を大ブロックで 含む。)

第21図 SB180掘立柱建物(2)

SB180-EB4

- 10YR5/4にぶい黄褐色砂混じりシルト(黒色粘質シルトを含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(1の土を斑状に多く含む。)
- 3 10YR4/1褐灰色シルト質粘土(やわらかい。灰色微砂を混入する。)
- 10YR4/6褐色砂混じりシルト(黒褐色粘質シルトを斑状に少量含む。)
- 10YR4/6褐色粘質シルト(黒褐色粘質シルトを点状に少量含む。)
- 6 10YR3/2里褐色シルト質粘土(5の土をブロック状に少量含む。)

SB180-EB5

- 10YR2/2黒褐色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを含み、炭化粒、橙色 焼土を点状に多く含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを斑状に少量含む。)
- 10YR1.7/1黒色粘質シルト(黄褐色シルト質粘土を点状に微量含み、 焼土粒を微量含む。
- 4 10YR5/3にぶい黄褐色シルト質粘土(3の土を少量混入する。)

SB180-EB6 h-h'

- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトをブロック状に含み、橙色 焼土を点状に多く含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトをブロック状に少量含む。)
- 10YR5/4にぶい黄褐色シルト質粘土(2の土を斑状に少量混入する。)
- 4 10YR1.7/1黒色粘質シルト(褐色粘質シルトと灰色シルト質粘土を斑状 に含む。)

SB500-FB5 h-h'

- 10YR2/1黒色粘質シルト(炭化粒と橙色焼土を点状に微量含む。) 10YR2/2黒褐色粘質シルト(黄褐色粘質シルトとを点状に少量含む。)
- 3 5YR2/1黒褐色粘土(褐色シルト質粘土を点状に微量含む。)

SR180-FR6 i-i-

- 10YR3/2黒褐色シルト(黄褐色粘質シルトをマダラ状に多く含む。)
- 10YR5/6黄褐色粘質シルト(黒褐色シルトをマダラ状に混入する。)

- SB500-FB5 i-i' 10YR3/2黒褐色シルト(灰色粘質シルトをマダラ状に微量混入する。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(炭化粒を点状に含み、黄褐色シルトを微量混 入する。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色シルトと灰色シルトをマダラ状に含む。)
- 10YR5/6黄褐色粘質シルト(灰色シルトをマダラ状に多量混入し、2の 七を少量含む。)
- 10YR2/3黒褐色シルト(黄褐色粘質シルトをブロック状に少量含む。)
- 10YR3/4暗褐色粘質シルト(5の土をマダラ状に多く混入する。)
- 10YR5/6黄褐色粘質シルト(5の土を点状に微量含む。)
- 8 10YR3/3暗褐色粘質シルト(黒色粘質シルトを点状に少量含む。)

SB180-EB7 i-

- 1 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを少量混入し、橙色焼土粒
- 10YR2/2黒褐色粘質シルト(黄褐色粘質シルトをブロック状に含む。)
- 10YR5/6黄褐色粘質シルト(2の土を斑状に微量含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトをブロック状に含む。)

SB500-EB6 i-i-

- 1 10YR2/2黒褐色シルト(黄褐色粘質シルトと橙色焼土、炭化粒を点状に 少量含む。)
- 10YR4/6褐色粘質シルト(黒褐色シルトを帯状に少量含む。)
- 10YR2/2黒褐色粘質シルト(炭化粒、橙色焼土を点状に微量含み、黄褐色 粘質シルトをブロック状に含む。)

- 10YR2/2黒褐色シルト(赤褐色焼土粒を微量含み、炭化粒を点状に含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを斑状に混入し、炭化粒も 微量点状に含む。)
- 7.5YR4/4褐色粘質シルト(2の土を斑状に多く混入する。)
- 10YR2/3黒褐色シルト(黄褐色シルトを斑状に多く含む。) 10YR2/2黒褐色シルト(黄褐色シルトを斑状に多く混入し、焼土を点状 に含む。)
- 10YR2/3黒褐色シルト(4の土と黒色粘性シルトを含み、黄褐色シルトを 斑状に混入する。
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色シルトを点状に少量含む。)

SB500-EB6 k-k'

- 10YR2/2黒褐色シルト(黄褐色シルトを帯状に少量含む。)
- 10YR5/6黄褐色シルト(黒褐色粘質シルトを斑状に混入する。)
- 3 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトと灰色粘質シルトをブロ ック状に少量混入する。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色シルトを斑状に含み、灰褐色微砂を 帯状に含む。)

SR180-FR8

- 1 10YR2/1黒色シルト(褐色粘質シルトを斑状に混入し、炭化粒、橙色焼土を点状に多く含む。)
- 10YR3/3暗褐色シルト(1の土をブロック状に少量含み、橙色焼土を 点状に含む。)
- 3 10YR2/2黒褐色シルト(褐色粘質シルトを斑状に多く含む。)
- 4 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト(3の土を斑状に少量含む。)

SR180-FR9

- 1 10YR3/1黒褐色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを斑状に含み、炭化 粒を点状に少量含む。)
- 2 10YR4/4 褐色粘質シルト(黒褐色粘質シルトを斑状に多く混入し、 炭化粒を含み、焼土粒をブロック状に含む。)
- 3 10YR1.7/1黒色粘質シルト(橙色焼土粒を点状に多く含む。やわら
- 10YR5/6黄褐色粘質シルト(黒褐色シルトを斑状に多く含む。)
- 5 10YR2/2黒褐色シルト(黄褐色粘質シルトを点状に微量含む。)
- 6 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトをブロック状に少量 会す。
- 7 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト(6の土を斑状に少量混入する。)

SR180-EB10

- 10YR2/1黒色シルト(黄褐色粘質シルトを斑状に多く混入する。)
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト(黒色シルトを斑状に少量含む。)

- 1 10YR2/1黒色シルト(橙色焼土と炭化物を点状に多く含み、褐色粘 質シルトを少量混入する。)
- 2 10YR4/4褐色シルト(黒色粘質シルトと灰褐色シルトを斑状に含む。)
- 3 10YR3/4暗褐色粘質シルト(黒色シルトを点状に少量含む。)
- 4 10YR2/1黒色粘質シルト(褐色粘質シルトを斑状に混入する。)
- 5 10YR2/1黒色粘質シルト(褐色粘質シルトを斑状に混入する。)

SB180-EB12

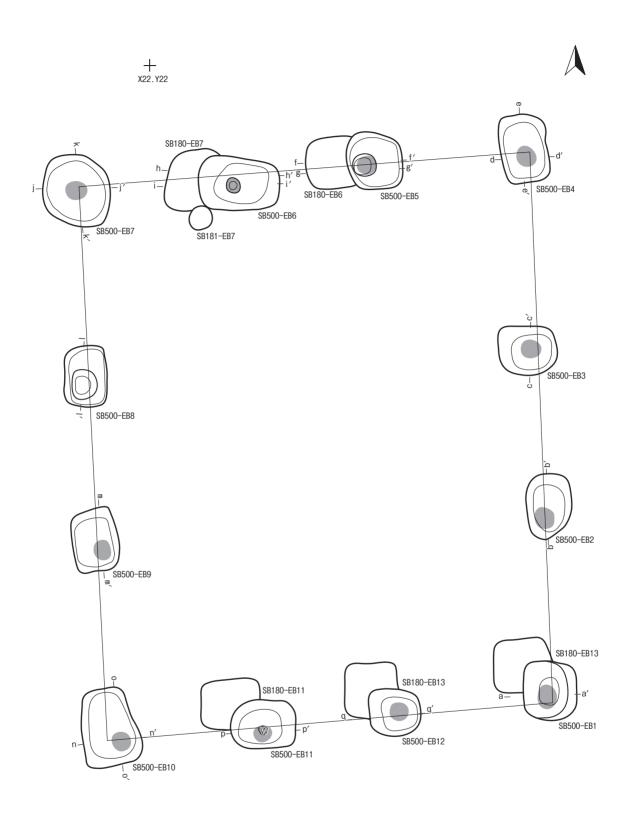
- 1 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを斑状に少量含み、橙 色焼土粒を点状に微量含む。)
- 2 10YRI.7/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトをブロック状に少量 含み、橙色焼土粒を点状に多く混入する。)
- 3 10YR2/2黒褐色シルト(黄褐色粘質シルトを斑状に含む。)
- 4 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを斑状に少量含む。)

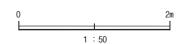
SB180-EB13

- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトをブロック状に含む。)
- 10YR4/4褐色粘質シルト(黒褐色粘質シルトをブロック、斑状に混 入する。)
- 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト(黒褐色粘質シルトを少量含み微砂を 微量含む。

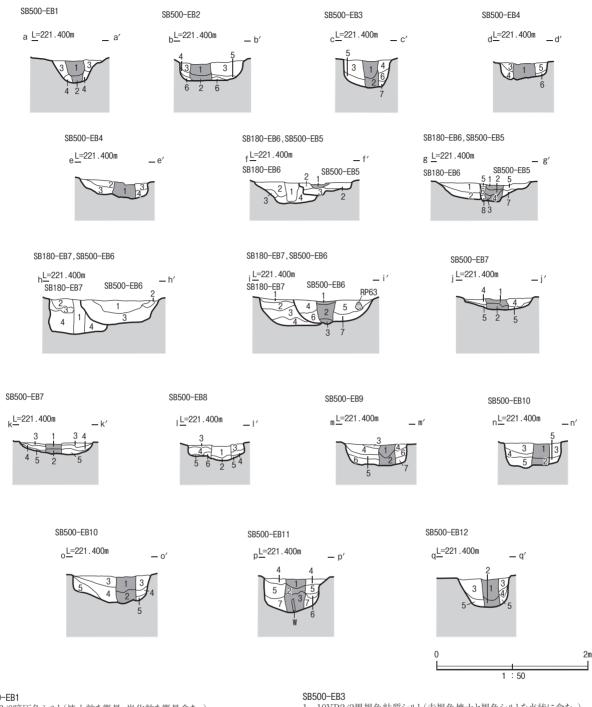
SB500-EB1

- 10YR2/2黒褐色粘質シルト(黄褐色粘質シルトをブロック状、斑状 に含む。)
- 2 10YR4/6褐色粘質シルト(1の土を斑状に多く含む。)





第22図 SB500掘立柱建物(1)



SB500-FB1

- N3/0暗灰色シルト(焼土粒を微量、炭化粒を微量含む。)
- N3/0暗灰色粘土質シルト(ほぼ均質。)
- 3 7.5YR3/1黒褐色砂質シルト(黄褐色シルトを斑状、塊状に多く含む。)
- N3/0暗灰色粘土質シルト(黄灰色シルトを斑状に多く含む。) 4

SB500-EB2

- 10YR2/1黒色粘質シルト(褐色シルトを点状に含む。)
- 10YR3/1黒褐色粘土(褐色微砂を点状に微量含む。)
- 10YR2/2黒褐色シルト(褐色シルトをマダラ状に混入する。)
- 10YR3/1黒褐色粘質シルト(褐色シルトを微量含む。)
- 10YR4/4褐色砂混じりシルト(3の土をブロック状に混入する。)
- 10YR4/3にぶい黄褐色砂混じりシルト(褐色微砂を混入する。)

- 10YR2/2黒褐色粘質シルト(赤褐色焼土と褐色シルトを点状に含む。)
- 10YR3/1黒褐色粘土(炭化粒を点状に微量含む。)
- 10YR2/2黒褐色シルト(褐色粘質シルト多く、焼土粒を微量含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(焼土をブロック、点状に少量含み、褐色 粘質シルトを微量混入する。)
- 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト(3の土を斑状に多量混入する。)
- 10YR3/1黒褐色粘質シルト(褐色粘質シルトを斑状に少量含む。)
- 10YR3/1黒褐色粘質シルト(褐色微砂を点状に微量含む。)

SB500-EB4

- 10YR2/1黒色粘質シルト(褐色焼土を点状に微量含み、木片も含む。)
- 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト(黒色粘質シルトを帯状に含む。)
- 10YR2/2黒褐色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを斑状に混入する。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを斑状に少量含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを小ブロックで含み、 焼土粒を微量混入する。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトとを含み炭化粒を混入。)

第23図 SB500掘立柱建物(2)

SR180-FR6 f-f'

- 1 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトをブロック状に含み、 橙色焼土を点状に多く含む。)
- 2 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトをブロック状に少量 会す(。)
- 3 10YR5/4にぶい黄褐色シルト質粘土(2の土を斑状に少量混入。)
- 4 10YR1.7/1黒色粘質シルト(褐色粘質シルトと灰色シルト質粘土 を斑状に含む。)

SR500-FR5 f-f'

- 1 10YR2/1黒色粘質シルト(炭化粒と橙色焼土を点状に微量含む。)
- 2 10YR2/2黒褐色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを点状に少量含む。)
- 3 5YR2/1黒褐色粘土(褐色シルト質粘土を点状に微量含む。)

SB180-EB6 g-g

- 10YR3/2黒褐色シルト(黄褐色粘質シルトをマダラ状に多く含む。)
- 10YR5/6黄褐色粘質シルト(黒褐色シルトをマダラ状に混入する。)

SB500-EB5 g-g'

- 1 10YR3/2黒褐色シルト(灰色粘質シルトをマダラ状に微量混入する。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(炭化粒を点状に含み、黄褐色シルトを微
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色シルトと灰色シルトをマダラ状に 含む。)
- 10YR5/6黄褐色粘質シルト(灰色シルトをマダラ状に多量混入し、 2の土を少量含む。)
- 10YR2/3黒褐色シルト(黄褐色粘質シルトをブロック状に少量含む。)
- 10YR3/4暗褐色粘質シルト(5の土をマダラ状に多く混入する。) 10YR5/6黄褐色粘質シルト(5の土を点状に微量含む。)
- 8 10YR3/3暗褐色粘質シルト(黒色粘質シルトを点状に少量含む。)

SB180-EB7 h-h'

- 1 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを少量混入し、橙色焼 土粒を微量含む。)
- 10YR2/2黒褐色粘質シルト(黄褐色粘質シルトをブロック状に少量 含す(こ)
- 3 10YR5/6黄褐色粘質シルト(2の土を斑状に微量含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトをブロック状に混入。)

SB500-EB6 h-h'

- 1 10YR2/2黒褐色シルト(黄褐色粘質シルトと橙色焼土、炭化粒を点 状に少量含む。
- 2 10YR4/6褐色粘質シルト(黒褐色土を帯状に少量含む。)
- 10YR2/2黒褐色粘質シルト(炭化粒、橙色焼土を点状に微量含み、 黄褐色粘質シルトをブロック状に含む。)

SB500-EB6 i-i'

- 1 10YR2/2黒褐色シルト(赤褐色焼土粒を微量含み、炭化粒を点状に 含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを斑状に混入し、炭化 粒も微量点状に含む。)
- 7.5YR4/4褐色粘質シルト(2の土を斑状に多く混入する。)
- 10YR2/3黒褐色シルト(黄褐色シルトを斑状に多く含む。)
- 10YR2/2黒褐色シルト(黄褐色シルトを斑状に多く混入し、焼土を点 状に含む。)
- 10YR2/3黒褐色シルト(4の土と黒色粘質シルトを含み、黄褐色シルト を斑状に混入する。)
- 7 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色シルトを点状に少量含む。)

SB180-EB7 i-i'

- 10YR2/2黒褐色シルト(黄褐色シルトを帯状に少量含む。)
- 10YR5/6黄褐色シルト(黒褐色粘質シルトを斑状に混入する。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトと灰色粘質シルトをブロ ック状に少量混入する。)
- 4 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色シルトを斑状に含み、灰褐色微砂を 帯状に含む。)

- 1 10YR2/1黒色粘質シルト(赤褐色焼土粒を点状に微量含む。)
- 10YR1.7/1黒色粘質シルト(赤褐色焼土粒と炭化粒を点状に微量
- 3 10YR3/3暗褐色シルト(黄褐色シルトと焼土粒を点状に少量含む。)
- 10YR2/2黒褐色シルト(褐色シルトを斑状に多く混入する。)
- 5 10YR4/4褐色シルト(小礫と微砂を多く混入する。)

SR500-FR8

- 1 10YR2/1黒色シルト(炭化粒と焼土粒を点状に微量含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(褐灰色微砂を帯状に含む。)
- 3 10YR2/2黒褐色シルト(炭化粒を点状に含み、褐色シルトを帯状・ ブロック状に混入する。)
- 10YR2/2黒褐色粘質シルト(褐色シルトを点状に少量含む。)
- 5 10YR4/4褐色シルト(黒褐色シルトをマダラ状に多く混入する。
- 6 10YR3/4暗褐色シルト(黒褐色粘質シルトをマダラ状に少量混入。)

SR500-FR9

- 1 10YR2/3黒褐色シルト(焼土粒、炭化粒を点状に含み、褐色シルト
- を微量含む。) 2 10YR2/1黒色粘質シルト(炭化粒、褐色シルトを点状に含み、褐灰 色微砂をマダラ状に混入する。)
- 3 7.5YR4/2灰褐色砂混じりシルト(黒褐色シルトをマダラ状に含む。)
- 4 10YR2/2黒褐色シルト(褐色シルトを小ブロックで少量含む。) 5 10YR2/2黒褐色粘質シルト(褐色シルトを点状に微量含む。)
- 6 10YR2/2黒褐色粘質シルト(褐色シルトをブロック状に多く含み、 焼土を占状に含む。)
- 7 10YR2/2黒褐色粘質シルト(褐色シルトをマダラ状に少量混入する。)

- 1 10YR2/1黒色粘質シルト(赤褐色焼土粒と炭化粒を点状に少量混 入する。)
- 2 10YR1.7/1黒色粘質シルト(赤褐色焼土粒と炭化粒を点状に微量 含む。)
- 3 10YR2/2黒褐色シルト(赤褐色焼土粒を点状に少量含み、褐色シ ルトを微量混入する。
- 4 10YR2/2黒褐色粘質シルト(褐色シルトを小ブロックで少量含み、 赤褐色焼土粒を微量含む。)
- 5 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト(4の土を斑状に少量混入する。)

SR500-FR11

- 10YR2/2黒褐色シルト(赤色焼土粒を点状に少量含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(赤色焼土粒を点状に微量含む。)
- 3 10YR1.7/1黒色粘質シルト(しまりなくやわらかい。)
- 4 10YR2/3黒褐色シルト(褐色シルトを斑状に含み、赤褐色焼土粒を 占状に含む。)
- 10YR2/3黒褐色粘質シルト(褐色シルトと赤褐色焼土粒を点状に 少量含む。)
- 10YR5/3にぶい黄褐色微砂(黒褐色粘質シルトを斑状に微量含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(褐灰色微砂を斑状に少量混入する。しま りなくやわらかい。)

SB500-FB12

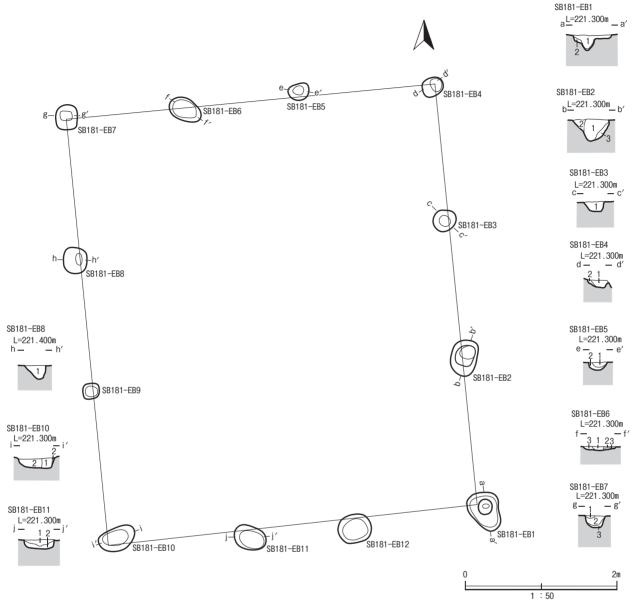
- 1 10YR2/1黒色シルト(赤褐色焼土粒を点状に微量含む。)
- 2 10YR1.7/1黒色粘質シルト(褐色微砂を少量含む。やわらかい。)
- 3 10YR2/2黒褐色シルト(褐色シルトを斑状に多く混入する。

5 10YR2/1黒色粘質シルト(褐色微砂を斑状に少量含む。)

4 10YR2/2黒褐色粘質シルト(褐色シルトをブロック状に微量含む。)

53

X22. Y22



- 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性やや強い。炭化物を少量含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(しまり強い。粘性やや強い。にぶい黄褐色シ ルトブロックを少量含む。)

SB181-EB2

- 10YR2/1黒色シルト(しまり強い。粘性中程度。炭化物、酸化鉄、 にぶい黄褐色シルトを少量含む。
- 10YR5/3にぶい黄褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。黒褐色 シルトブロックを微量含む。)
- 10YR3/1黒褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。にぶい黄褐色 シルトを微量含む。)

SB181-EB3

10YR2/2黒褐色シルト(炭化物、酸化鉄、にぶい黄褐色シルトを 少量ずつ含む。)

- 10YR2/1黒色シルト(褐色シルトを塊状に含む。)
- 2 10YR4/6褐色シルト(酸化土を少量含む。)

- 10YR3/2黒褐色シルト(しまり強く、粘性あり。酸化鉄を微量含む。)
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。)

- 10YR2/3黒褐色シルト(褐色シルトと酸化土を粒状に含む。) 10YR2/3黒褐色シルト(褐色シルトと酸化土を層状に含む。) 10YR4/6褐色シルト(黒褐色シルトを含む。)

- 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性中程度。) 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性あり。灰黄褐色シルト ブロックをやや多く含む。)
- 10YR3/2黒褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。灰黄褐色シ ルトブロックを微量含む。)

SB181-EB8

10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性中程度。炭化物、酸化 鉄、褐色シルト、にぶい黄褐色シルトを少量含む。)

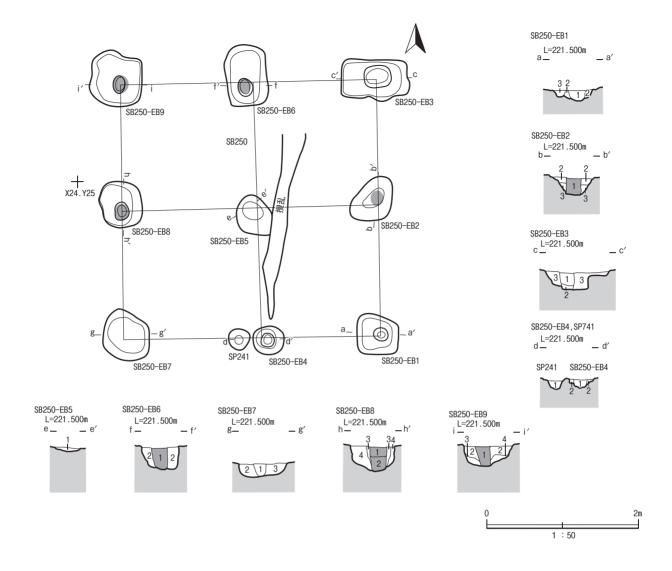
SB181-EB10

- 1 10YR2/1黒色シルト(褐色シルトを粒状に少量含む。)
- 10YR2/3黒褐色シルト(黒色シルト粒を少量、褐色シルトを斑 状に含む。)

SB181-EB11

- 10YR2/2黒褐色シルト(しまり強く、粘性やや弱い。炭化物、 暗褐色砂質シルトを少量含む。) 2 10YR3/4暗褐色砂質シルト(しまり強く、粘性弱い。)

第24図 SB181掘立柱建物



SB250-EB1

- 1 10YR2/1黒色粘土質シルト(褐色粘土を斑状に多く含む。) 2 10YR4/6褐色粘土(黒色粘土質シルトを班状に少量含む。) 3 10YR2/1黒色粘土質シルト(褐色粘土を斑状に多く含む。)

SB250-EB2

- 1 10YR2/1黒色粘土質シルト(褐色粘土を斑状に少量含む。)
- 2 10YR4/6褐色粘土(黒色粘土質シルトを斑状に少量含む。) 3 10YR4/6褐色粘土(黒色粘土質シルトを塊状に含む。)

SB250-EB3

- 1 10YR2/1黒色粘土質シルト(褐色粘土を斑状に多く含む。) 2 10YR4/6褐色粘土(黒褐色シルトを少量含む。) 3 10YR4/6褐色粘土(黒色粘土質シルトを斑に少量含む。)

- 7.5YR3/1黒褐色粘土質シルト(焼土粒、炭化物を微量含む。)
- 2 7.5YR4/2灰褐色粘土(黄褐色シルトを点状に含む。)

1 10YR2/1黒色粘土質シルト(黄褐色粘土を斑状に多く含む。)

1 7.5YR2/3極暗褐色粘土質シルト(黄褐色シルトを塊状に、黒 色シルトを粒状に少量含む。)

SB250-FB6

- 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト(黄褐色シルトを塊状に含み、 黒色土を粒状に含む。)
- 2 10YR4/4褐色粘土質シルト(黒褐色シルトを塊状に含む。)

SB250-EB7

- 10YR2/2黒褐色粘土質シルト(黄褐色シルトを塊状に、黒色シルト を粒状に微量含む。)
- 7.5YR4/2灰褐色粘土質シルト(黒褐色シルトを塊状に含み、焼土粒 を微量含む。)
- 3 10YR2/2黒褐色粘土質シルト(黒色粘質シルトと黄褐色シルトを塊 状に含み、焼土を微量含む。)

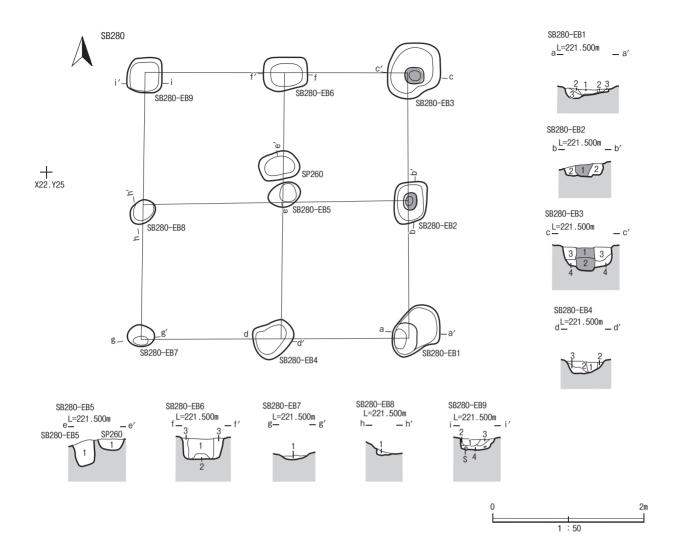
SB250-EB8

- 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト(黄褐色シルトと灰褐色シルトを塊状
- 10YR2/2黒褐色粘土質シルト(黄褐色シルトと灰褐色シルトを粒状 に少量含む。)
- 10YR2/2黒褐色粘土質シルト(黄褐色シルトを斑状に微量含む。)
- 10YR2/2黒褐色粘土質シルト(黄褐色シルト、黒色粘質シルトを斑 状に含む。)

SB250-EB9

- 10YR2/2黒褐色粘土質シルト(黄褐色シルトを粒状に含む。)
- 10YR4/6褐色粘土質シルト(黒色粘質シルトを班状に多く含む。)
- 3 10YR2/2黒褐色粘土質シルト(黄褐色シルトを粒状に含む。)
- 4 10YR4/6褐色粘土(黒色粘質シルトを粒状に含む。)

第25図 SB250掘立柱建物



SB280-EB1

- 10YR2/2黒褐色シルト(酸化土と黒色シルトを粒状に少量含む。)
- 2 10YR3/2黒褐色砂質シルト(酸化土と黒色シルトを粒状に含む。) 3 10YR2/2黒褐色砂質シルト(酸化土を少量含み、小礫が混じる。)

- 1 10YR2/3黒褐色シルト(黄褐色シルト粒を少量含む。)
- 2 10YR2/3黒褐色砂質シルト(黄褐色シルト粒を少量含む。)

SB280-EB3

- 10YR3/2黒褐色シルト(灰褐色砂質シルトを塊状に含み、小礫を 1 含む。)
- 10YR2/2黒褐色砂質シルト(酸化土と小礫を少量含む。)
- 10YR2/2黒褐色シルト(酸化土と灰褐色砂質シルトを層状に含む。) 10YR2/2黒褐色シルト(酸化土を少量含む。) 3
- 4

SB280-EB4

- 1 N2/0黒色砂質シルト(黄褐色シルト粒と小礫を少量含む。) 2 7.5YR2/2黒褐色砂質シルト(黒色シルト粒を微量、酸化土を少量 含む。)
- 3 7.5YR4/1褐灰色砂質シルト(黄褐色シルト粒を微量、小礫を少量 含む。)

SB280-EB5

- 1 10YR2/1黒色シルト(黄褐色シルト粒を微量含む。ほぼ均質。) SP260
- 1 10YR2/2黒褐色シルト(黄褐色シルト粒を微量含む。ほぼ均質。)

SB280-EB6

- 10YR2/2黒褐色シルト(黒灰色砂質シルトを塊状に含み、黄褐 色土粒を微量混入する。)
- 10YR2/1黒色砂質シルト(黄褐色シルト粒を微量に含む。)
- 3 10YR2/2黒褐色シルト(暗褐色シルトを塊状に含む。)

SB280-EB7

1 10YR2/2黒褐色シルト(礫、砂を多量に混入する。)

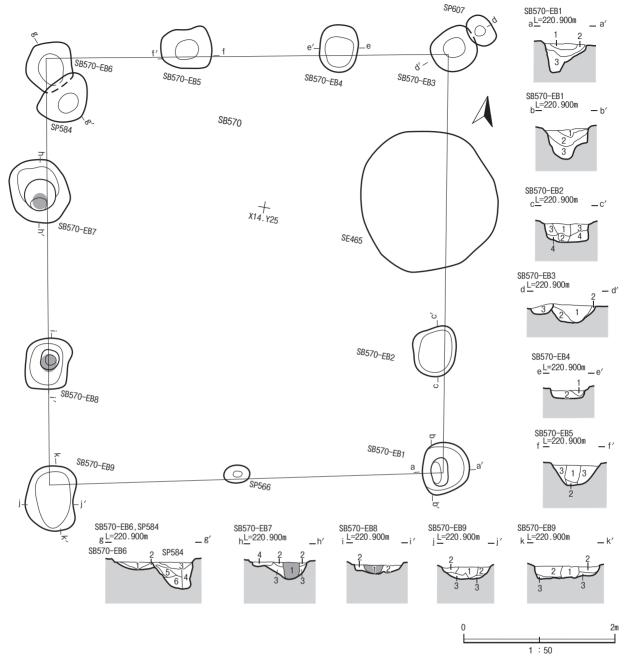
SB280-EB8

1 10YR3/1黒褐色シルト(ほぼ均質。下層は礫層。)

SB280-EB9

- 1 10YR2/2黒褐色シルト(ほぼ均質。)
- 2 10YR2/2黒褐色シルト(黄褐色シルト粒を少量含む。灰褐色砂 質シルトを塊状に含む。)
- 3 10YR2/2黒褐色シルト(灰褐色砂質シルトを少量含み、黄褐色 土を点状に少量含む。)
- 4 N2/1黒色シルト(褐色砂質シルトを塊状に含む。礫を含む。)

第26図 SB280掘立柱建物



SB570-EB1

- 1 10YR2/1黒色シルト(褐色シルトを粒状に少量含む。) 2 10YR4/6褐色シルト(黒色シルトを斑状に多く含む。) 3 10YR1.7/1黒色シルト(褐色シルトを点状に少量含む。)

SB570-FB2

- 10YR2/1黒色シルト(褐色シルトを粒状に微量含む。)
- 10YR4/6褐色シルト(黒色シルトを斑状に少量含む。)
- 10YR2/2黒褐色シルト(褐色シルトをブロック状及び斑状に含む。)
- 4 10YR3/3暗褐色シルト(褐色シルトを斑状に少量含む。)

SB570-EB3

- 1 10YR2/1黒色シルト(しまる。褐色シルトを粒状に微量含む。) 2 10YR4/6褐色シルト(しまり強く粘性あり。黒色シルトを少量含む。) 3 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、褐色シルトを粒状に微量含む。)

- 1 10YR3/1黒褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。) 2 10YR4/6褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。)

SB570-EB5

- 1 10YR2/1黒色シルト(しまりあり。褐色シルトを粒状に微量含む。)
- 2 10YR2/1黒色シルト(しまり、粘性あり。褐色シルトを粒状に含む。) 3 10YR2/1黒色シルト(褐色シルトプロックを粒状にやや多く含む。)

SB570-EB6, SP584

- 10YR2/1黒色シルト(褐色シルトを粒状に極微量含む。) 10YR4/6褐色シルト(黒色シルトブロックを3割程含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(褐色シルトを粒状に少量含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(褐色シルトを粒状に極微量含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(褐色シルトを粒状に微量含む。)
- 10YR4/6褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。)

SB570-EB7

- 5/0-EB/ 10YR1.7/1黒色シルト(褐色シルトプロックを少量含む。) 10YR1.7/1黒色シルト(褐色シルトプロックを微量含む。) 10YR4/4褐色シルト(黒色シルトプロックを少量含む。) 10YR1.7/1黒色シルト(褐色シルトプロックを少量含む。)

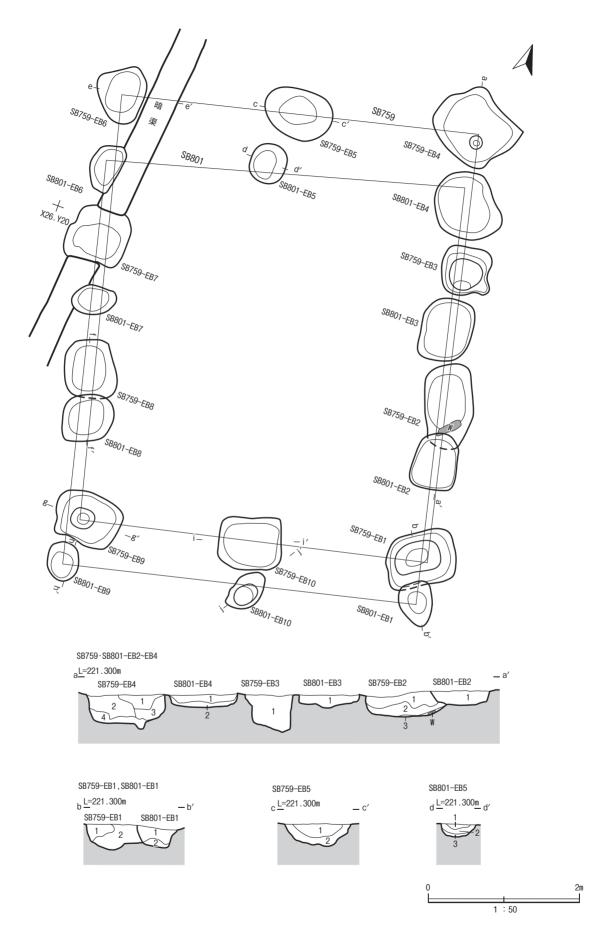
SB570-EB8

- 1 10YR1.7/1黒色シルト(褐色シルトブロックを少量含む。)
- 2 10YR1.7/1黒色シルト(褐色シルトブロックをやや多く含む。)

SB570-EB9

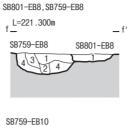
- 10YR1.7/1黒色シルト(褐色シルトを粒状に微量含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(褐色シルトを斑状に少量含む。)
- 10YR4/4褐色シルト(黒褐色シルトを斑状に少量含む。)

第27図 SB570掘立柱建物

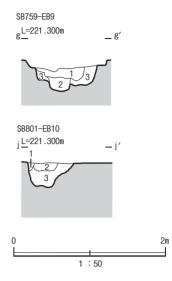


第28図 SB759・801掘立柱建物(1)

SR759-FR6 e <u>L</u>=221.300m SB801-FB9 L=221.300m _ h'



i <u>L</u>=221.300m



SB759-EB2

- 10YR3/2黒褐色砂混じりシルト(しまり強く、粘性中程度。酸化土、 風化礫(φ5~10mm)を含み、炭化物を微量含む。)
- 10YR3/3暗褐色シルト(しまり強く、粘性やや強い。酸化鉄を少量
- 10YR2/1黒色砂混じりシルト(しまり強く、粘性やや強い。)

SB801-EB2

10YR2/2黒褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。にぶい黄褐色砂 混じりシルト、酸化鉄、炭化物を含む。)

SB759-EB3

10YR2/2黒褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。暗褐色砂質シル ト30%、風化礫(φ5~15mm)を少量含と炭化物を微量含む。)

1 10YR2/2黒褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。暗褐色砂質シル ト30%、風化礫(φ5~15mm)を少量と炭化物を微量含む。)

SB759-EB4

- 10VR2/2里褐色シルト(しまり強く、粘性中、酸化鉄やや多く炭 化物微量含む。
- 10VR2/2里褐色シルト() まり強く、粘性中。暗褐色砂質シルト 酸化鉄少量含む。)
- 10YR2/2黒褐色シルト(しまり強く、粘性中。暗褐色砂質シルト 3 と酸化鉄を少量含む。)
- 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト(しまり中程度、粘性中。黒褐色 シルトと酸化鉄を少量含む。)

SB801-EB4

- 10YR2/2黒褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。暗褐色砂質シルト、 風化礫を少量と炭化物を微量含む。)
- 10YR2/3黒褐色砂質シルト(しまり強く、粘性中程度。風化礫と酸化 鉄を少量含む。)

SB759-EB1

- 10YR2/2黒褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。極少粒の風化礫を 小量会す。)
- 2 10YR2/2里褐色粘質シルト(にぶい黄褐色シルトを多く含む。)

- 1 10YR2/2黒褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。にぶい黄褐色シル トを20%、酸化土と炭化物を少量含む。)
- 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。酸化鉄を少 量含む。)

- 1 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性中程度。酸化鉄を少量含む。)
- 10YR4/3にぶい黄褐色砂混じりシルト(しまり強く、粘性中程度。 酸化鉄を少量含む。)

SR801-FR5

- 10YR3/3暗褐色砂質シルト(しまり強く、粘性中程度。黒色シルト ブロック、酸化鉄を少量含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性中程度。暗褐色シルトプロ ックを少量含む。
- 10YR3/1黒褐色砂質シルト(しまり強く、粘性やや強い。酸化鉄を 少量含む。)

SR759-FR6

- 10YR3/2黒褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。炭化物、酸化 鉄を少量含む。)
- 10YR2/3黒褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。黒褐色シル トブロック、にぶい黄褐色砂混じりシルトブロックを少量含む。)

SB759-FB8

- 1 10YR2/1黒色シルト(炭化物を少量含む。焼土粒を微量含む。 褐色シルトを塊状に含む。礫を少量含む。)
- 10YR1.7/1黒色シルト(炭化物と褐色シルト粒を微量含む。) 10YR3/4暗褐色砂質シルト(黒色粘質シルトを塊状に、焼土を 少量含む。
- 10YR2/2黒色粘土質シルト(4の土と斑に混る。)

SB801-FB8

10YR2/2黒褐色シルト(砂を層状に含む。小礫を含む。炭化物と 焼土を微量含む。)

SB759-FB9

- 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性あり。褐色粗砂を多く含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性あり。褐色粗砂を微量含む。) 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性やや強い。褐色粗砂をブロ
- ック状に含み、炭化物を少量含む。)

SB759-EB10

1 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性中程度。炭化物・酸化土を 微量極小粒の風化礫を全体に少量含む。)

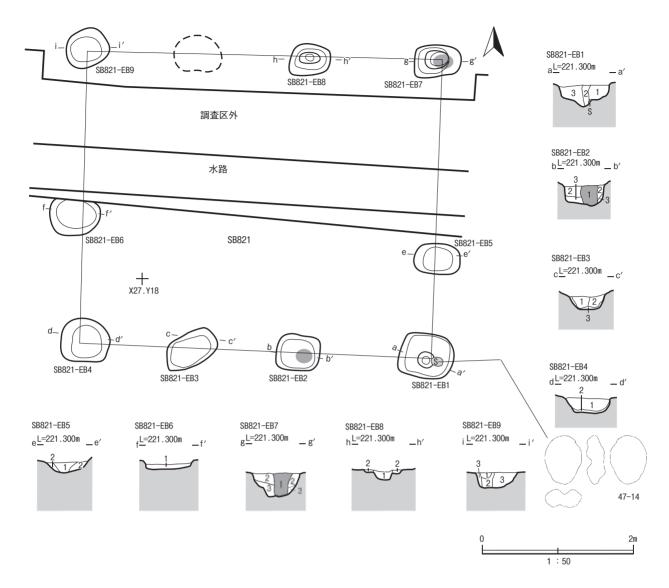
SB801-EB9

- 10YR1.7/1黒色シルト(褐色シルト粒、酸化土を微量含む。)
- 2 7.5YR4/4褐色シルト(1の土を塊状に含む。)

SB801-FB10

- 10YR3/3暗褐色シルト(しまり強く、粘性あり。酸化鉄を少量含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性中程度。酸化鉄を少量と極 小粒の風化礫を微量含む。)
- 3 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性中程度。暗褐色シルトブロ ックを微量含む。)

第29図 SB759·801掘立柱建物(2)



SB821-EB1

- 1 10YR2/1黒色シルト(しまり強い。粘性中程度。褐色シルトを粒 状に微量含む。)
- 2 10YR2/1黒色シルト(しまり強い。粘性中程度。褐色シルトをブロック上に少量含む。)
- 3 10YR4/4褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。黒色シルトをプロック上状にやや多く含む。)

SB821-EB2

- 1 10YR2/1黒色シルト(しまり強い。粘性中程度。褐色シルトを上層から中層にかけて微量含む。)
- 2 10YR2/1黒色シルト(しまり強い。粘性中程度。褐色シルトプロックをやや多く含む。)
- 3 10YR4/4褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。黒色シルト少量含む。)

SB821-EB3

- 1 10YR3/1黒褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。褐色シルトプロックを上層に少量、炭化物を微量含む。)
- 2 10YR2/1黒色シルト(しまり強い。粘性中程度。褐色シルトを粒状に少量含む。)
- 3 10YR4/4褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。)

SB821-EB4

- 1 10YR2/1黒色シルト(しまり強い。粘性中程度。褐色シルトを全体にやや多く含む。)
- 2 10YR4/4褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。)

SB821-EB5

- 1 10YR3/1黒褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。褐色シルトブロックを上層に少量含む。)
- 2 10YR3/1黒褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。褐色シルトをや多く含む。)

SB821-EB6

1 10YR4/4褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。)

SB821-EB7

- 1 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性強い。黄褐色シルトを微量含む。)
- 2 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性強い。黄褐色シルトをや や多く含む。)
- 3 10YR5/6黄褐色シルト(しまり強く、粘性強い。黒色シルトを微量含む。)

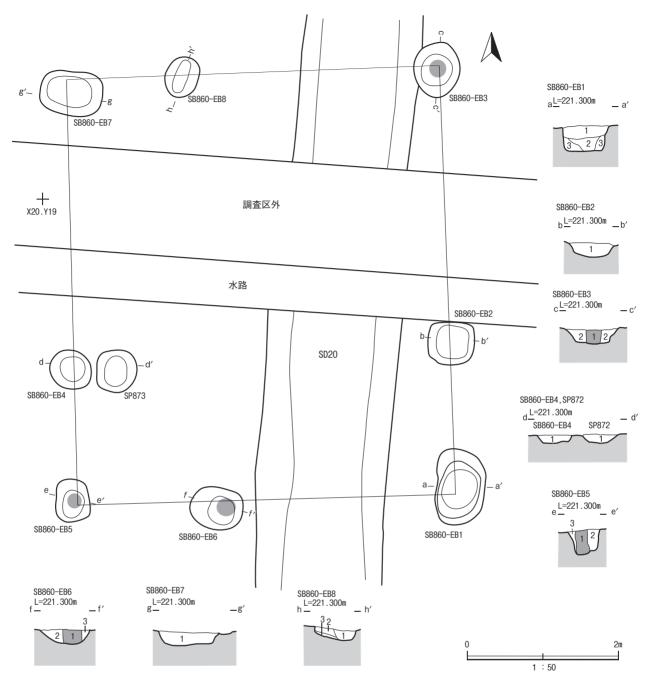
SB821-EB8

- 1 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性強い。黄褐色シルトを少量含む。)
- 2 10YR5/6黄褐色シルト(しまり強く、粘性強い。)

SB821-EB9

- 1 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性強い。黄褐色シルトを微量含む。)
- 2 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性強い。)
- 3 10YR5/6黄褐色シルト(しまり強く、粘性強い。黒色シルトを少量含む。)

第30図 SB821掘立柱建物



SB860-EB1

- 1 10YR2/1黒色シルト(しまりやや強く、粘性中。褐灰色砂と風化礫 を少量含む。
- 2 10YR2/1黒色砂まじりシルト(しまりやや強く、粘性中程度。円礫 を少量含む。)
- 3 10YR5/1褐灰色砂(しまり中程度。円礫を少量含む。)

SB860-EB2

1 10YR2/1黒色砂質シルト(しまり中程度。粘性やや弱く円礫を多 (含む。)

SB860-EB3

- 1 10YR2/1黒色砂まじりシルト(しまりやや強く、粘性中程度。暗褐 色シルトを微量含む。)
- 10YR2/1黒色砂まじりシルト(しまりやや強く、粘性中程度。暗褐 色シルトと円礫を微量含む。)

SB860-EB4

1 10YR2/1黒色シルト(しまり中程度、粘性あり。極小粒の砂粒を 少量含む。)

SP872

1 10YR2/2黒褐色シルト(しまり中程度、粘性あり。極小粒の砂粒 を少量含む。)

SB860-EB5

- 1 10YR2/1黒色シルト(しまりやや強く、粘性中程度。黒色砂質 シルトが少量まじる。)
- 10YR2/1黒色シルト(しまりやや強く、粘性中程度。黒色砂質 シルトと円礫を含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(しまりやや強く、粘性あり。にぶい黄褐色シルトを微量含む。)

SB860-EB6

- 1 10YR2/1黒色シルト(しまる。黒色砂質シルトを少量含む。) 2 10YR2/2黒褐色シルト(しまる。黒色シルトを粒状に含む。) 3 10YR2/2黒褐色シルト(にぶい黄褐色シルトを粒状に微量含む。)

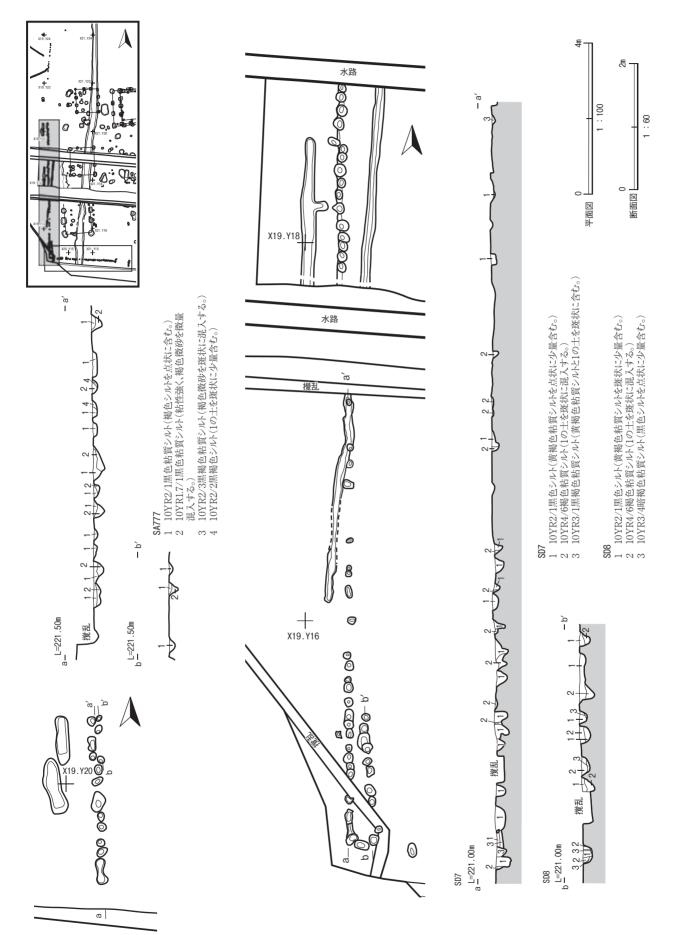
SB860-EB7

10YR2/1黒色シルト(しまりやや強く、粘性中程度。暗褐色シルトを上層に円礫を下層に微量含む。)

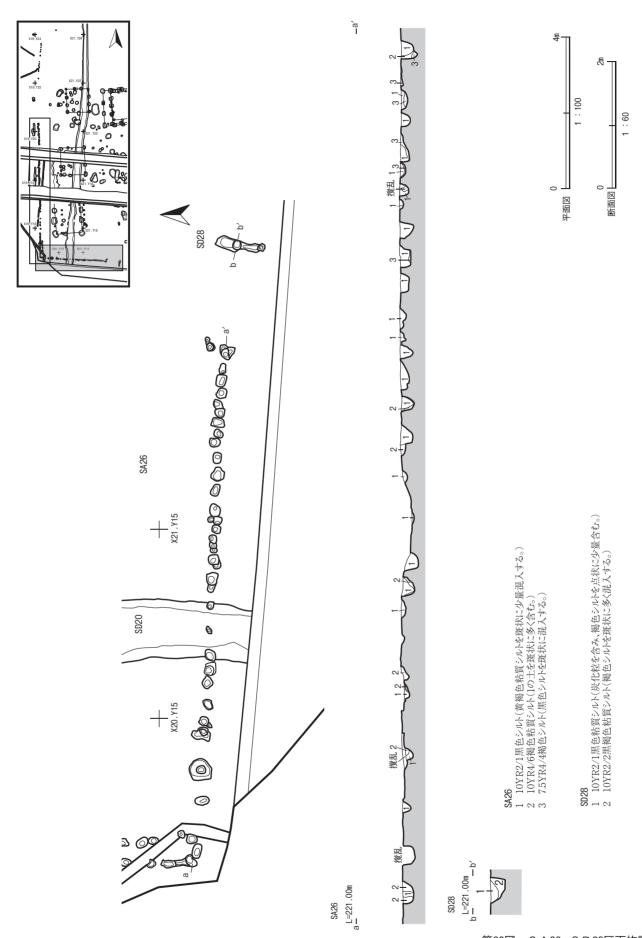
SB860-EB8

- N2/0黒色シルト(しまり、粘性あり。風化礫と炭化物を含む。) 10YR3/1黒褐色シルト(風化礫と炭化物を微量含む。)
- 2.5Y3/1黒褐色砂まじりシルト(しまり強く、粘性中程度。小礫 を多量に含む。)

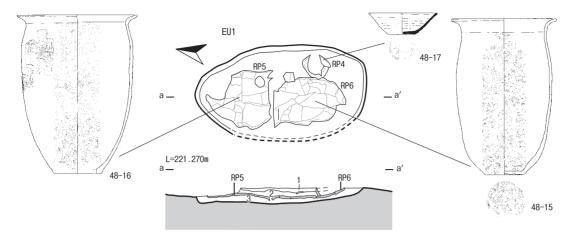
第31図 SB860掘立柱建物



第32図 SA777・SD7・8区画施設



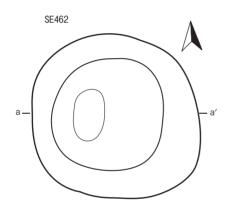
第33図 SA26·SD28区画施設

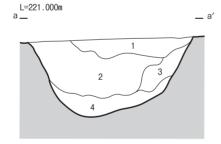


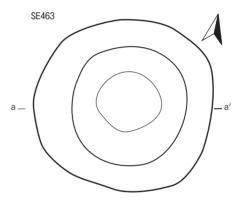
EU1

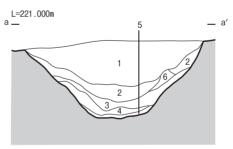
- 1 5YR2/1黒褐色シルト(7.5YR4/3褐色シルトを斑状に少量含む。) 2 10YR1.7/1黒色シルト(7.5YR4/3褐色シルトを点状に微量含む。) 3 7.5YR1.7/1黒色シルト(かたくしまる。)









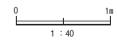


SE462

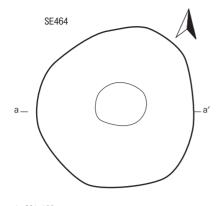
- 10YR2/3黒褐色シルト(黄褐色シルトを粒状に少量含む。) 10YR4/6褐色シルトと10YR2/3黒褐色シルトを各50%斑に混じる (酸化土粒を少量含む。) 3 10YR2/1黒色シルト(褐色シルトを粒状に少量含む。) 4 10UR1.7/1黒色シルト(褐色シルトを粒状に含む。)

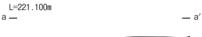
SE463

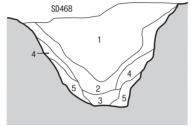
- 10YR2/3黒褐色シルト(褐色シルトを粒状に微量含む。) 10YR2/2黒褐色シルト(褐色シルトと酸化土を粒状に多 (含む。)
- (含む。) 10YR2/1黒色粘土質シルト(褐色シルト粒を少量含む。) 10YR4/4褐色シルト(黒褐色シルトを塊状に多く含む。) 10YR2/1黒色粘土質シルト(グライ化層。) 10YR4/6褐色シルト(酸化土塊を含む。)



第34図 EU1合口甕棺、SE462・463井戸

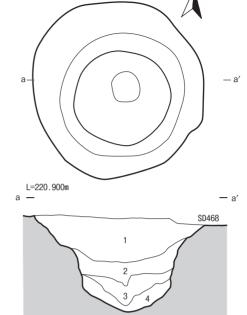






SE464

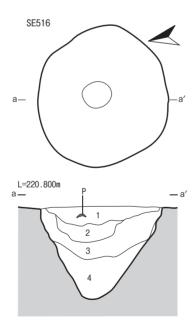
- 10YR3/2黒褐色シルト(褐色粘土質シルトを大小塊状に多量
- 10YR2/1黒色シルト(褐色シルト粒、酸化土粒を微量含む。) 10YR2/3黒褐色粘土質シルト(褐灰色粘土と褐色粘質シルト を粒状に多く含む。)
- 4 10YR2/1黒色粘土質シルト(酸化土、褐色シルトの混合状態。) 5 10YR3/1黒褐色シルト(褐色シルトを粒状に含む。)



SE465

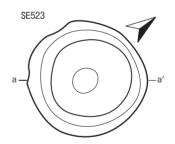
SE465

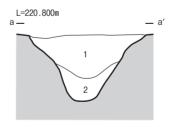
- 405 10YR3/2黒褐色シルト(褐色シルトを粒状に少量含む。) 10YR2/1黒色粘土質シルト(褐色シルトを粒状に微量含み、 小礫を少量含む。) 10YR2/1黒色シルト(黄褐色粘土の大きな塊、挙大の礫を
- 含む。)
- 4 10YR3/1黒褐色粘土質シルト(褐色粘土を粒状または帯状に少量含む。)



SE516

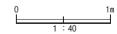
- 1 5YR2/3極暗赤褐色シルト(褐色シルトを粒状に少量含む。 土器を含む。)
- 10YR2/3黒褐色シルト(褐色シルトを塊状及び粒状に少量 含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(褐色シルトを粒状に含む。酸化土を 微量含む。)
- 4 10YR2/1黒色粘土質シルト(褐色シルトを粒状に微量含む。)



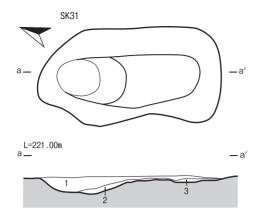


SE523

- 1 10YR2/1黒色シルト(褐色粘質シルトと赤褐色焼土を
- 1 101K2/1宝とルト(福色和質シルトを点状に微量含む。) 2 10YR1.7/1黒色シルト(褐色粘質シルトを点状に微量含み、赤褐色焼土塊を含む。)

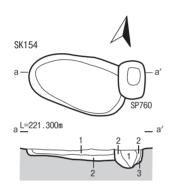


第35図 SE464・465・516・523井戸



SK31

- 10YR1.7/1黒色シルト(灰色微砂をブロック状及び斑状に混入する。) 1
- 10YR4/1褐灰色砂(1の土を帯状に含み、酸化土を斑状に混入する。) 25Y3/3暗オリーブ褐色砂混じりシルト(小礫を多く含み、1の土を点状 に含む。)

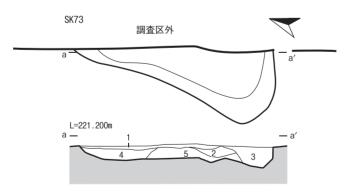


SK154

- 1 N2/0黒色シルト(しまり強く、粘性中程度。炭化物をやや多く含む。) 2 5YR3/1黒褐色シルト(しまり強く、粘性やや強い。)

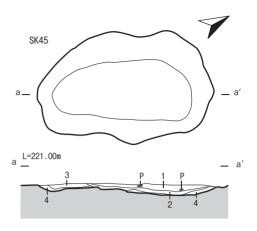
SP760

- 1 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性中程度。炭化物を少量含む。) 2 5YR3/1黒褐色シルト(しまり強く、粘性やや強い。炭化物を少量含む。) 3 5YR3/1黒褐色シルト(しまり強く、粘性やや強い。)



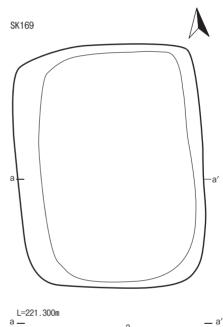
SK73

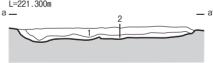
- 10YR2/2黒褐色シルト(酸化鉄を全体にやや多く、にぶい黄褐色シルト ブロックを少量含む。)
- 10YR2/2黒褐色シルト(酸化鉄を全体にやや多く、にぶい黄褐色シルト ブロックを10%含む。)
- 3 10YR2/2黒褐色シルト(酸化鉄、灰黄褐色シルトブロックを少量含む。)
- 10YR2/2黒褐色シルト(酸化鉄、灰黄褐色シルトプロックを多く含む。) 10YR2/2黒褐色シルト(にぶい黄褐色シルトプロックを40%程、酸化鉄 を微量含む。)



SK45

- 10YR2/1黒色シルト(炭化粒を点状に含み、黄色粘土を混入する。) 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色砂を帯状に、炭化粒を微量含む。)
- 10YR6/4にぶい黄橙色粘土(2の土を斑状に多く混入する。)
- 10YR5/3にぶい黄褐色粘土(2の土を点状に、3の土を斑状に含む。)

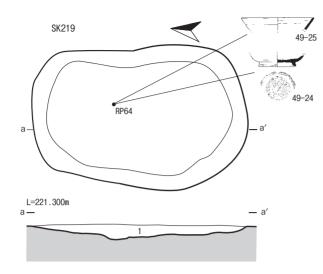




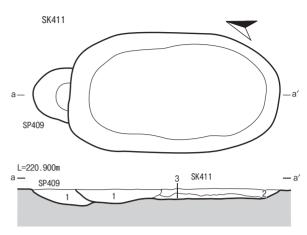
- 10YR3/2黒褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。炭化物、 酸化物を微量含む。)
- 10YR4/2灰黄褐色シルト(しまり強く、粘性やや強い。酸化 鉄を微量含む。)



第36図 SK31・45・73・154・169土坑



SK219 1 10Y2/1黒色シルト(炭化物を少量含み、酸化土を粒状に少量含む。)

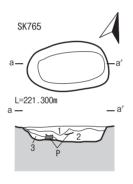


SK411

- 1 10YR1.7/1黒色シルト(下層に褐色シルトを斑に含む。) 2 10YR3/3暗褐色シルト(黒色シルトを斑に含む。) 3 10YR3/3暗褐色シルト(ほぼ均質。)

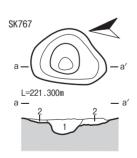
SP409

1 10YR2/2黒褐色シルト(褐色シルトを粒状に少量含む。)



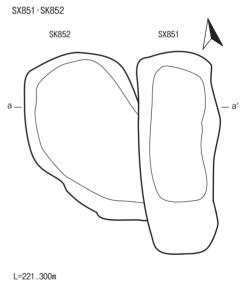
SK765

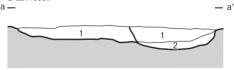
- 765 7.5YR3/1黒褐色シルト(しまり強い。粘性中程度。) 5YR3/1黒褐色シルト(しまり強い。粘性中程度で 風化礫を含む。)
- 3 N2/0黒色シルト(しまり強く、粘性中程度。)



SK767

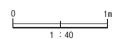
- 1 10YR2/1 黒色シルト(しまり強く、粘性中程度。黒色砂混じりシルトを40%程含む。炭化物を少量含む。)2 7.5YR3/1 黒褐色砂質シルト(しまり強く、粘性やや弱い。炭
- 化物を少量含む。風化礫を微量含む。)



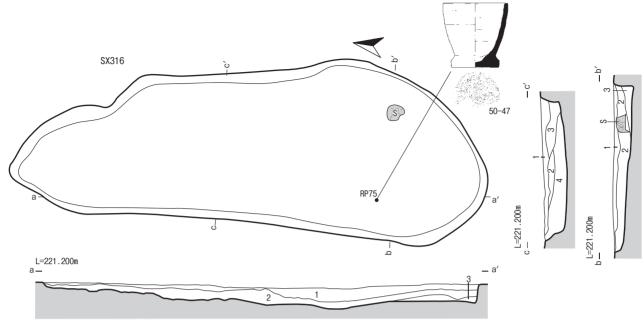


SX851

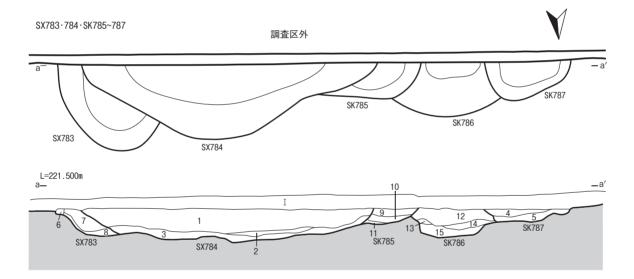
- 3AoJi 1 10YR2/1黒色シルト(しまり、粘性あり。にぶい黄褐色 シルトをブロック状に含む。) 2 10YR3/4暗褐色シルト(黒色シルトを斑状に多く含む。)
- SK852
- 1 10YR1.7/1黒色シルト(にぶい黄褐色シルトを粒状に少 量含む。)



第37図 SK219・411・765・767・852土坑、SX851性格不明遺構



- 1 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性中程度。にぶい黄褐色シルトを中央部分に少量含む。) 2 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性やや強い。にぶい黄褐色シルトを全体にやや多く含む。) 3 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性中程度。にぶい黄褐色シルトを微量含む。) 4 10YR2/1黒色シルト(しまり強く、粘性中程度。にぶい黄褐色シルトを微量含む。)



SX783·784, SK785~787

耕作土 10YR2/3黒褐色シルト(やわらかくしまりなし。草、木の根 含む。)

SX784

- 7.5YR2/2黒褐色粘質シルト(炭化粒、橙色焼土を点状に含み、土 1 器を含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(黄褐色粘質シルトを斑状に少量混入する。)
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(この土を斑状に多く含む。)

SK787

- 4 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを小ブロックで少量 含む。)
- 5 10YR1.7/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを斑状に混入。) SX783
- 6 10YR2/2黒褐色シルト(黒色粘質シルトを点状に含む。)
- 10YR2/1黒色シルト(褐色粘質シルトを小ブロックで少量含む。 橙色焼土を点状に含む。)
- 8 10YR4/4褐色シルト(7の土を斑状に微量混入する。)

SK785

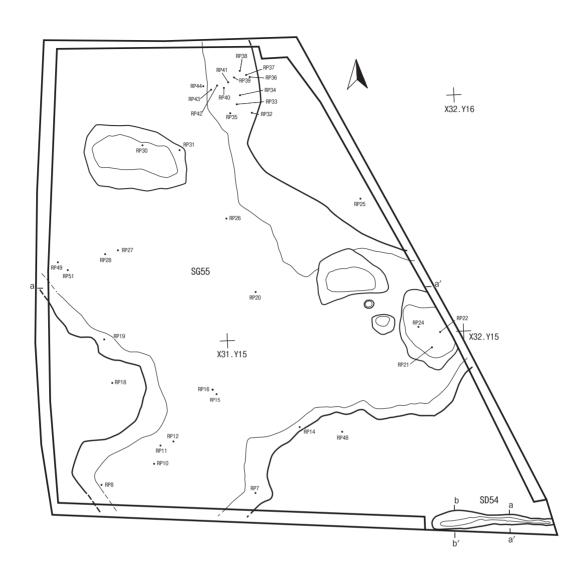
- 9 7.5YR2/1黒色粘質シルト(炭化粒、橙色焼土を斑状に含み、黄褐 色シルトを斑状に少量含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを斑状に含み、炭化 粒を点状に微量含む。)
- 10YR3/4暗褐色シルト(10の土を斑状に多く含む。)

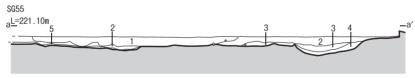
SK786

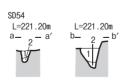
- 12 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトと焼土粒を点状に微 量含む。)
- 10YR2/1黒色粘質シルト(黄褐色粘質シルトを点状に混入する。) 10YR5/6黄褐色粘質シルト(12の土を斑状に含む。)
- 14
- 10YR1.7/1黒色シルト質粘土(14の土を斑状に含み、橙色焼土を 15 点状に、微量含む。)



第38図 S X 316・783・784性格不明遺構、S K 785~787土坑





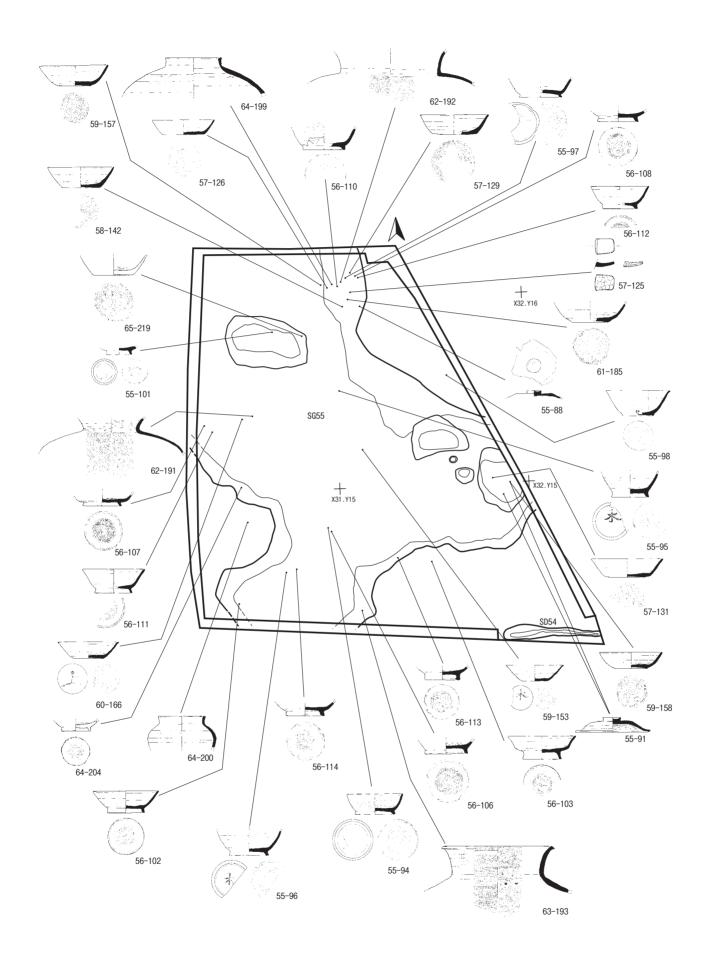


SD54

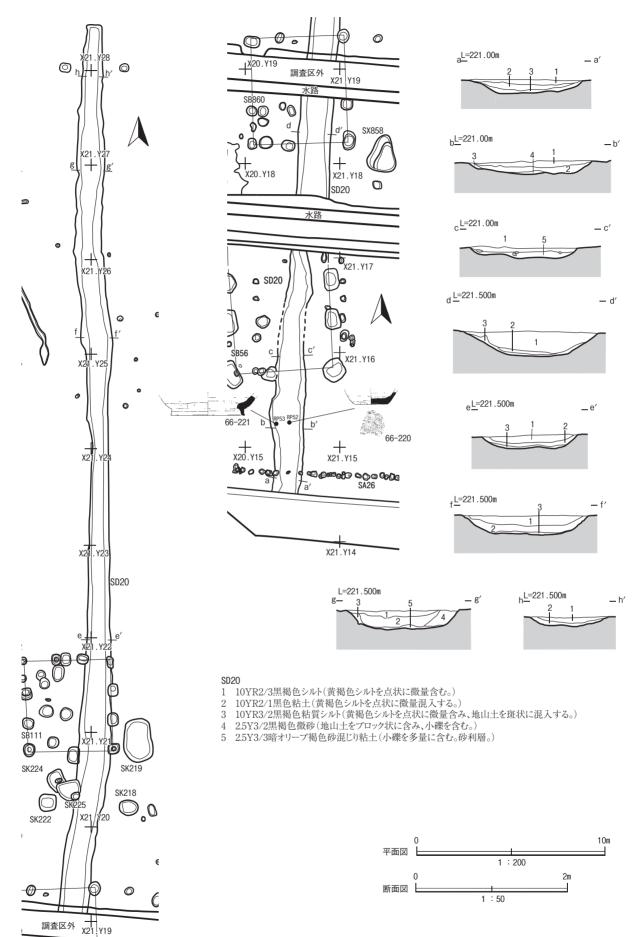
- 1 10YR2/1黒色シルト(褐色粘質シルトを点状に微量含む。) 2 10YR2/2黒褐色砂混じりシルト(褐色粘質シルトと細砂を少量混入する。)



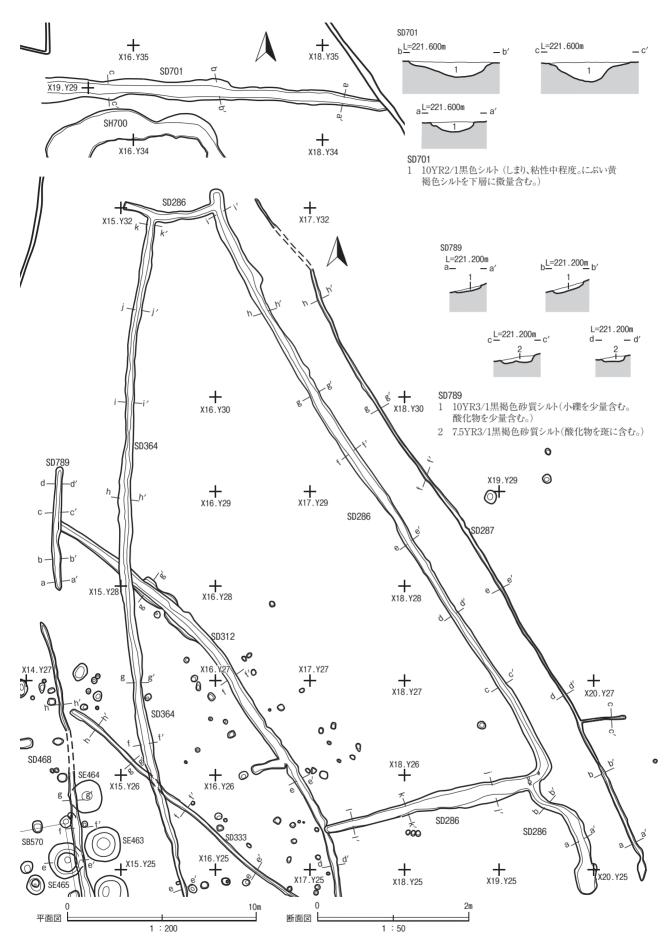
第39図 SD54溝、SG55河川



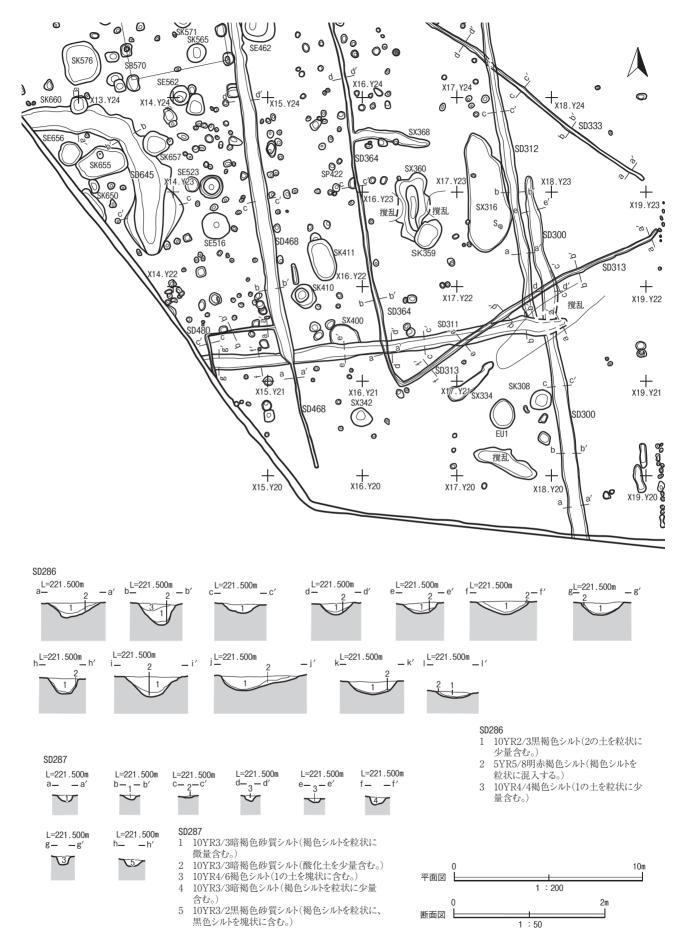
第40図 SG55河川遺物分布図



第41図 SD20溝



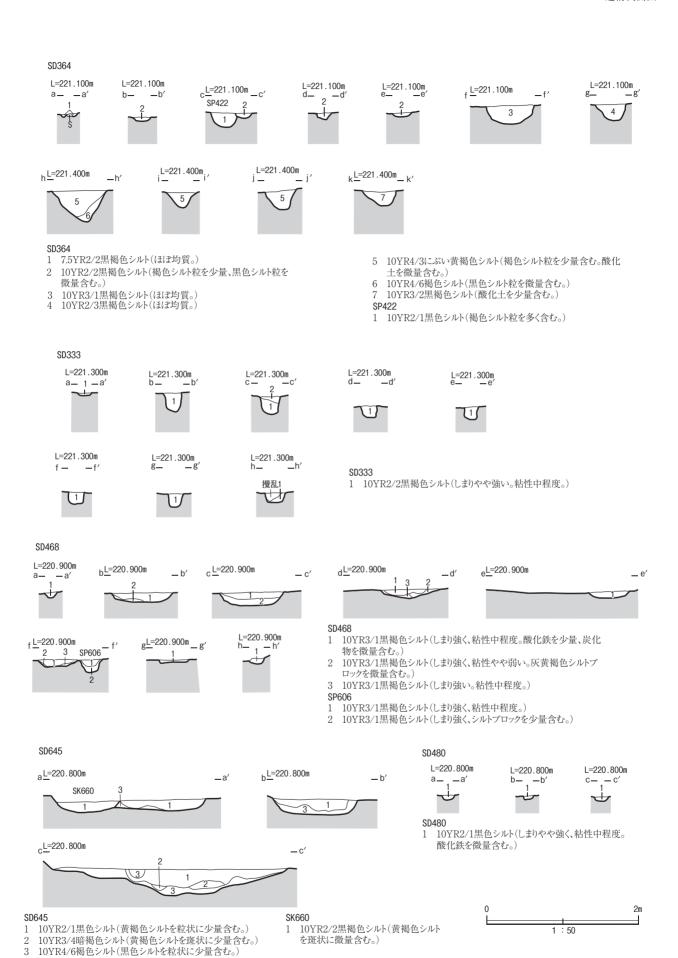
第42図 SD286・287・312・333・364・468・701・789溝



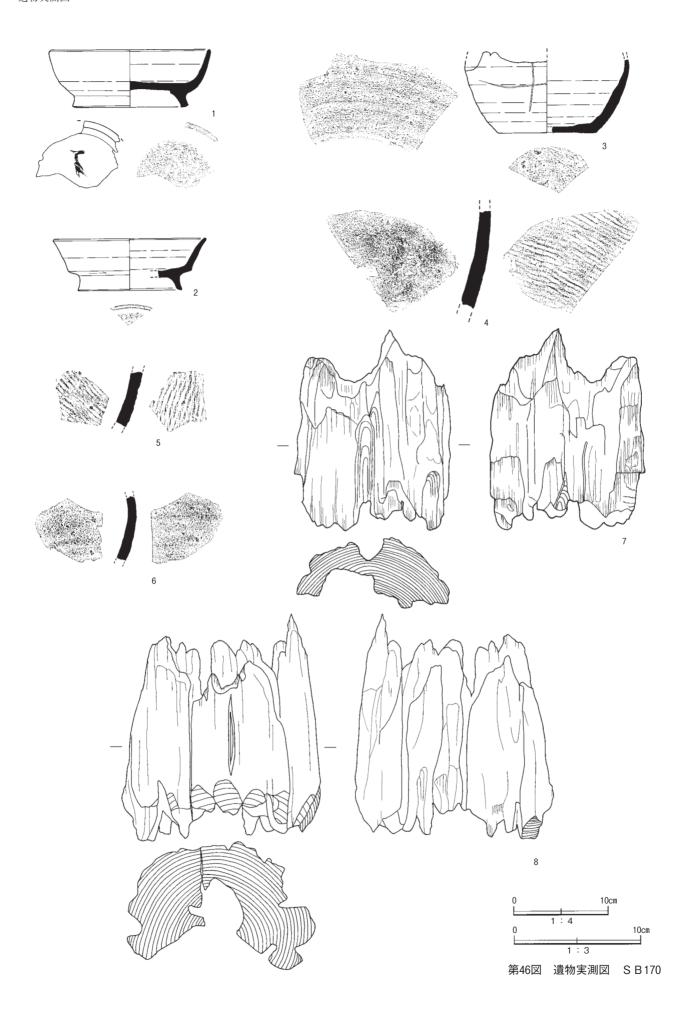
第43図 SD286・287・300・311~313・333・364・468・480・645溝

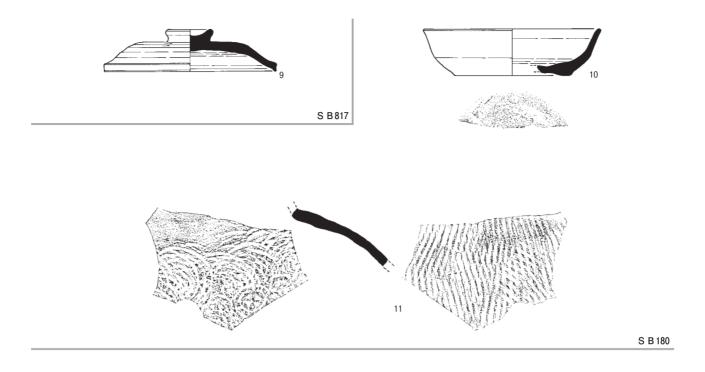
SD300 c<u>L</u>=221.300m d<u>L</u>=221.300m a<u>L</u>=221.300m b_=221.300m e<u>L</u>=221.300m _ e' _ b' SD300 7.5YR3/1黒褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。風化礫と黒褐色砂まじりシルトを微量含む。) 10YR3/2黒褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。) 7.5YR3/2黒褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。極小粒の風化礫を含む。) 3 4 N2/0黒色シルト(しまり強く、粘性やや弱い。炭化物を少量含む。) SD311 c<u>L</u>=221.200m e<u>L</u>=220.900m b<u>L</u>=221.200m a<u>L</u>=221.200m _ a d<u>L</u>=221.200m _ b f <u>L</u>=220.900m g <u>L</u>=220.900m **_** f' SD311 5YR2/1黒褐色シルト(砂を層状に含む。褐色シルトを粒状に微量含む。) 10YR4/6褐色粘土質シルト(1の土を塊状に多く含む。) 5 10YR3/3暗褐色シルト(底部に褐色シルト粒を少量含む。酸化土を少量含む。) 5YR2/1黒褐色シルト(砂を層状に含む。褐色シルトを粒状に微量含む。) 5YR2/1黒褐色シルト(砂を層状に含む。褐色シルトを粒状に微量含む。) 4 SD312 c L=221.400m a<u>L</u>=221.400m b_=221.400m _ b d L=221.400m d' e<u>L=221.400m</u> e' f L=221.400m g<u>L=</u>221.400m _ g′ SD312 10YR3/2黒褐色粘土質シルト(焼土を少量斑に含む。黄褐色シルトを 塊状に20%含む。) 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト(3の土を粒状に少量含む。) 5YR3/1黒褐色粘土質シルト(にぶい黄褐色粘土質シルトを斑状に含む。 堅くしまる。) SD313 L=221.300m L=221.300m L=221.300m L=221.300m $d^{L=221.300m}d'$ 1 10YR3/2黒褐色シルト(褐色シルトを粒状に少量含む。) 10YR2/3黒褐色シルト(しまり強く、粘性中程度。) 3 7.5YR2/2黒褐色シルト(褐色シルトを粒状に少量含む。) 2m 1:50

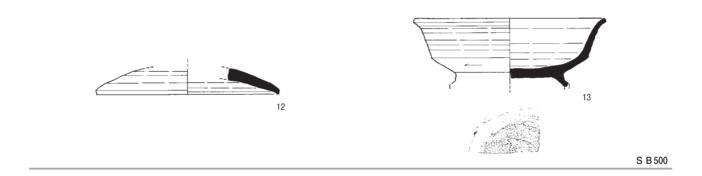
第44図 SD300・311~313断面

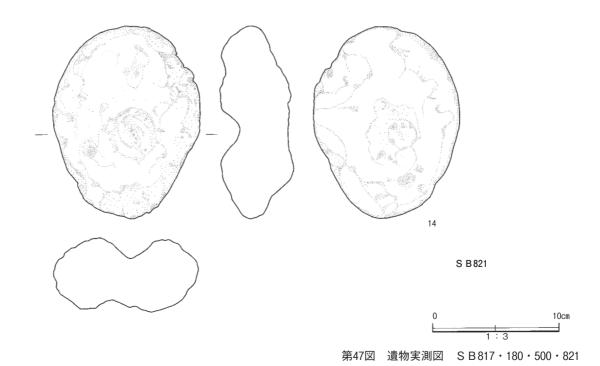


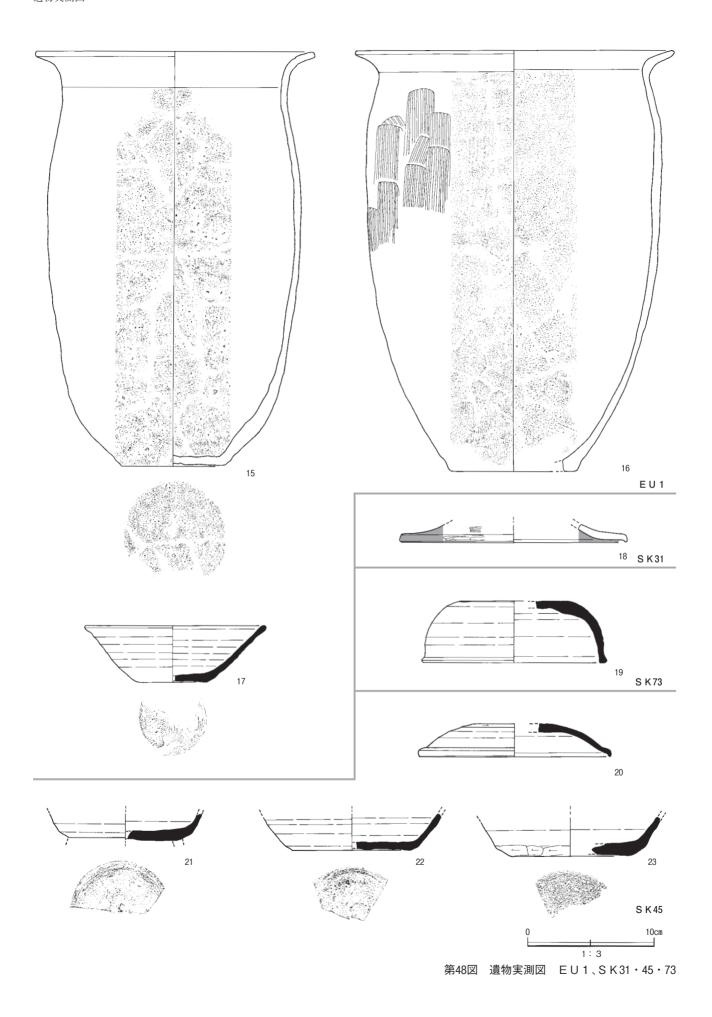
第45図 SD333・364・468・480・645断面

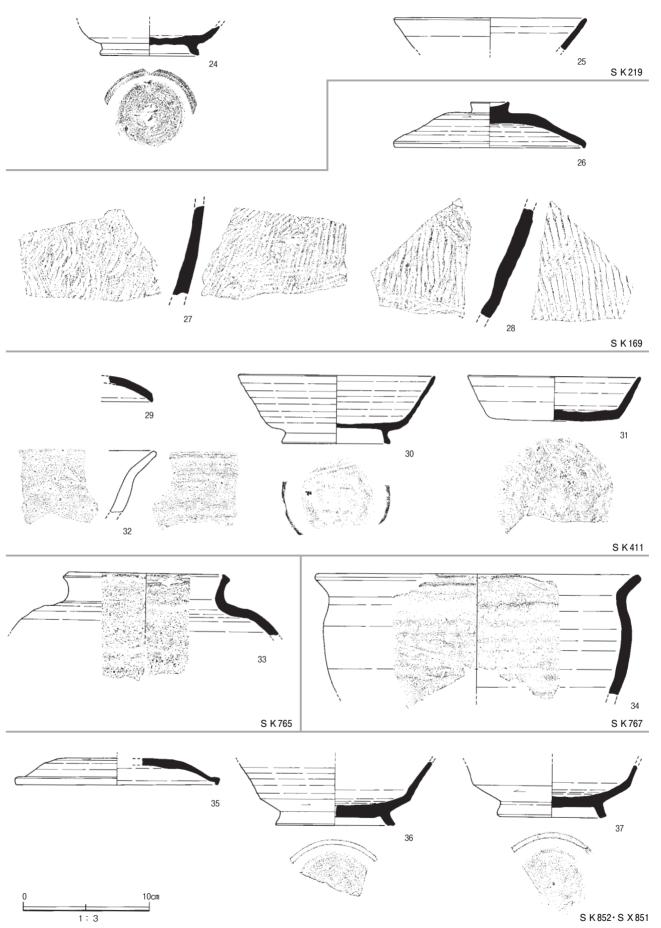




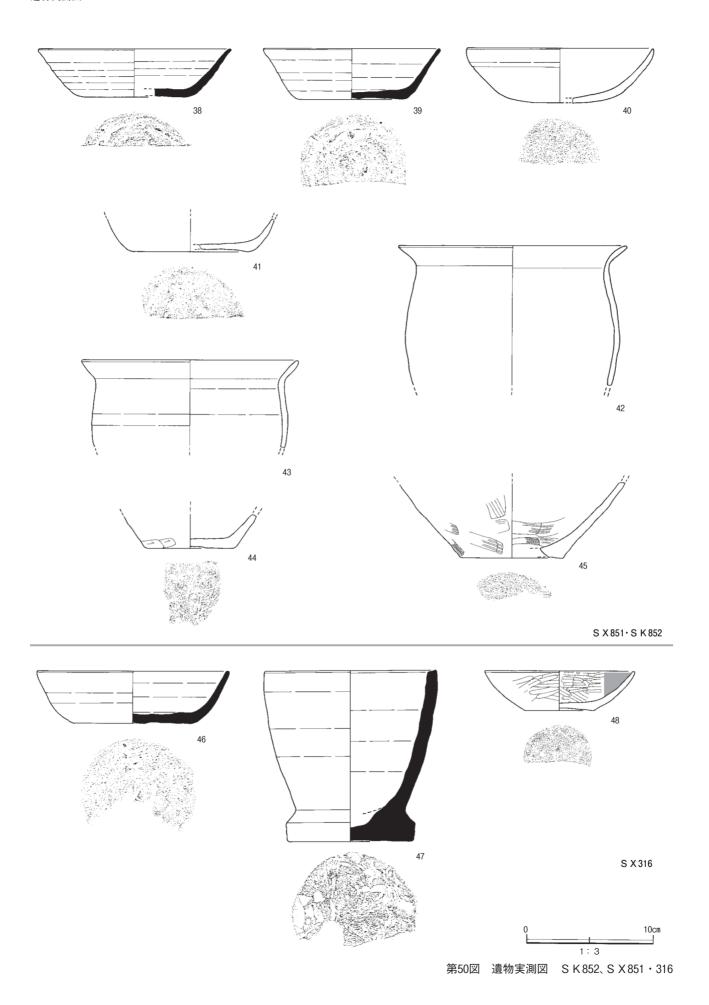


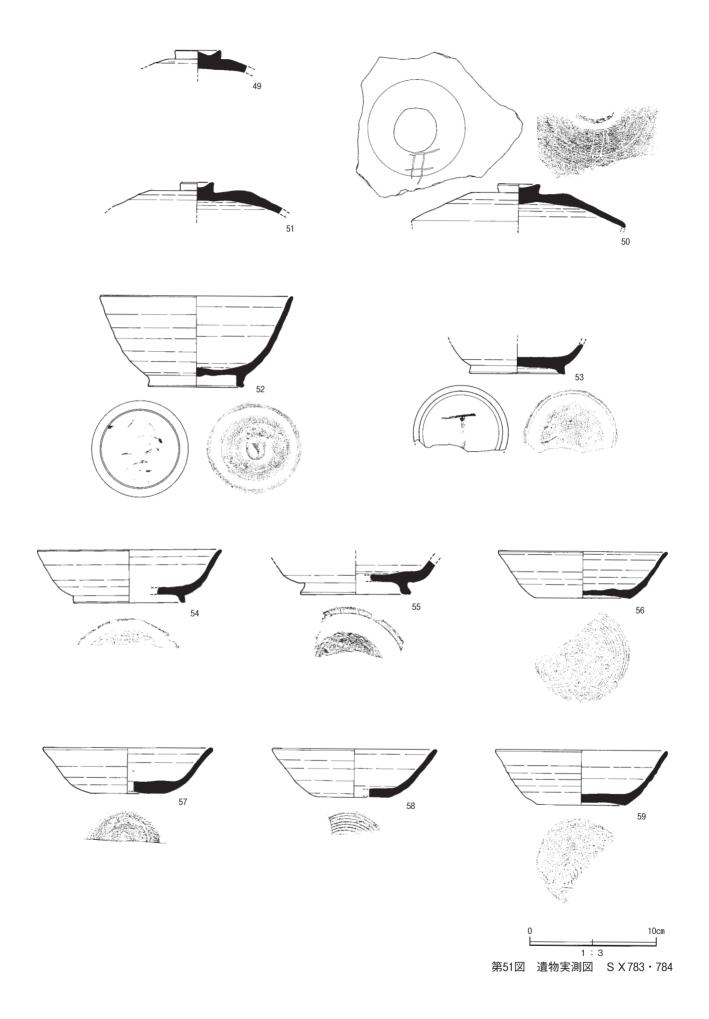


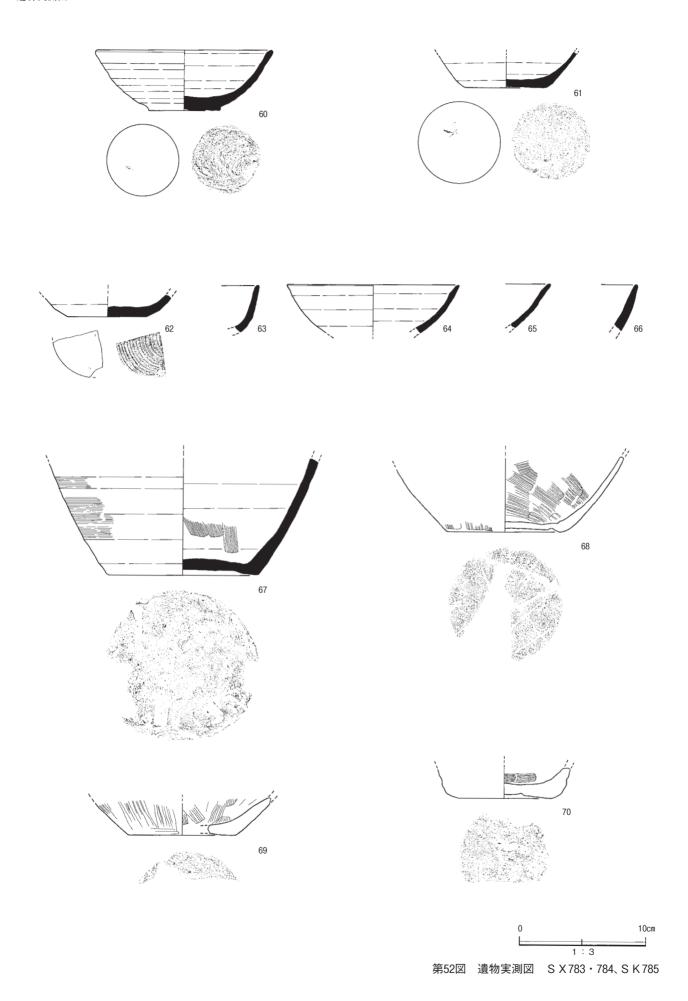




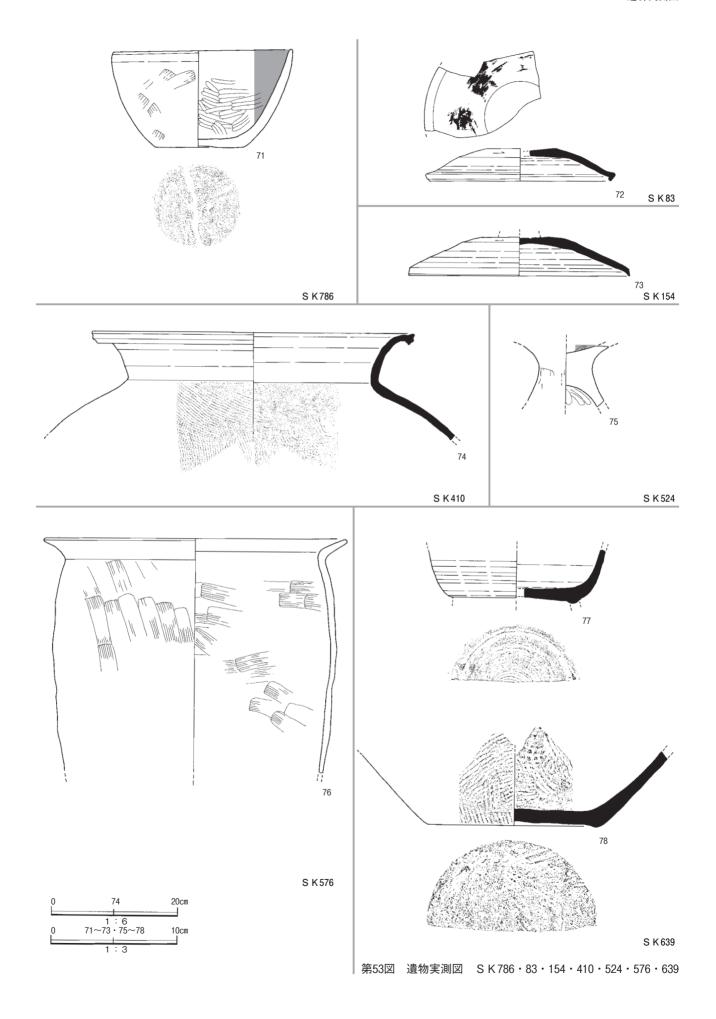
第49図 遺物実測図 SK169・219・411・765・767・852、SX851

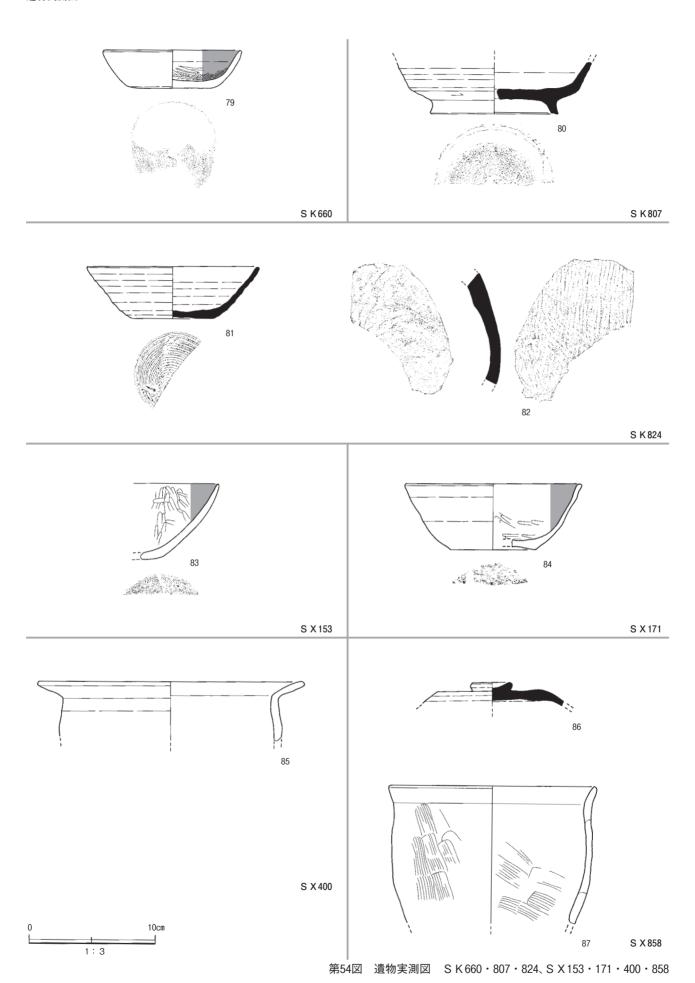




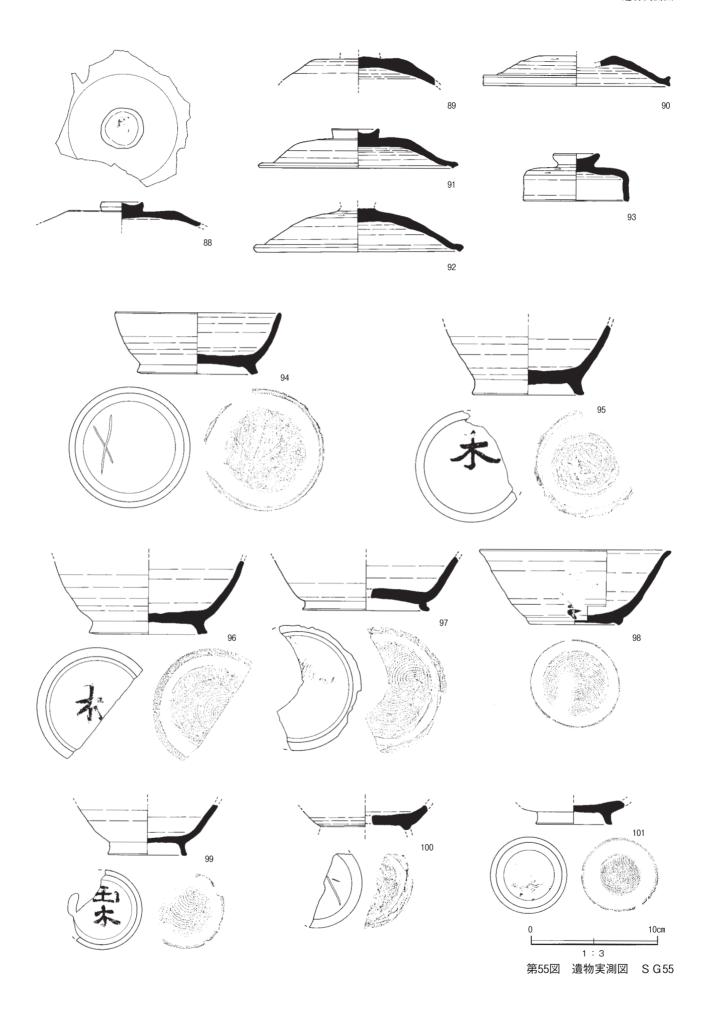


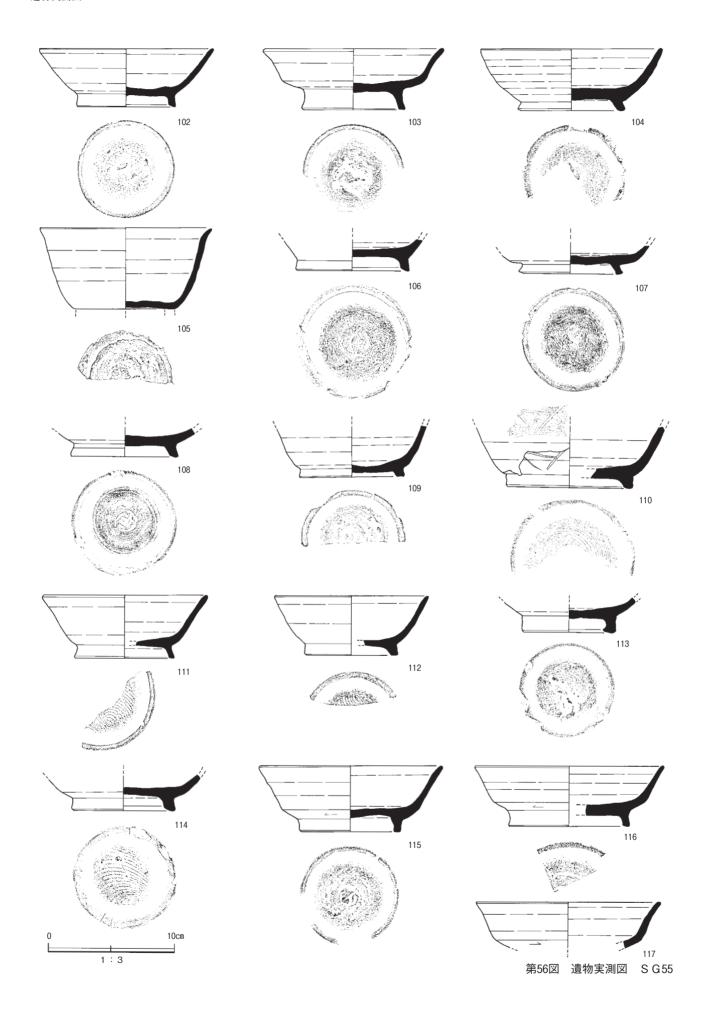
82

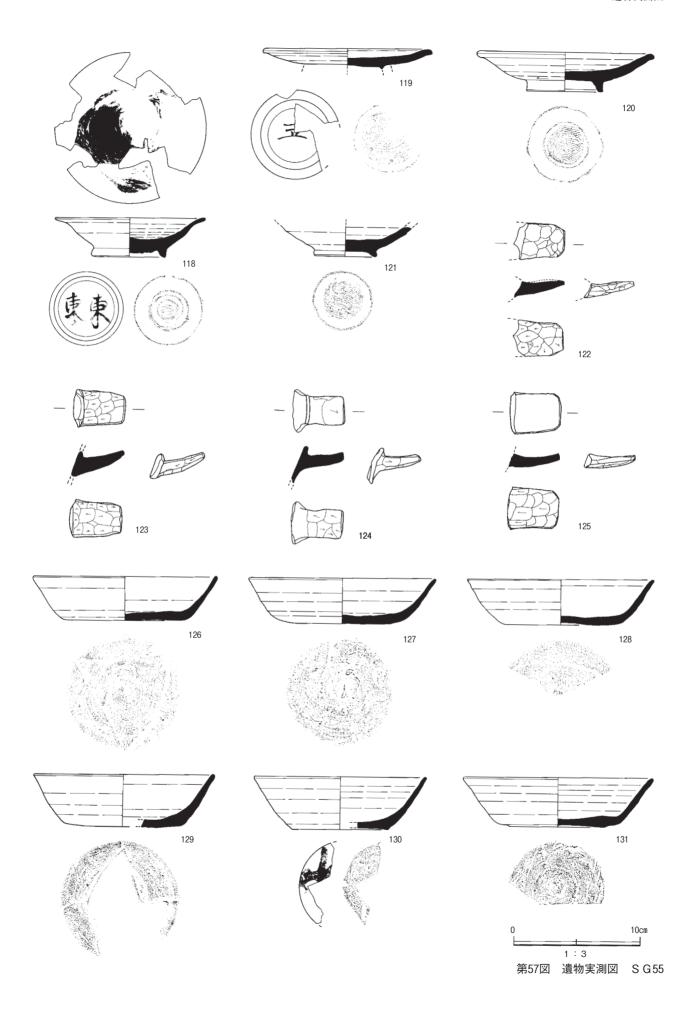


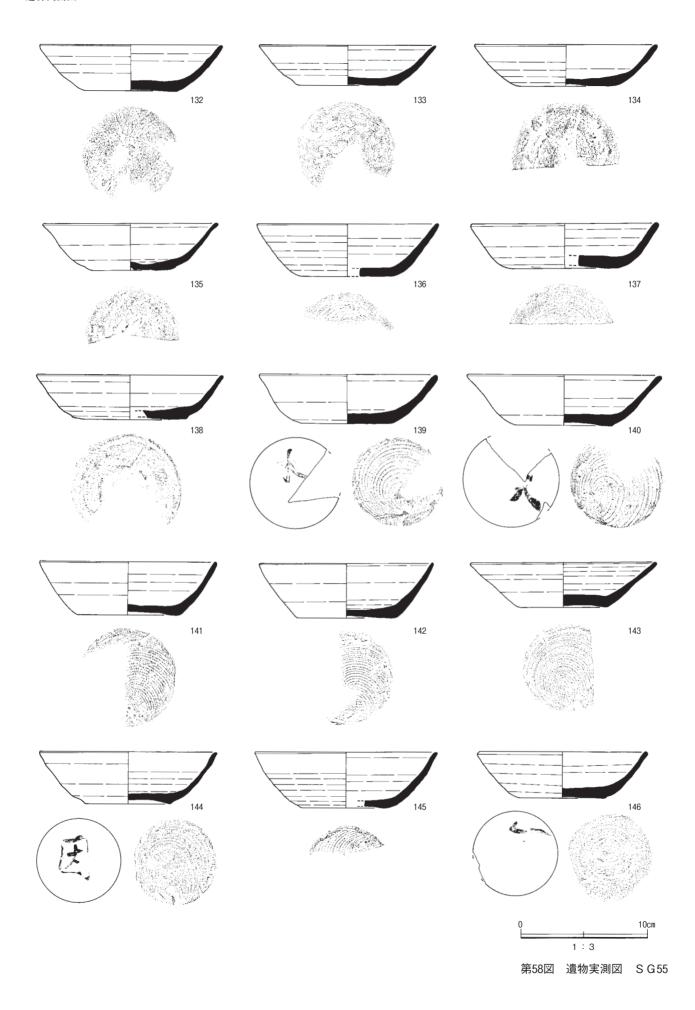


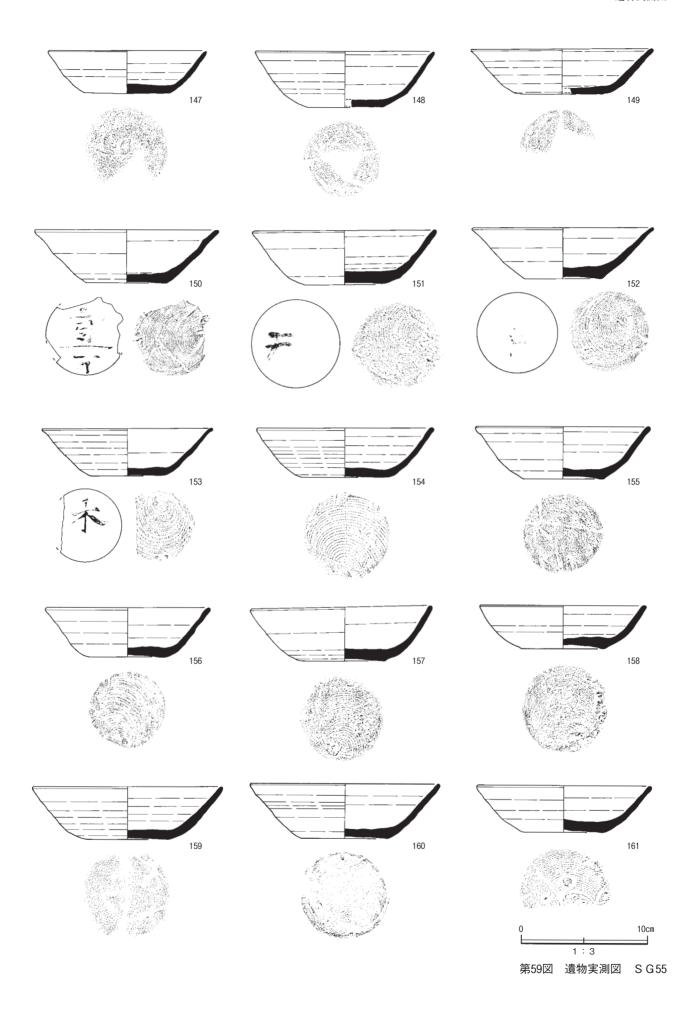
84

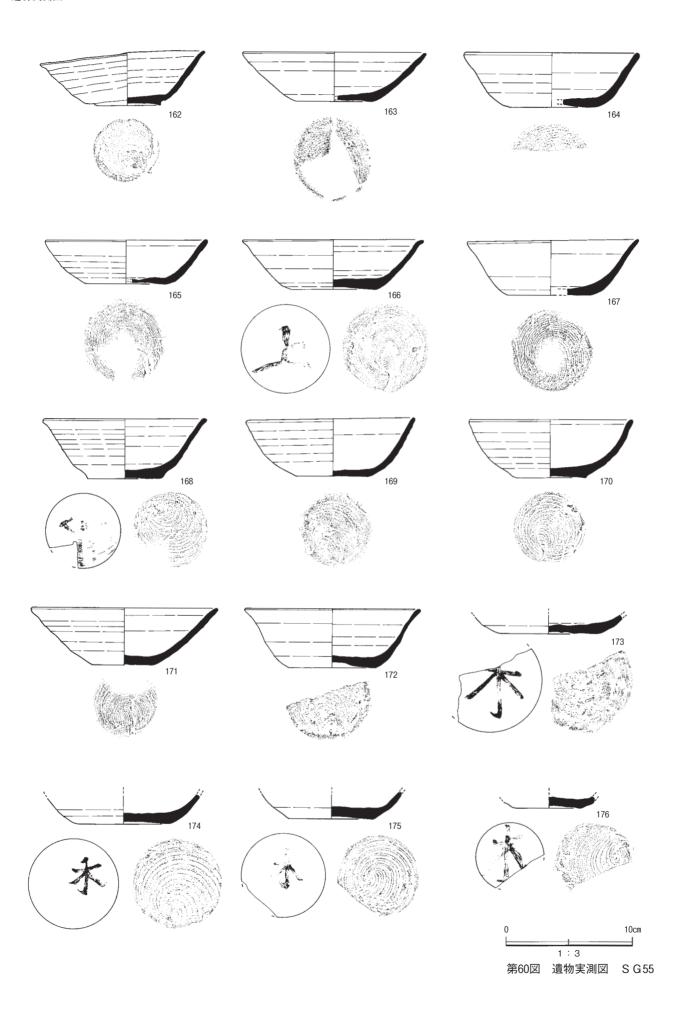


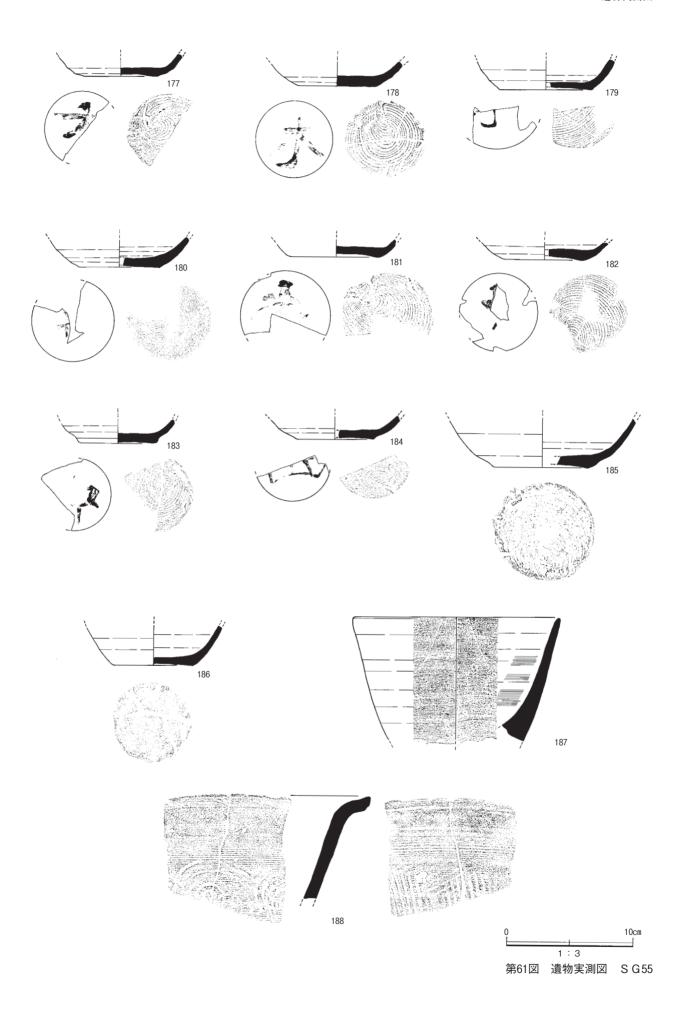


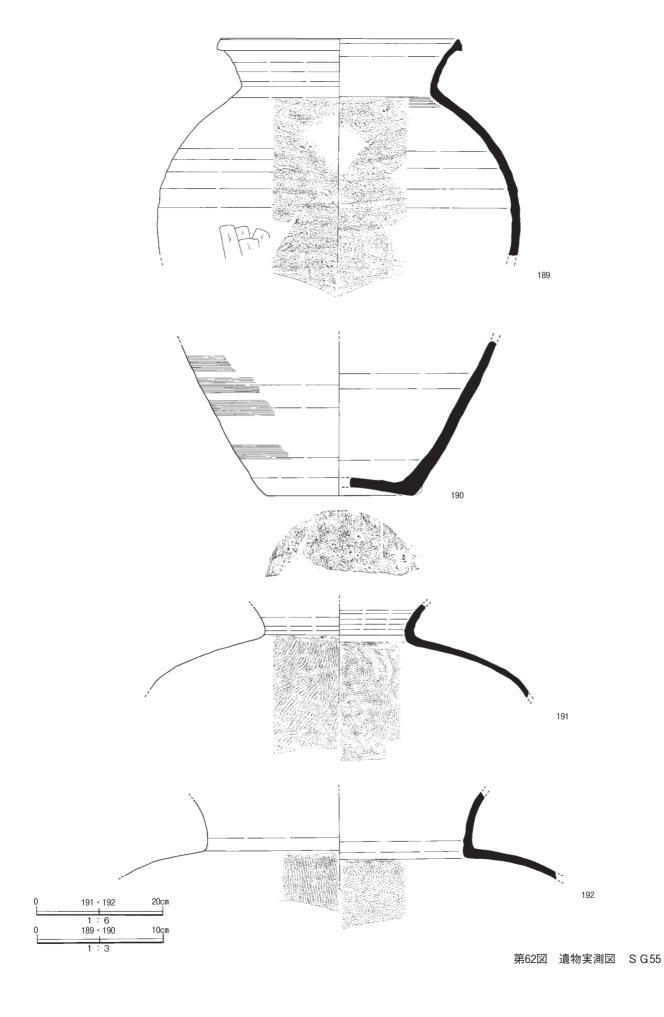


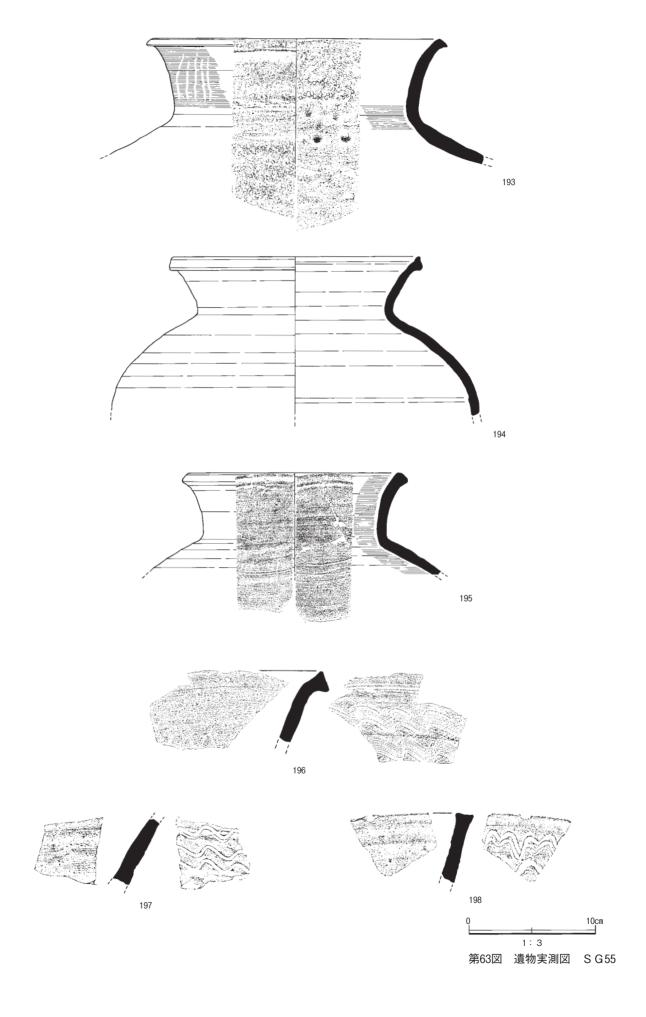


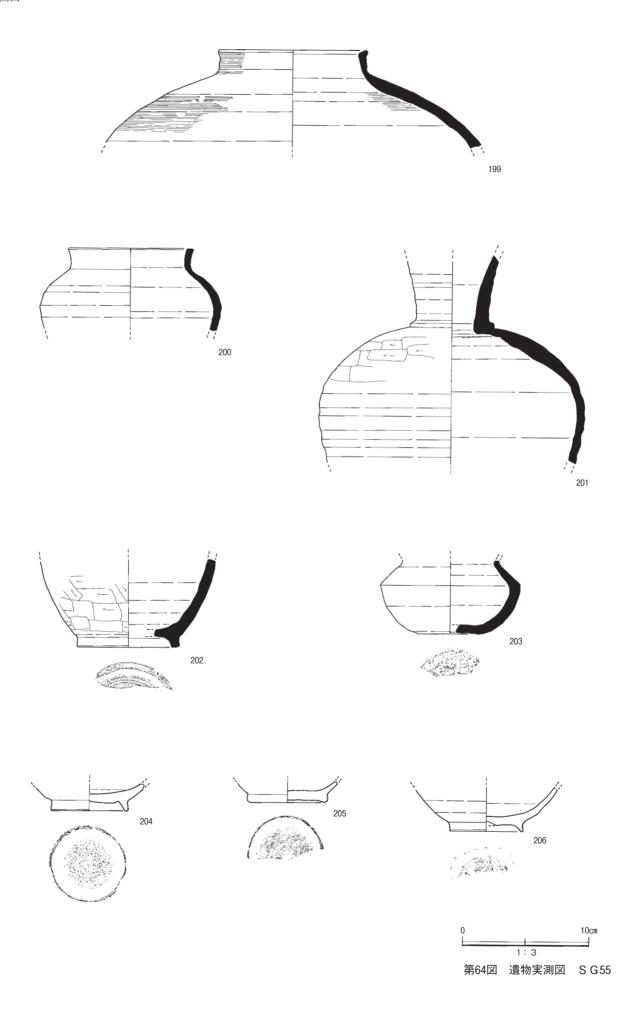


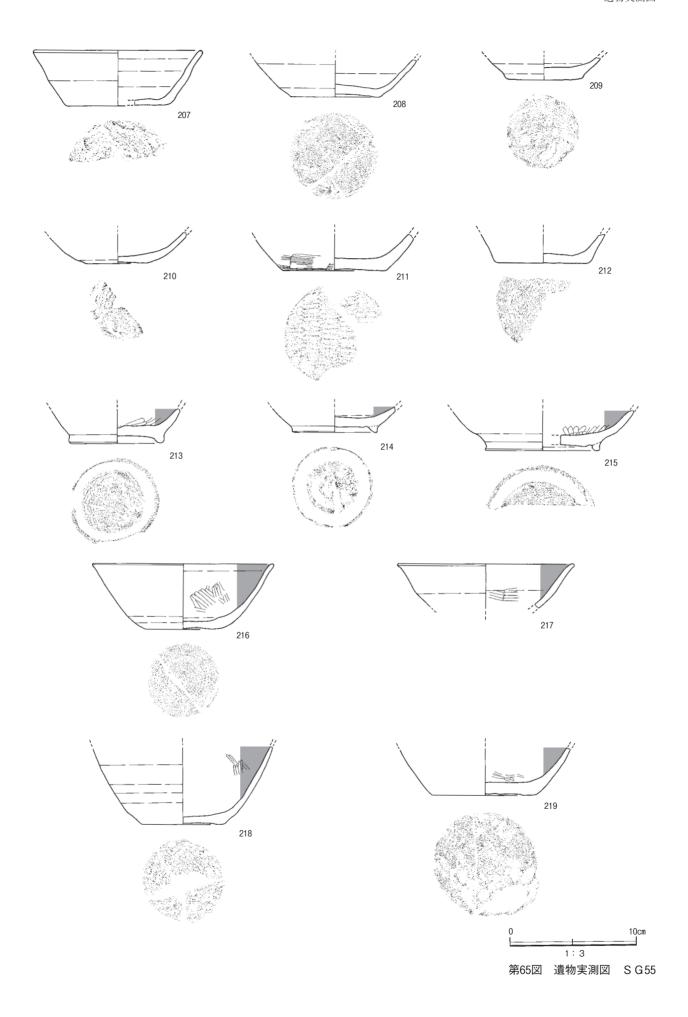


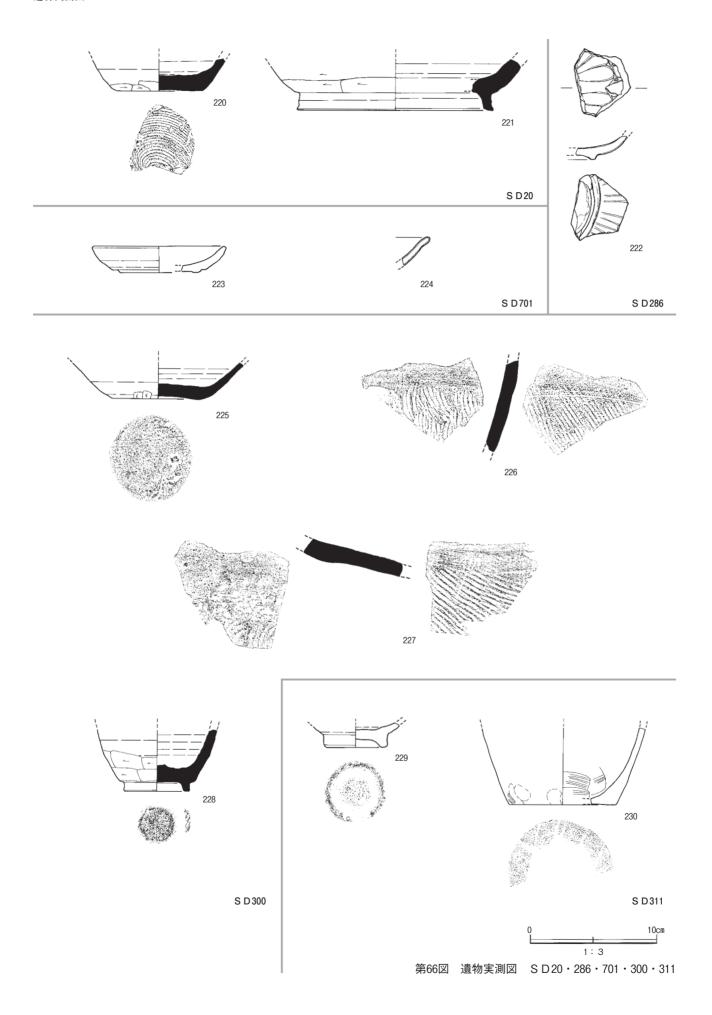


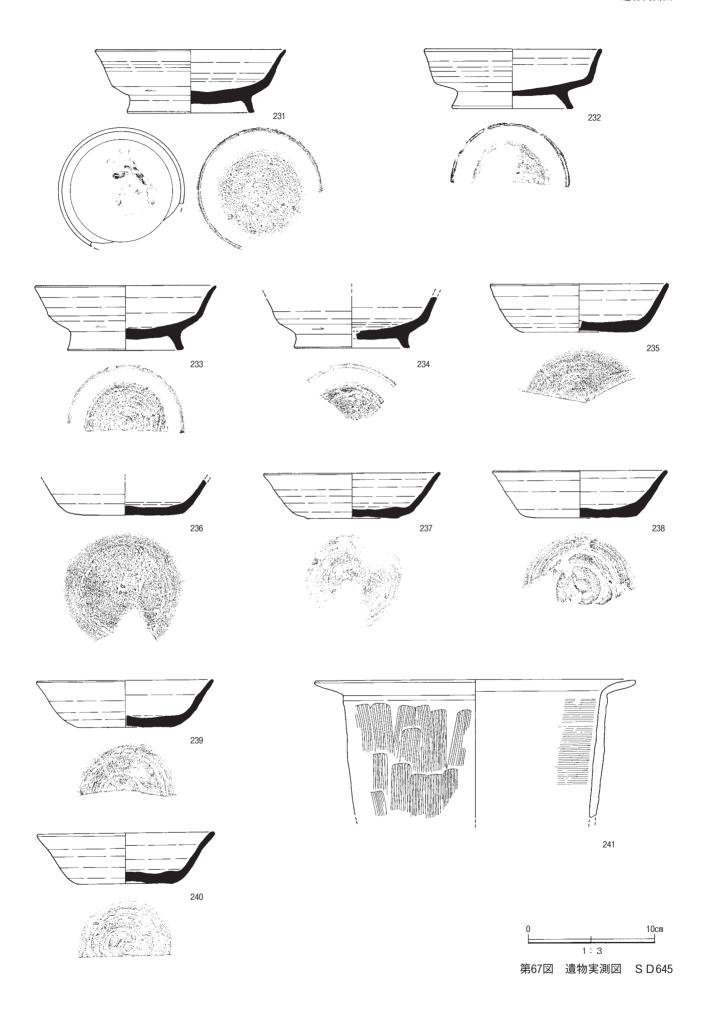


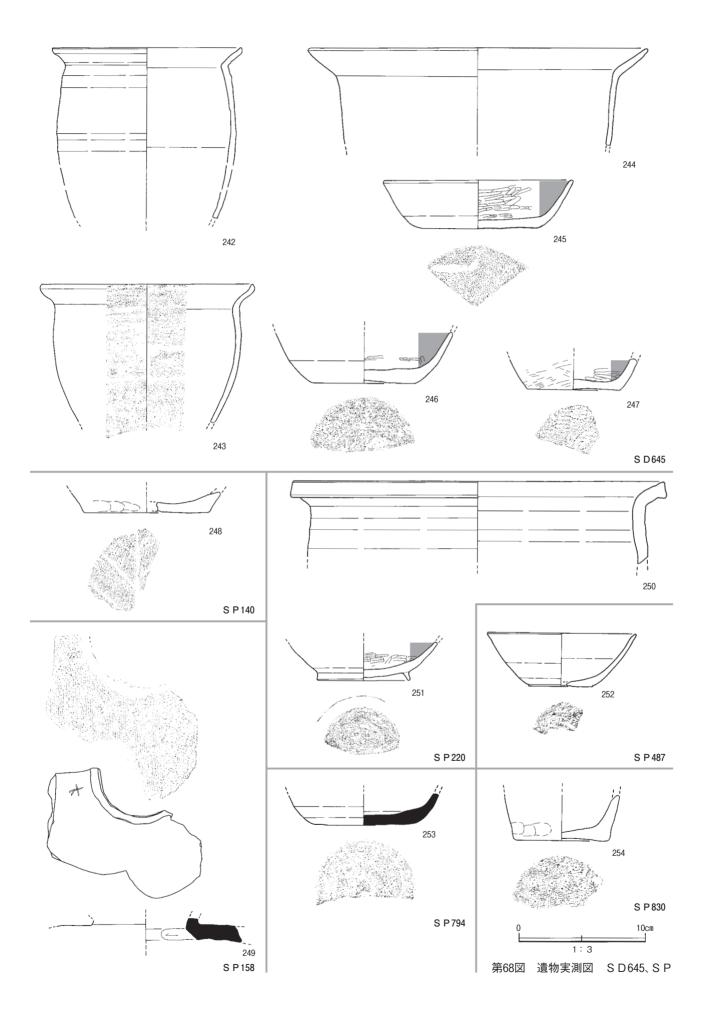


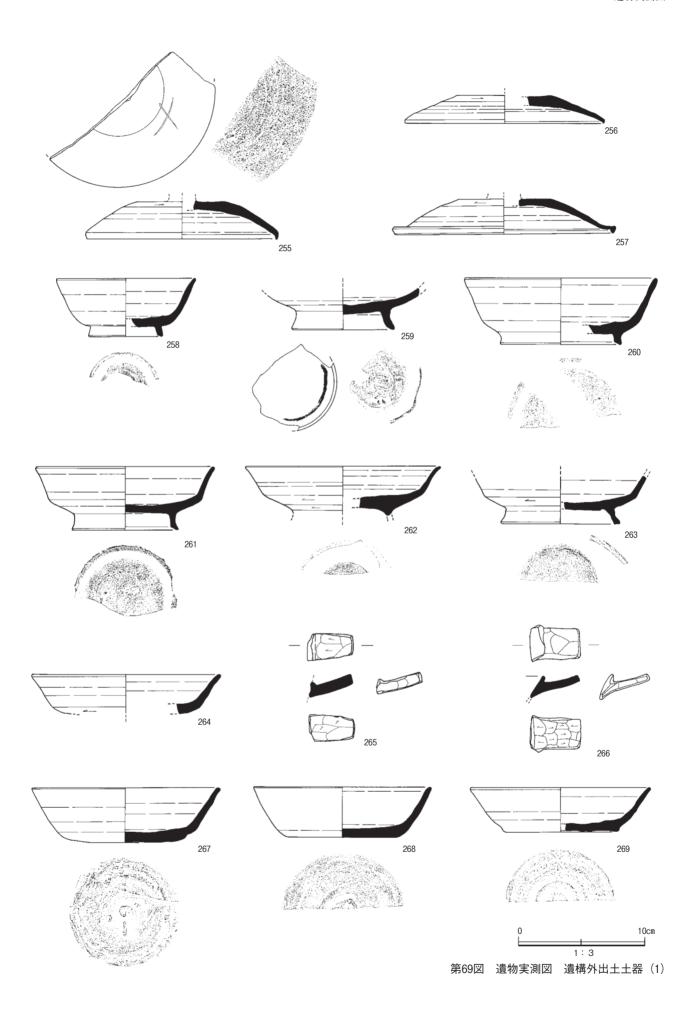


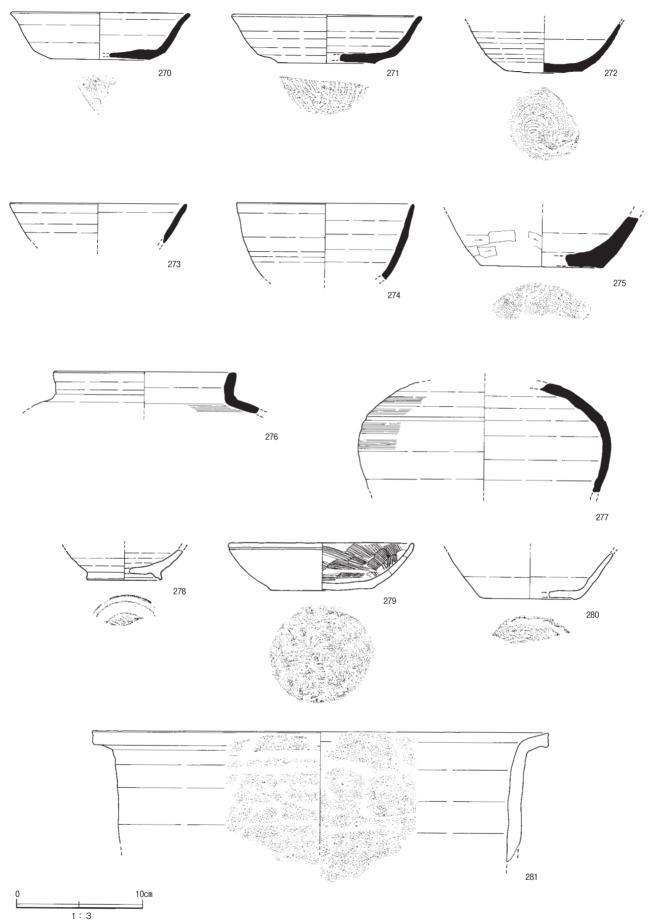




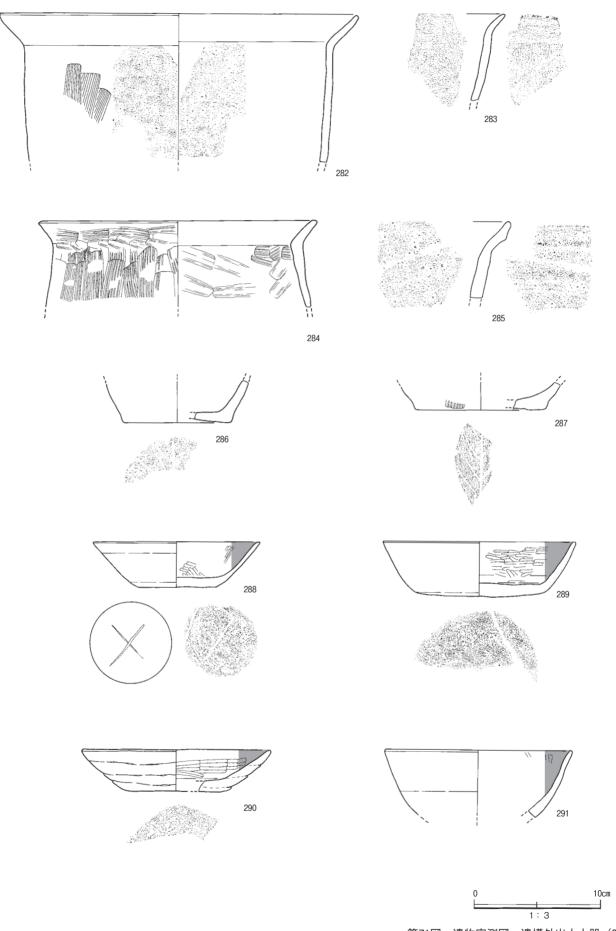




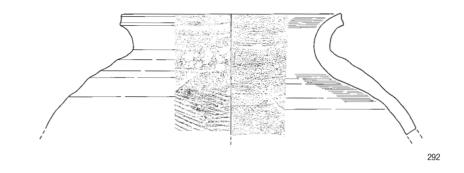


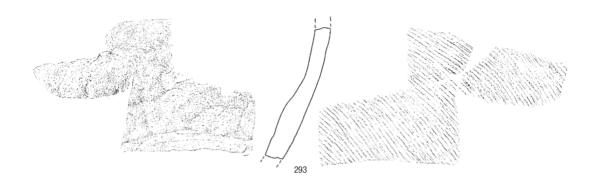


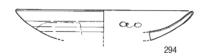
第70図 遺物実測図 遺構外出土土器 (2)



第71図 遺物実測図 遺構外出土土器 (3)

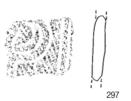






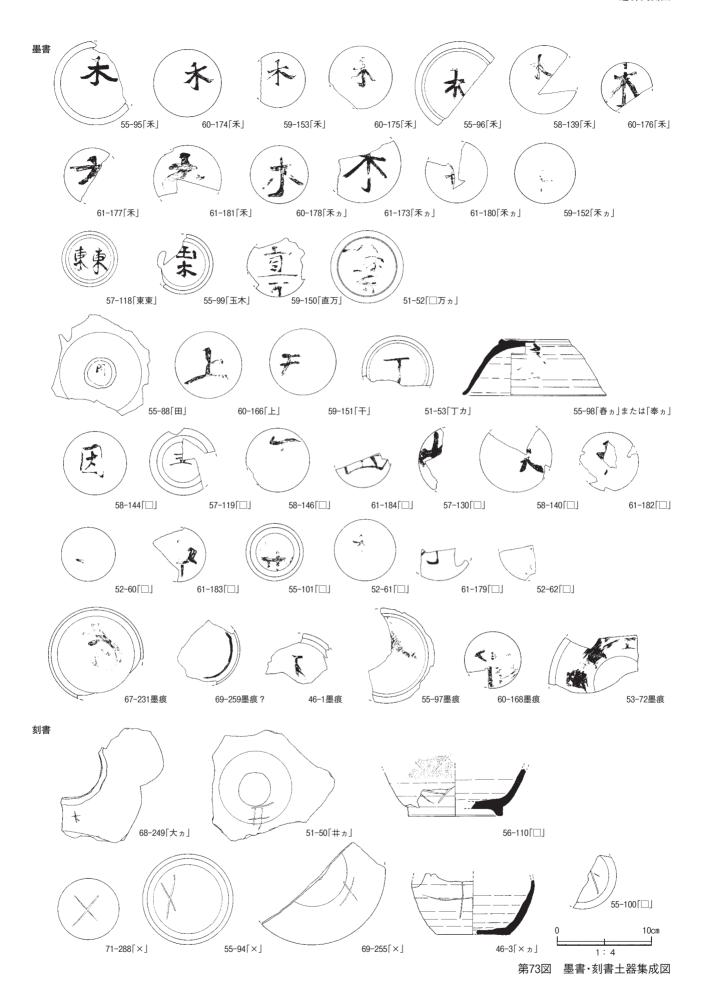


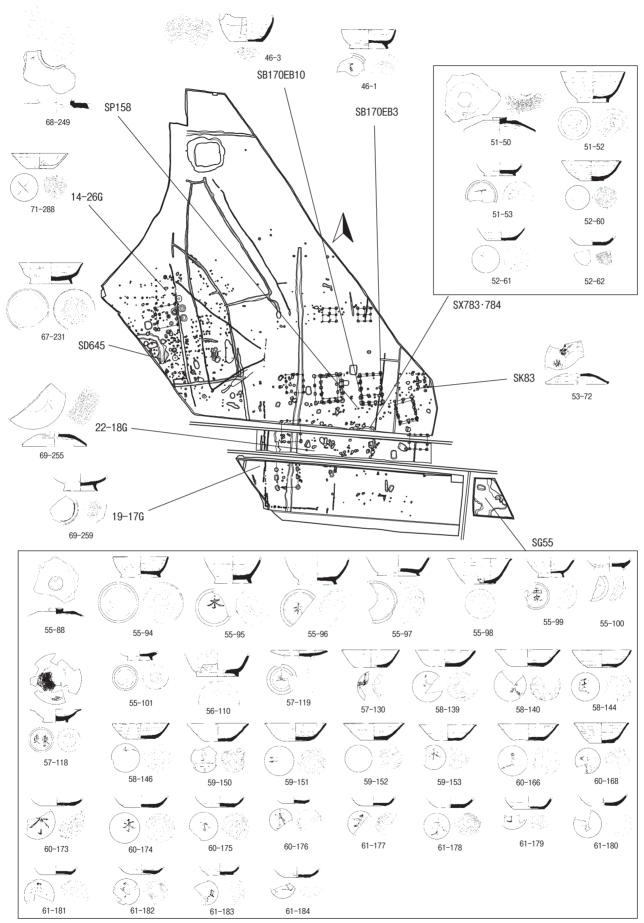






第72図 遺物実測図 遺構外出土土器 (4)





第74図 墨書・刻書土器分布図

※掘立柱建物観察表注

1.位置:検出グリッド

2. 規模:梁と桁の長さから算出3. 構造:柱配置からの間取り

4. 柱痕跡: 柱材の位置・あたり

5. 長軸・短軸・深さ:() は残存値

6. 略図縮尺: 1/200

置からの間取り 7.柱間寸法:m

表 1 掘立柱建物観察表(1)

遺構番号 SB56

図版番号 第14·15 図

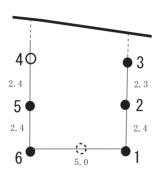
位 置 19・20-16~18

長軸方向 N-2°-W

規 模 24.00 ㎡以上

構 造 2×2間以上

備 考 SB56→SD20



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB1	隅丸方形	0	122	118	28
2	EB2	隅丸方形	0	108	80	24
3	EB3	隅丸方形	0	114	78	14
4	EB4	円形	×	110	96	14
5	EB5	隅丸方形	0	140	110	18
6	EB6	隅丸方形		142	90	22

遺構番号 SB111

図版番号 第16図

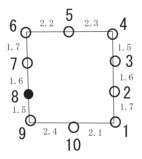
位 置 20・21-21・22

長軸方向 N-2°-W

規 模 21.60 ㎡

構 造 2×3間

備 考 SB111→SD20



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB1	隅丸方形	×	58	52	36
2	EB2	隅丸方形	×	70	54	34
3	EB3	隅丸方形	×	66	52	28
4	EB4	楕円形	×	62	34	14
5	EB5	隅丸方形	×	68	52	10
6	EB6	円形	×	38	36	20
7	EB7	隅丸方形	×	61	58	30
8	EB8	隅丸方形	0	58	58	32
9	EB9	楕円形	×	68	58	20
10	EB10	隅丸方形	×	88	60	12

遺構番号 SB170

図版番号 第 17·18 図

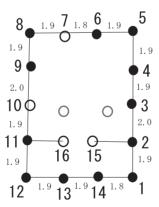
位 置 24 · 25-21 · 22

長軸方向 N-3°-W

規 模 43.12 ㎡

構 造 3×4間

備 考 SB817→SB170



No	柱穴	柱_穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB1	隅丸方形	0	96	92	34
2	EB2	隅丸方形	0	82	78	32
3	EB3	隅丸方形	0	92	88	32
4	EB4	楕円形	0	76	60	24
5	EB5	楕円形	0	98	72	28
6	EB6	楕円形	0	100	60	36
7	EB7	円形	×	62	60	28
8	EB8	隅丸方形	0	70	62	22
9	EB9	隅丸方形	0	78	60	30
10	EB10	不整形	×	86	84	28
11	EB11	不整形	0	88	84	40
12	EB12	不整形	0	114	108	44
13	EB13	隅丸方形	0	84	64	38
14	EB14	隅丸方形	0	86	72	30
15	SP147	楕円形	×	58	46	32
16	SP149	不整形	×	82	(64)	24

表 2 掘立柱建物観察表 (2)

遺構番号 SB817

構 造 3×4間

備 考 SB817→SB170

8 _{Q-1.}	7 0 1. 6	6 1.8	-0^5
1.8			1. 9
9Ф			0 4
2.0			1.8
100	0	0	Ф3
1.9			1. 9
110	0	0	Ф 2
1. 9			2.0
12 ⁰	8 0 1.	6 14 1.8	₃ •0 ₁

NT.	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
No	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB1	円形	×	52	(48)	28
2	EB2	円形	×	(48)	42	36
3	EB3	隅丸方形	×	(58)	54	24
4	EB4	隅丸方形	×	58	50	_
5	EB5	円形	×	(42)	42	16
6	EB6	不整形?	×	(26)	55	16
7	EB7	不整形	×	44	34	12
8	EB8	隅丸方形	×	(50)	58	14
9	EB9	隅丸方形	×	(68)	54	22
10	EB10	隅丸方形	×	86	(54)	32
11	EB11	隅丸方形	×	62	(58)	28
12	EB12	隅丸方形	×	(70)	(62)	20
13	EB13	隅丸方形	×	63	48	28
14	EB14	楕円形	×	(53)	50	25

遺構番号 SB180

図版番号 第19~21図

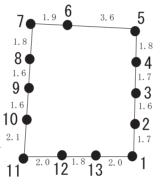
位 置 22 · 23-21 · 22

長軸方向 N-3°-W

規 模 39.25 ㎡

構 造 3×4間

備 考 SB180→SB500→SB181 ^{2.1}



	15 . 1 .	15 .1.	15	H 4.1	/—.r.i	North Co.
No	柱穴	柱_穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB1	不整形	\circ	112	110	36
2	EB2	隅丸方形	\circ	82	76	44
3	EB3	隅丸方形	\circ	74	72	42
4	EB4	隅丸方形	\circ	98	78	60
5	EB5	不整形	\circ	90	83	42
6	EB6	隅丸方形		(84)	72	30
7	EB7	隅丸方形	0	84	(80)	46
8	EB8	不整形	0	78	80	26
9	EB9	隅丸方形	0	82	82	34
10	EB10	不整形	\bigcirc	82	74	7
11	EB11	隅丸方形	Ō	80	(70)	50
12	EB12	隅丸方形	Ō	74	72	44
13	EB13	隅丸方形		80	74	42

遺構番号 SB500

図版番号 第19・22・23 図

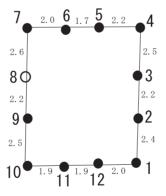
位 置 21~23-21·22

長軸方向 N-2°-W

規 模 42.86 m²

構 造 3×3間

備 考 SB180→SB500→SB181



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB1	隅丸方形	0	80	70	30
2	EB2	楕円形	0	90	60	25
3	EB3	隅丸方形	0	78	65	35
4	EB4	隅丸方形	0	92	62	22
5	EB5	隅丸方形	0	78	72	12
6	EB6	隅丸方形	0	105	72	22
7	EB7	円形	0	96	90	14
8	EB8	隅丸方形	×	82	56	10
9	EB9	隅丸方形	0	88	62	28
10	EB10	隅丸方形		110	80	34
11	EB11	隅丸方形		85	66	44
12	EB12	隅丸方形	0	66	63	37

遺構番号 SB181

図版番号 第19・24 図

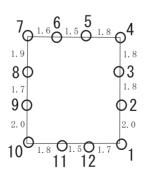
位 置 22 · 23-21 · 22

長軸方向 N-5°-W

規 模 28.22 ㎡

構 造 3×3間

備 考 SB180→SB500→SB181



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
1110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB1	不整形	×	52	42	20
2	EB2	隅丸方形	×	50	34	28
3	EB3	円形	×	30	30	12
4	EB4	隅丸方形	×	30	26	10
5	EB5	不整形	×	28	22	10
6	EB6	楕円形	×	46	30	6
7	EB7	隅丸方形	×	34	28	16
8	EB8	隅丸方形	×	36	32	18
9	EB9	隅丸方形	×	22	22	_
10	EB10	楕円形	×	50	32	14
11	EB11	隅丸方形	×	42	32	12
12	EB12	隅丸方形	×	44	38	

表3 掘立柱建物観察表(3)

遺構番号 SB250

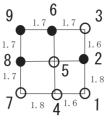
図版番号 第25図

位 置 24-25・26 長軸方向 N-1°-W

規 模 11.56 ㎡

構 造 2×2間(総柱)

備 考



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB1	隅丸方形	×	56	54	14
2	EB2	不整形	0	57	54	22
3	EB3	隅丸方形	×	91	54	22
4	EB4	円形	×	40	37	10
5	EB5	不整形	×	(56)	50	6
6	EB6	隅丸方形	0	82	55	28
7	EB7	円形	×	66	62	17
8	EB8	隅丸方形	0	61	56	32
9	EB9	隅丸方形		74	70	26

遺構番号 SB280

図版番号 第26図

位 置 22-25・26

長軸方向 N-1°-E

規 模 12.43 ㎡

構 造 2×2間(総柱)

備考

9	1.8	6 1.7	3
1. 8 80-	(1.8 2
.7 70-	1.8	5 1.7	1.8
′	1.0	ļ [*] ' '	'

No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
INO	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB1	不整形	×	77	66	12
2	EB2	隅丸方形	0	54	42	16
3	EB3	円形	0	72	69	30
4	EB4	不整形	×	55	48	16
5	EB5	楕円形	×	44	30	36
6	EB6	隅丸方形	×	58	46	38
7	EB7	楕円形	×	35	28	6
8	EB8	楕円形	×	36	28	7
9	EB9	隅丸方形	×	46	46	14

遺構番号 SB570

図版番号 第27図

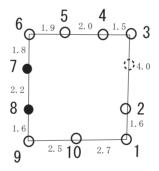
位 置 13 · 14-25 · 26

長軸方向 N-9°-W

規 模 29.68 m²

構 造 3×3間(南面2間)

備 考 SB570→SE465



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB1	円形	×	68	62	38
2	EB2	隅丸方形	×	67	58	24
3	EB3	円形	×	60	60	23
4	EB4	隅丸方形	×	62	50	11
5	EB5	隅丸方形	×	67	56	26
6	EB6	不整形	×	(66)	60	10
7	EB7	楕円形		84	75	22
8	EB8	隅丸方形		67	60	11
9	EB9	隅丸方形	×	85	67	16
10	SP566	楕円形	×	34	24	_

遺構番号 SB759

図版番号 第 28 · 29 図

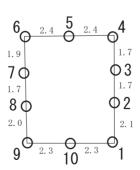
位 置 26 · 27-20 · 21

長軸方向 N-14°-W

規 模 26.09 m²

構 造 2×3間

備 考 SB759→SB801



No	柱穴	柱_穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB1	隅丸方形	×	92	68	34
2	EB2	楕円形	×	110	62	32
3	EB3	不整形	×	64	62	48
4	EB4	隅丸方形	×	100	90	45
5	EB5	楕円形	×	90	65	30
6	EB6	不整形	×	78	66	28
7	EB7	隅丸方形	×	(70)	80	_
8	EB8	隅丸方形	×	88	78	28
9	EB9	隅丸方形	×	88	68	45
10	EB10	隅丸方形	×	82	78	14

表 4 掘立柱建物観察表 (4)

遺構番号 SB801

挿図番号 第 28 · 29 図

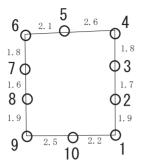
位 置 26 · 27-20 · 21

長軸方向 N-14°-W

規 模 25.15 ㎡

構 造 2×3間

備 考 SB759→SB801



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB1	不整形	×	60	43	24
2	EB2	隅丸方形	×	74	60	19
3	EB3	隅丸方形	×	84	68	16
4	EB4	不整形	×	92	90	18
5	EB5	楕円形	×	53	46	28
6	EB6	不整形	×	65	40	_
7	EB7	楕円形	×	58	40	_
8	EB8	円形	×	66	62	10
9	EB9	楕円形	×	50	40	46
10	EB10	不整形	×	56	36	32

遺構番号 SB821

挿図番号 第30図

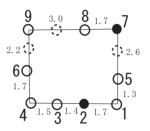
位 置 26 · 27-18 · 19

長軸方向 N-1°-E

規 模 18.14 ㎡

構 造 3×3間

備考



No	柱穴 番号	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB1	隅丸方形	×	72	60	28
2	EB2	隅丸方形	0	58	50	28
3	EB3	不整形	×	74	44	18
4	EB4	隅丸方形	×	64	60	20
5	EB5	隅丸方形	×	62	40	14
6	EB6	隅丸方形	×	66	(48)	6
7	EB7	隅丸方形	0	60	42	32
8	EB8	隅丸方形	×	54	44	12
9	EB9	隅丸方形	×	56	50	20

遺構番号 SB860

挿図番号 第31図

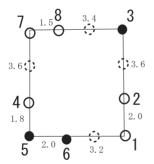
位 置 20・21-19・20

長軸方向 N-1°-W

規 模 27.79 ㎡

構 造 3×3間

備 考 SB860→SD20



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB1	楕円形	×	100	66	34
2	EB2	隅丸方形	×	62	56	20
3	EB3	楕円形		72	62	18
4	EB4	円形	×	54	52	12
5	EB5	隅丸方形		56	46	32
6	EB6	隅丸方形	0	70	56	18
7	EB7	隅丸方形	×	82	60	18
8	EB8	椿 田 形	×	56	44	12

表5 遺物観察表(1)

	遺物	種別	器種		計測値	<u>(mm)</u>		調整	E技法	- 底部	出土	登録	備	 考	分類
番号	番号	浬加	命俚	口径	底径	器高	器厚	外面	内面	- 底部	地点	番号	VIEL S	7	ガ類
	1	須恵器	有台坏	(128)	(90)	45	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SB170- EB3F	RP54	底部墨痕		
	2	須恵器	有台坏	(121)	(82)	41	4	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナテ		SB170- EB1F		稜碗		
	3	須恵器	壺		(76)		7	カキメ・ロク ロナデ	カキメ・ロク ロナデ	ヘラ切り・ヘ ラケズリ	SB170- EB10F		体部刻書「×ヵ」 書?内外面火ハ		
4.0	4	須恵器	甕				10	タタキ	アテ		SB170- EB13F				
46	5	須恵器	甕				7	タタキ	アテ		SB170- EB3F				
	6	須恵器	壺				7	ロクロナデ	ロクロナデ		SB170- EB11F		外面自然釉		
	7	木製品	柱材	長 212		幅 162	厚 74				SB170- EB3F		樹種:クリ		
	8	木製品	柱材	長 241		幅 290	厚 90				SB170- EB2F		樹種:クリ		
	9	須恵器	蓋	(137)		33	5	ロクロナデ・	ロクロナデ		SB817-		内面自然釉		
		須恵器	無台坏	(140)	(90)	37	4	ヘラケズリ ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	EB13F SB180-	RP74	内面火だすき		Aal
		須恵器	悪	(110)	(00)		7	タタキ・ロク	アテ・ロクロ		EB4F SB180-		17,147,000		
47				(144)				ロナデ	ナデ ロクロナデ		EB9F SB500-				
		須恵器	盖	(144)			6	ロクロナデ・		- ITT)s	EB2F SB500-	DD 40	7+ mls		
		須恵器	有台坏	(152)			4	ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	EB6F SB821-	RP63			
		石製品	凹石		幅 116	-					EB1Y		表裏面凹		
		土師器	甕	(220)	(102)	328	5	n 2- 2			EU1	RP6	内外面磨滅·外面		
		土師器 須恵器	無台坏	(252)	(102)	332 45	6	ハケメ ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	EU1 EU1	RP5 RP4	内外面磨滅·外面	山灰热根	Eb3
		黒色土器		(180)	- 00	10	5	ミガキ	 ミガキ	E1+A/N 93 7	SK31F	101 1	脚部 内外面黒	色処理	
40		須恵器	蓋	(146)		49	6	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ		SK73F		短頸壺蓋		
48	20	須恵器	蓋	(152)			4	ロクロナデ・ヘラケズリ	ロクロナデ		SK45F				
	21	須恵器	有台坏				4	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	SK45F				
		須恵器	無台坏		(94)		4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	SK45F				1
	23	須恵器	無台坏		(94)		5	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	SK45F				1
	24	須恵器	有台坏		(78)		5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SK219F	RP64			
	25	須恵器	無台坏	(152)			4	ロクロナデ	ロクロナデ		SK219F	RP64			b
	26	須恵器	蓋	(152)		36	5	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ		SK169F				
	27	須恵器	甕				8	タタキ	アテ		SK169F		内外面自然釉		
	28	須恵器	甕				11	タタキ	アテ		SK169F				
		須恵器	蓋				5	ロクロナデ	ロクロナデ		SK411F				
	30	須恵器	有台坏	(156)	(86)	54	3	ロクロナデ	ロクロナデ	er lee la	SK411F		焼成不良		
49	31	須恵器	無台坏	(136)	100	35	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナ デ・ヘラケズリ	SK411F	RP76			Ab1
		土師器	鉢				9	ロクロナデ	ロクロナデ		SK411F		内外面磨滅·外面	可被熱痕	
		須恵器	甕	132			8	ロクロナデ	ロクロナデ		SK765F				
		須恵器	鉢	(254)			3	ロクロナデ ロクロナデ・			SK767F				
		須恵器	蓋 たんだ	162	(0.4)			ヘラケズリ ロクロナデ・		o = lan b	SX851F		1±10+		
		須恵器	有台坏	(1)	(94)		4	ヘラケズリ ロクロナデ・	<u>пупуу</u>	ヘラ切り	SK852F		稜碗		
		須恵器	有台坏	(134)	(86)		4	ヘラケズリ	ロクロナテ		SK852F		稜碗		
		須恵器	無台坏	(152)	(82)	38	5	ロクロナデ	ロクロナデ		SX851F				Bb1
		須恵器	無台坏	(140)	86	40	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SX851F SX851F			# _B	Bb1
		土師器	無台坏	(148)	(60)	43	5	ロクロナア	ロクロナデ		SK852F		被熱痕・内外面磨		
		土師器	無台坏	(190)	(94)		4				SX851F SX851F		被熱痕・内外面磨		
50		土師器	悪	(180)			5				SK852F SX851F		被熱痕·内外面录		
30		土師器	甕	(172)			5				SK852F		被熱痕・内外面录	落	
	44	土師器	甕		(72)		5	ヘラケズリ		木葉痕	SK852F SX851F				
		土師器	甕		(82)		6	ハケメ	ハケメ	木葉痕	SK852F				
		須恵器	無台坏	(152)	(94)	41	5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ		n	ナ アル ** * *		Ab1
		須恵器	こね鉢	(136)	100	134	10	ロクロナデ	ロクロナデ			RP75	内面火だすき		
	48	黒色土器	Ш	118	54	31	4	ミガキ	ミガキ	ミガキ	SX316F		内外面黒色処理		

表6 遺物観察表(2)

	遺物	種別	器種		計測値				E技法	- 底部	出土	登録	備考	分類
番号	番号			口径	底径	器高	器厚	<u>外面</u> ロクロナデ・	内面	/EV HIP	地点 SX783・	番号		73 88
	49	須恵器	蓋				5	ヘラケズリ	пу п у у		784F			
	50	須恵器	蓋				4	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ		SX783· 784F		外面刻書「井ヵ」	
		須恵器	蓋				6	ロクロナデ・	ロクロナデ		SX783.			
				(159)	76	79		ヘラケズリ		A 异团 h	784F	DDEE	皮が里来「□エュ」	
		須恵器 須恵器	有台坏	(152)	(75)	72	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り 回転糸切り			底部墨書「□万ヵ」 底部墨書「丁ヵ」	
51				(140)		40					SX7841	101 31	好帥委旦 1 //]	
		須恵器	有台坏	(146)	(88)	42	4	u / u л - л -	ロクロナデ	回転糸切り	784F			
	55	須恵器	有台坏		(87)		6	ロクロナデ	ロクロナデ		SX783· 784F			
	56	須恵器	無台坏	(134)	74	37	3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SX784F			Bb3
	57	須恵器	無台坏	(132)	(58)	38	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SX784F			Db1
	58	須恵器	無台坏	(130)	(60)	38	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SX784F			Db3
	59	須恵器	無台坏	(136)	70	43	3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SX784F			Db3
	60	須恵器	無台坏	(140)	56	48	5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SX784F		底部墨書「□」	Еа3
	61	須恵器	無台坏		64		3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SX784F		底部墨書「□」·胎土海面 骨針	3
	62	須恵器	無台坏		(66)		5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SX783· 784F		底部墨書「□」	b3
	63	須恵器	坏				4	ロクロナデ	ロクロナデ		SX783· 784F			а
		万亩 即	無ム打	(126)			1	ロクロナゴ	ロクロナデ		SX783.			L.
52		須恵器	無台坏	(150)			4	<u>пупуу</u>	пупуу		784F			b
32	65	須恵器	坏				3	ロクロナデ	ロクロナデ		SX783· 784F			b
	66	須恵器	坏				6	ロクロナデ	ロクロナデ		SX783.			b
		須恵器	壺?		120		6	カキメ	ハケメ	ヘラケズリ	784F SX784F	RP56	内面火はね	
		土師器	蹇.		92		4	ハケメ	ハケメ	木葉痕	SX783.	101 50	下り回力ではなりな	
											784F		LI THE VI	
		土師器	甕		(86)		9	ハケメ	ハケメ	ハケメ	SX784F		外面磨滅	
		土師器	甕 / / / / /		72		7		ハケメ	I alle alle			内外面磨滅	
	71	黒色土器	無台环	141	70	77	7	ハケメ ロクロナデ・	ナデ	木葉痕	SK786F	RP62	内面黒色処理	
	72	須恵器	蓋	150			5	ヘラケズリ	<u>п</u>		SK83F		外面墨痕	
	73	須恵器	蓋	(174)			5	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ		SK154F			
53	74	須恵器	甕	(506)			10	タタキ・ナデ・ ロクロナデ	アテ・ナデ・ ロクロナデ		SK410F	RP77		
	75	黒色土器	高坏				7	-/-//	ミガキ		SK524F		内面黒色処理·外面磨滅	
	76	土師器	甕	(240)			5	ハケメ	ハケメ		SK576F	RP79	被熱痕·内外面磨滅	
		須恵器	有台坏				5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り・	SK639F			
					104					ヘラケズリ				
		須恵器	甕		134		9	タタキ	アテ ロクロナデ・	ナデ	SK639F	RP66		
	79	黒色土器	Ш	110	(70)	30	5	ロクロナデ	ミガキ		SK660F		内面黒色処理·外面剥離	
	80	須恵器	有台坏		(101)		5	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	SK807F	RP73	稜碗	
	81	須恵器	無台坏	(136)	(66)	41	3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SK824F			Db3
	82	須恵器	横瓶?				11	タタキ	アテ		SK824F			
54	83	黒色土器	無台坏			60	5	ロクロナデ	ミガキ		SX153F		内面黒色処理·内外面磨滅	ţ
	84	黒色土器	無台坏	(140)	(68)	62	4	ロクロナデ	ミガキ		SX171F		内面黒色処理·内外面磨滅	ţ
	85	土師器	甕	(210)			6	ナデ			SX400F			
	86	須恵器	蓋				4	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ		SX858F			
	87	土師器	甕	(164)			5	ハケメ	ハケメ		SX858F		被熱痕・内外面磨滅・輪積み	Ψ.
		須恵器	蓋	(= 4 -/		19	4	ロクロナデ・					つまみ内墨書「田」	
		須恵器	蓋				5	ヘラケズリ ロクロナデ・			SG55F		3771	
		須恵器	蓋	(148)			4	ヘラケズリロクロナデ・			SG55F			
		須恵器	蓋	158		31	5	ヘラケズリロクロナデ・			SG55F	RP21		
55		須恵器	蓋	(166)			5	ヘラケズリロクロナデ・			SG55F	RP22		
						97		ヘラケズリ ロクロナデ・					短頸壷蓋·外面自然釉·歪	
		須恵器	蓋	(84)		37	4	ヘラケズリ	u / u л - л -	1	SG55F	DEST	み有り	
		須恵器	有台坏	(132)	96	49	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	SG55F		底部刻書「×」	
		須恵器	有台坏		86		5	ロクロナデ					底部墨書「禾」	
	96	須恵器	有台坏		(92)		5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F	KP11	底部墨書「禾」	

表7 遺物観察表(3)

插図	遺物				計測値	(mm)		調素			出土	登録	м. т		47 167
	番号		器種 ·	口径	底径	器高	器厚	外面	内面	- 底部	地点	番号	備考	i	分類
	97	須恵器	有台坏		100		5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F	RP39	底部墨痕		
	98	須恵器	有台坏?	(152)	76	76	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り?	SG55F	RP25	外面墨書「春ヵ」また	とは「奉ヵ」	
55	99	須恵器	有台坏		62		4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「玉木」		
	100	須恵器	有台坏				6	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SG55F		底部刻書「□」		
		須恵器	有台坏		60		7	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55Y	RP30	底部墨書「□」		-
		須恵器	有台坏	(138)	76	46	4	ロクロナデ	ロクロナデ		SG55F	RP8			
		須恵器	有台坏	142	82	48	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ		RP48	稜碗?		
		須恵器	有台坏	(144)	84	49	6	ロクロナデ	ロクロナデ		SG55Y		1,567,61		
		須恵器	有台坏	(136)	(80)		4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SG55F				
		須恵器	有台坏	(100)	90		6	ロクロナデ	ロクロナデ		SG55Y	RP15			
		須恵器	有台坏		84		7	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SG55F	RP49			
		須恵器	有台坏		84		8	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SG55F	RP37			
		須恵器	有台坏		43		5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SG55F	101 01			
		須恵器	有台坏		100		6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F	DD10	外面刻書「□」		
56		須恵器	有台坏	(130)	(78)	50	5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F	RP51	71回烈音 □]		
		須恵器	有台坏	(122)	(74)	47	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F	RP36			
		須恵器	有台坏		74		6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F	RP14			
		須恵器	有台坏		40		5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F	RP12			
	115	須恵器	有台坏	(146)	80	52	4	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	SG55F		稜碗		
	116	須恵器	有台坏	(150)	(96)	47	4	ロクロナデ・	ロクロナデ	ヘラ打り	SG55F		稜碗		
		人人心间	HUN	(150)	(30)	71	т	ヘラケズリ		. 7 95 9	50001		12.96		
	117	須恵器	有台坏	(146)			5	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ		SG55F		外面自然釉·稜碗		
	110	石吉里	mt	110	F0	01	4		D 4 D 1.3	同まなしまり	COLLE		底部墨書「東東」	·内面磨	
	118	須恵器	Ⅲ.	119	59	31	4	u / u л·л·	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		滅·墨付着転用硯		
	119	須恵器	Ш	(134)			5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		内面磨滅転用硯? 書「□」	底部墨	
	100	/五字 111	hut.	(1.40)		0.1		ロクロナデ・			COEED				
	120	須恵器	▥	(140)	60	31	6	ヘラケズリ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		焼成不良		
	121	須恵器	\blacksquare		50		5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				
	122	須恵器	双耳坏				8	ヘラケズリ			SG55F				
	123	須恵器	双耳坏				9	ヘラケズリ			SG55F				
57	124	須恵器	双耳坏				9	ヘラケズリ			SG55F				
	125	須恵器	双耳坏				7	ヘラケズリ			SG55F	RP34			
	126	須恵器	無台坏	146	91	35	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SG55F	RP43			Ab1
	127	須恵器	無台坏	(148)	92	36	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SG55F				Ab1
	128	須恵器	無台坏	(148)	90	36	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り?	SG55F		外面磨滅		Ab1
	129	須恵器	無台坏	143	95	42	5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	SG55Y	RP38			Ab1
	130	須恵器	無台坏	136	(74)	41	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「□」		ВаЗ
	131	須恵器	無台坏	(150)	76	39	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SG55F	RP24			Bb1
		須恵器	無台坏	(144)	74	32	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラケズリ	SG55F				Bb1
		須恵器	無台坏	(140)	80	32	4	ロクロナデ		ヘラ切り・ナデ					Bb1
		須恵器	無台坏	(144)	(76)	33	4	ロクロナデ	ロクロナデ		SG55F				Bb1
		須恵器	無台坏	(139)	(74)	37	3	ロクロナデ	ロクロナデ						Bb1
		須恵器	無台坏	(143)	(75)	42	6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				Bb1
										ヘラ切り・ヘラ					
	137	須恵器	無台坏	(148)	(84)	36	5	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ・ナデ	SG55F				Bb1
	138	須恵器	無台坏	(148)	88	35	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	SG55F				Bb1
58	139	須恵器	無台坏	141	72	39	6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「禾」		Bb3
	140	須恵器	無台坏	(154)	76	40	5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「□」		Bb3
	141	須恵器	無台坏	(140)	(78)	42	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				Bb3
	142	須恵器	無台坏	(138)	(78)	43	5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F	RP35			Bb3
	143	須恵器	無台坏	(148)	68	36	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				Bb3
	144	須恵器	無台坏	(140)	68	41	3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「□」		Da3
	145	須恵器	無台坏	(144)	(69)	44	5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				Da3
		須恵器	無台坏	134	68	41	3	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SG55F		底部墨書「□」		Db1
		須恵器	無台坏	(126)	(68)	34	3	ロクロナデ					· -		Db1
		須恵器	無台坏	(142)	60	44	3	ロクロナデ	ロクロナデ		SG55F		焼成不良		Db1
		須恵器	無台坏	(144)	(64)	36	5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SG55F				Db1
		須恵器	無台坏	(146)	64	42	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「直万」		Db3
59		須恵器	無台坏	146	68	44	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「干」		Db3
		須恵器	無台坏	(144)	62	41	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「禾ヵ」		Db3
						37		ロクロナデ				DDOO	底部墨書「禾」		Db3
		須恵器	無台坏	(134)	(56)		3		ロクロナデ	回転糸切り		KF20			
	154	須恵器	無台坏	140	68	39	4	ログロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		内面磨滅		Db3

表8 遺物観察表(4)

挿図		種別	器種		計測値				整技法 ·	- 底部	出土	登録	備	考	分類
番号				口径		器高	器厚	外面	内面		地点	番号	UH3		
		須恵器	無台坏	(138)	63	41	4	ロクロナデ		回転糸切り	SG55F				Db3
		須恵器	無台坏	(130)	60	39	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				Db3
	157	須恵器	無台坏	144	66	44	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F	RP44			Db3
59	158	須恵器	無台坏	(132)	66	34	5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F	RP22			Db3
	159	須恵器	無台坏	150	68	41	5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				Db3
	160	須恵器	無台坏	(150)	69	43	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				Db3
	161	須恵器	無台坏	(138)	68	37	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				Db3
	162	須恵器	無台坏	131	52	43	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		歪み有り		Db3
	163	須恵器	無台坏	(146)	60	39	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		焼成不良		Db3
	164	須恵器	無台坏	(138)	(66)	43	5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				Db3
	165	須恵器	無台坏	128	66	35	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				Db3
	166	須恵器	無台坏	(144)	68	39	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55Y	RP28	底部墨書「	ĿJ	Dc3
	167	須恵器	無台坏	(135)	64	44	5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				Dc3
	168	須恵器	無台坏	130	60	47	3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨痕		Eb3
60	169	須恵器	無台坏	133	58	46	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				Eb3
	170	須恵器	無台坏	130	56	46	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				Eb3
	171	須恵器	無台坏	(148)	50	45	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				Eb3
	172	須恵器	無台坏	(138)	(68)	47	3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		外面自然釉		Ec3
		須恵器	無台坏		(82)		7	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SG55F		底部墨書「	モカ	1
		須恵器	無台坏		72		4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「		3
		須恵器	無台坏		66		4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「		3
		須恵器	無台坏		55		5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「		3
		須恵器	無台坏		58		5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「		3
		須恵器	無台坏		60		5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「		3
		須恵器	無台坏		(72)		5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「[3
		須恵器	無台坏		(64)		6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「		3
		須恵器	無台坏		(70)		4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「		3
		須恵器	無台坏		62			ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書 [[3
C1							4								
61		須恵器	無台坏		(59)		4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F		底部墨書「[3
		須恵器	無台坏		(60)		4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F	DDOO	底部墨書「[3
		須恵器	無台坏		(78)		5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F	RP33			3
	186	須恵器	無台坏		(66)		4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				3
	187	須恵器	こね鉢	(206)			8	ロクロナデ	カキメ・ロク ロナデ		SG55F				
	100	須恵器	鉢				9	タタキ・カキ	アテ・カキメ・		SG55F				
	100	須芯値	华				9	メ・ロクロナデ	'ロクロナデ		SGOOF				
	189	須恵器	甕	(192)			7	タタキ・ヘラ ケズリ・ロク	カキメ・ロク		SG55F				
	105	八八八二	JAL.	(132)			'	ロナデ	ロナデ		50331				
	190	須恵器	甕		(116)		9	カキメ・ロク	ロクロナデ	ヘラケズリ	SG55F				
62		>00.111	3.0		(110)			ロナデ	アテ・ナデ・		00001				
	191	須恵器	甕				9	ロクロナデ	ロクロナデ		SG55Y	RP27			
	102	須恵器	甕				10		アテ・ナデ・		SG55F	RP//1			
	1,72	火心加	,hu				10	ロクロナデ	ロクロナデ		20001	1(1 11			
	193	須恵器	甕	(236)			10	タタモ・カモ メ・ロクロナデ	カキメ・ロク ロナデ		SG55F	RP7	内外面自然	舳	
	104	須恵器	甕	192			6		ロクロナデ		SG55F				
	194	須芯爺	元	192							SGOOF				
63	195	須恵器	甕	(168)			8	タタキ・ロク ロナデ	カキメ・ロク ロナデ		SG55F				
	196	須恵器	甕				10		ロクロナデ		SG55F		外面波状文		
		須恵器	甕				12		ロクロナデ		SG55F		外面波状文		
		須恵器	壺				10		ロクロナデ		SG55F		外面波状文	白炭釉	
				(*****)					カキメ・ロク			DD 40	71 11 12 17 12	П ЖОЩ	
	199	須恵器	短頸壺	(118)			8	ロナデ	ロナデ		SG55F	RP42			
	200	須恵器	短頸壺	(100)			5	ロクロナデ	ロクロナデ		SG55F	RP18	外面火はね	自然釉	
	201	須恵器	壺				6	ヘラケズリ・	ロクロナデ		SG55F				
CA					(01)			ロクロナデ							
64		須恵器	壺		(81)		7		ロクロナデ		SG55F		Al 正法をおり		
		須恵器	壺		(50)		7		ロクロナデ		SG55F	DESC	外面被熱痕	77 34 H	
		土師器	有台坏		61		6	ロクロナデ	ロクロナデ			KP19	被熱痕・内外	川羽洛	
		土師器	有台坏		(62)		4				SG55F		内外面磨滅		
	206	土師器	有台坏		(58)		4	ロクロナデ	ロクロナデ		SG55F				

表9 遺物観察表(5)

挿図	遺物				計測値	(mm)		調整			出土	登録			
番号		種別	器種 -	口径	底径	器高	器厚	外面	内面	- 底部	地点	番号	備	考	分類
		土師器	無台坏	(134)	(80)	44	5	ロクロナデ	ロクロナデ		SG55F		内外面磨滅		
	208	土師器	無台坏?		70		4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				
	209	土師器	無台坏		60		5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				
		土師器	無台坏		(52)		5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	SG55F				
		土師器	甕		(82)		7	ハケメ		網代	SG55F		被熱痕		
		土師器	悪		(74)		5		> 20° 2-	木葉痕	SG55F		中五田々知田		
65		黒色土器			54		5	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	SG55F		内面黒色処理		
		黒色土器 黒色土器			66 90		5 5	ロクロナデ	ロクロナデ ミガキ	回転糸切り	SG55F SG55F		内面黒色処理 内面黒色処理・J	さか 掛 仕 羊	
									ロクロナデ・					式 部 殊 门 有	
		黒色土器		(143)	58	52	3	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	SG55F		内面黒色処理		
	217	黒色土器	無台坏	140			4	ロクロナデ	ミガキ		SG55F		内面黒色処理		
		黒色土器			64		4	ロクロナデ	ミガキ		SG55F		内面黒色処理・「	内外面磨滅	
	219	黒色土器	甕?		82		5		ミガキ	木葉痕	SG55F	RP31	内面黒色処理		
	220	須恵器	無台坏		(70)		10	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ	回転糸切り	SD20F	RP52	壺?		3
	221	須恵器	壺		(156)		12	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ		SD20F	RP53			
	222	陶器	志野 菊皿				6	釉調: 5Y8/2灰白 色	胎土: 2.5Y7/1灰白 色		SD286F		底部円錐ピン痕 石釉 瀬戸・美活 登窯第1小期]	農連房式	
	223	陶器	志野 丸皿	(106)	(64)	21	6	釉調: 10YR8/2灰 白色	胎土: 10YR8/1灰 白色		SD701F		内外面長石釉 瀬戸·美濃 連 1小期 17世紀	房式登窯第	
66	224	陶器	稜皿				4	釉調: 5Y6/3オリ ーブ黄色	胎土: 10YR6/2灰 黄褐色		SD701F		内外面灰釉 瀬 16世紀後半?	戸·美濃	
	225	須恵器	無台坏		70		4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り・	SD300F				3
	226	須恵器	甕				9	タタキ	アテ		SD300F				
		須恵器	甕				12	タタキ	アテ		SD300F				
	228	須恵器	小型壺		(52)		8	ヘラケズリ・	ロクロナデ		SD300F		高台内面自然釉	1	
		土師器	有台坏				6	ロクロナデロクロナデ					101 1 1 m H WALE	•	
		土師器	第		50 84		5	ハケメ・指圧痕		木葉痕	SD311F SD311F				
				(150)		F0		ロクロナデ・		, . , . ,		DD70	底部磨滅·墨痕·	·転用硯·稜	
	231	須恵器	有台坏	(152)	100	50	3	ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	SD645F	RP70	碗		
	232	須恵器	有台坏	(140)	(96)	42	4	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	SD645F		稜碗		
	233	須恵器	有台坏	(144)	(92)	51	4	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	SD645F		稜碗		
	234	須恵器	有台坏		(91)		5	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	SD645F		稜碗		
67	235	須恵器	無台坏	140	90	38	5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	SD645F	RP69			Ab1
	236	須恵器	無台坏		90		4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	SD645F				Ab1?
	237	須恵器	無台坏	(140)	72	36	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SD645F	RP67			Bb1
	238	須恵器	無台坏	(138)	(86)	37	5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	SD645F				Bb1
	239	須恵器	無台坏	(140)	76	37	5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	SD645F	RP72			Bb1
	240	須恵器	無台坏	(140)	(74)	40	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	SD645F	RP71			Bcl
		土師器	甕	(154)			8	ハケメ・ナデ			SD645F				
		土師器	甕	(150)			5	ロクロナデ	ロクロナデ		SD645F		被熱痕		
		土師器	甕	(170)			4				SD645F		内外面磨滅		
		土師器	甕	(268)			4				SD645F		内外面磨滅 内面黒色処理・	7. 面里森.	
	245	黒色土器	無台坏	(150)	(94)	38	4	ロクロナデ	ミガキ		SD645F		内外面磨滅	小田兴河.	
	246	黒色土器	無台坏?		(80)		5	ロクロナデ	ミガキ		SD645F	RP68	内面黑色処理·I	内外面磨滅	
60	247	黒色土器	甕		74		6	ハケメ	ミガキ	網代	SD645F		内面黒色処理		
68		土師器	甕		(100)		8	指圧痕		木葉痕	SP140F				
		須恵器	横瓶				12		ヘラケズリ		SP158F		外面刻書「大ヵ		
		土師器	悪	(292)	(5.1)		10	ロクロナデ	ロクロナデ		SP220F		ATE 4 1		
		黒色土器		(110)	(74)	40	5		ミガキ		SP220F		内面黒色処理		
		土師器	無台坏	(118)	(50)	42	3		ロクロナデ	A 与知 b	SP487F		内外面磨滅		
		須恵器	無台坏 甕?		(80)		6	ロクロナデ	ロクロナデ	ハフ切り	SP794Y SP830F		内从而麻油. Ы	石油劫 店	
	204	土師器	定:		(10)		O	指圧痕			200010		内外面磨滅·外i	山似然恨	

表10 遺物観察表(6)

挿図		種別	器種・		計測値				技法	- 底部	出土	登録	備	考	;	分類
番号				口径	底径	器高	器厚	外面 ロクロナデ・		,⊏∧ Hi₁	地点	番号				
		須恵器	蓋	(152)			5	ヘラケズリロクロナデ・	ロクロナデ		22-18G		外面刻書「	×」		
	256	須恵器	蓋	(158)			4	ヘラケズリ	ロクロナデ		CZXO					
	257	須恵器	蓋	(176)			4	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ		23-19G					
		須恵器	有台坏	(110)	(58)	46	4	ロクロナデ	ロクロナデ		B区東TT					
	259	須恵器	有台坏		(81)		6	ロクロナデ	ロクロナデ		19-17G		内面底部磨滅	墨痕?	転用硯?	
	260	須恵器	有台坏	152	96	52	5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	22·23- 19G					
	261	須恵器	有台坏	(142)	(84)	50	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	TT2		稜碗			
69	262	須恵器	有台坏	(154)			4	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	13-23G		稜碗・歪み有	i り・ii	5台剥離	
	263	須恵器	有台坏		(94)		4	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	XO		稜碗			
	264	須恵器	有台坏	(150)			4	ロクロナデ・ ヘラケズリ	ロクロナデ		13·14- 23G		外面自然釉 稜碗	内面	火はね・	
	265	須恵器	双耳坏				8	ヘラケズリ			B区東 TT		外面自然釉			
	266	須恵器	双耳坏				6	ヘラケズリ			20-21G					
	267	須恵器	無台坏	149	90	43	5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	22-19G					Ab1
	268	須恵器	無台坏	(140)	(88)	39	5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	13-23G					Bb1
	269	須恵器	無台坏	(142)	(88)	35	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	13-24G					Bb1
	270	須恵器	無台坏	(142)	(79)	37	4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	13·14- 23G		内外面火は	h		Bb1
		須恵器	無台坏	(150)	(76)	38	5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	22-19G					Bb3
		須恵器	無台坏		60		4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	13-23G		焼成不良			3
		須恵器	無台坏	(140)			4	ロクロナデ	ロクロナデ		13-23G		焼成不良			b
	274	須恵器	碗?	140			5	ロクロナデ ヘラケズリ・	ロクロナデ		23-19G					
=0	275	須恵器	蹇		(96)		10	ロクロナデ	ロクロナデ		23-19G		焼成不良·内]外面	磨滅 	
70	276	須恵器	短頸壺	(144)			6	ロクロナデ	カキメ・ロク ロナデ		18-23G					
	277	須恵器	壺				6	カキメ・ロク ロナデ	ロクロナデ		12-24G · SE656F	RP78				
	278	土師器	有台坏		(30)		6	ロクロナデ	ロクロナデ		15∼ 18-22G		to other and to		11.1. Az 1-1	
	279	土師器	無台坏	146	80	37	5		ハケメ	ヘラ切り·ヘ ラケズリ	22-19G		輪積み・砂料 混入	・土器	学粒多量	
		土師器	無台坏		(74)		5	ロクロナデ	ロクロナデ		31-15G		内外面磨滅			
		土師器	甕	(360)			10	ロクロナデ	ロクロナデ		A⊠XO		内外面磨滅			
	_282	土師器	甕	284			7	ハケメ				RP2				
	283	土師器	甕				6	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ		13·14- 23G					
	284	土師器	甕	(220)			5	ハケメ	ハケメ・ナデ		13-24G					
	285	土師器	甕				8				12·13- 24G		内外面磨滅			
71	286	土師器	甕		(86)		7			木葉痕	20-18G					
	287	土師器	甕		104		8	ハケメ		木葉痕	22-19G					
	288	黒色土器	無台坏	(132)	60	36	3	ロクロナデ	ロクロナデ・ ミガキ	ヘラケズリ	14-26G		内面黒色処 「×」·内外面		部刻書	
	289	黒色土器	無台坏	(152)	(100)	44	5	ロクロナデ	ロクロナデ・ ミガキ	ヘラケズリ	13-23 · 24G		内面黒色処	理·内	外面磨滅	
	290	黒色土器	無台坏	(150)	(80)	33	7	ナデ	ミガキ	ヘラケズリ	22-19G		内面黒色処	理·輪	積み	
	291	黒色土器	無台坏	(148)			5	ロクロナデ	ミガキ		13-23G		内面黒色処	理		
	292	中世陶器	甕	(173)			17	タタキ・ロク ロナデ	アテ・カキメ・ ロクロナデ		16-22G	RP1	293と同一個 期?13世紀			
	293	中世陶器	甕				17	タタキ・ロク ロナデ	アテ・ロクロ ナデ		16-22G	RP1	292と同一個	体		
70	294	磁器	Ш	(140)			3	釉調:	胎土: 10Y8/1灰白 色		A⊠XO		内外面透明 釉·内面不明 万里 Ⅱ- 1630年	文	初期伊	
72	295	磁器	碗		(62)		9	釉調: 7.5Y6/1灰色	胎土: 5Y7/1灰白 色		A区西 XO		内外面青磁; 龍泉窯青磁			
	296	磁器	Ш		(62)		4	釉調: 7.5Y7/1灰白 色	胎土: 5Y8/1灰白 色		A区南 TT		内外面透明 初期伊万里 1610~1630	Ⅱ -		
	297	縄文土器	深鉢	部位	: 体部		9	文様:渦巻 文·懸垂文	地紋:縄文 LR縦		17-25G		縄文時代中	胡大木	₹8b	-
								人 恋兰人	TT VUIL							

写真図版



遺跡近景(南から)



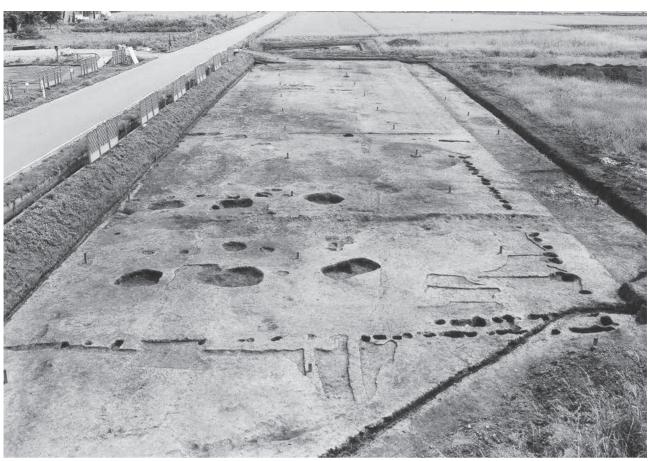
調査区全景(上空から)



A区南半完掘全景(西から)



A区西半完掘全景(南から)



B区完掘全景 (西から)



C区完掘全景(東から)



SH700完掘状況(西から)



写真図版4



SB56完掘状況(北から)



SB56-EB1土層断面(南から)



SB56-EB2土層断面(南から)



SB56-EB5土層断面(西から)



SB56-EB6土層断面(北西から)



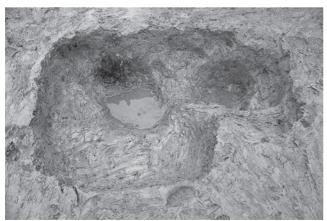
SB170・817検出状況(南から)



SB170・817-EB2土層断面(西から)



SB170・817-EB2完掘状況(西から)



SB170・817-EB3完掘状況(西から)



SB170・817-EB9土層断面(東から)



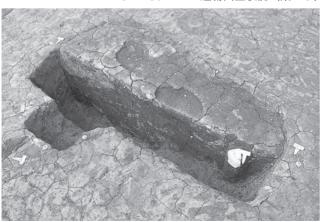
SB180・181・500完掘状況(南から)



SB180-EB4遺物出土状況(東から)



SB180-EB6・500-EB5土層断面(南から)



SB180-EB7・500-EB6土層断面(南から)



SB500-EB11土層断面(南から)



SB250・280完掘状況(東から)



SB250完掘状況(南から)



SB280完掘状況(南から)



SB111完掘状況(南西から)



SB570完掘状況(北から)



SB759・810完掘状況(南東から)



SB860完掘状況(北から)



SA777 A・C区完掘状況(北から)



SA777 A区完掘状況(北から)



SD7 B区精査状況(南から)



SD7・8 B区完掘状況(北から)



SD7 C区完掘状況(北から)



SA26完掘状況(西から)



SA26西側土層断面(南から)



SA26中央部土層断面(南から)



SA26東側土層断面(南から)



SD28完掘状況(南から)



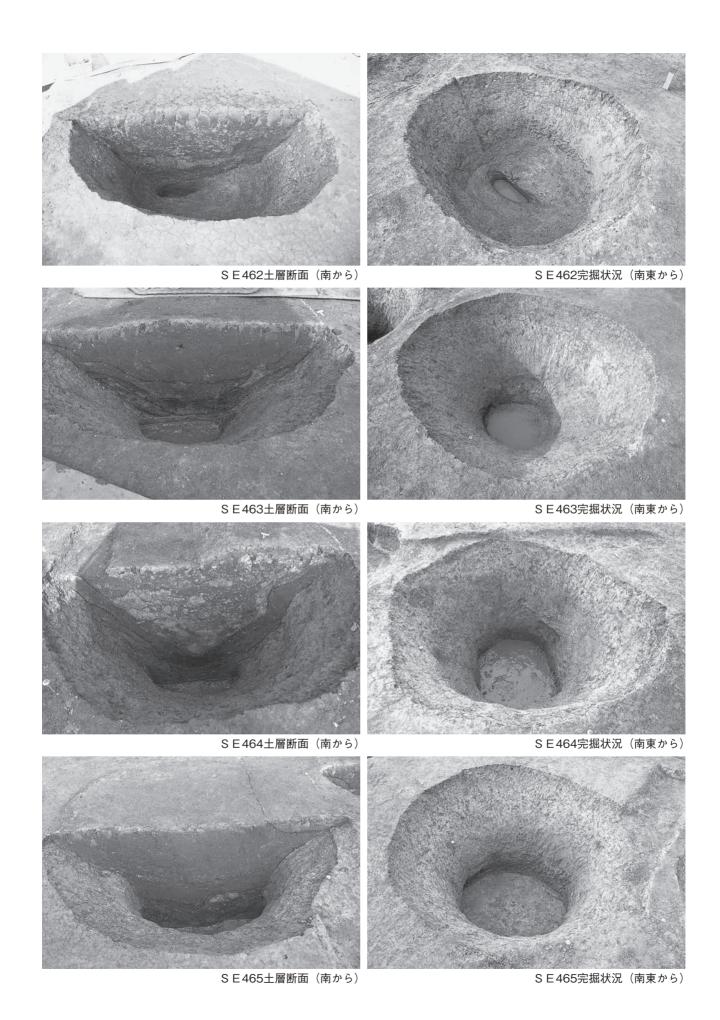
EU1検出状況(西から)



EU1土層断面(西から)



EU1遺物出土状況(西から)





SE462~465完掘状況(北西から)



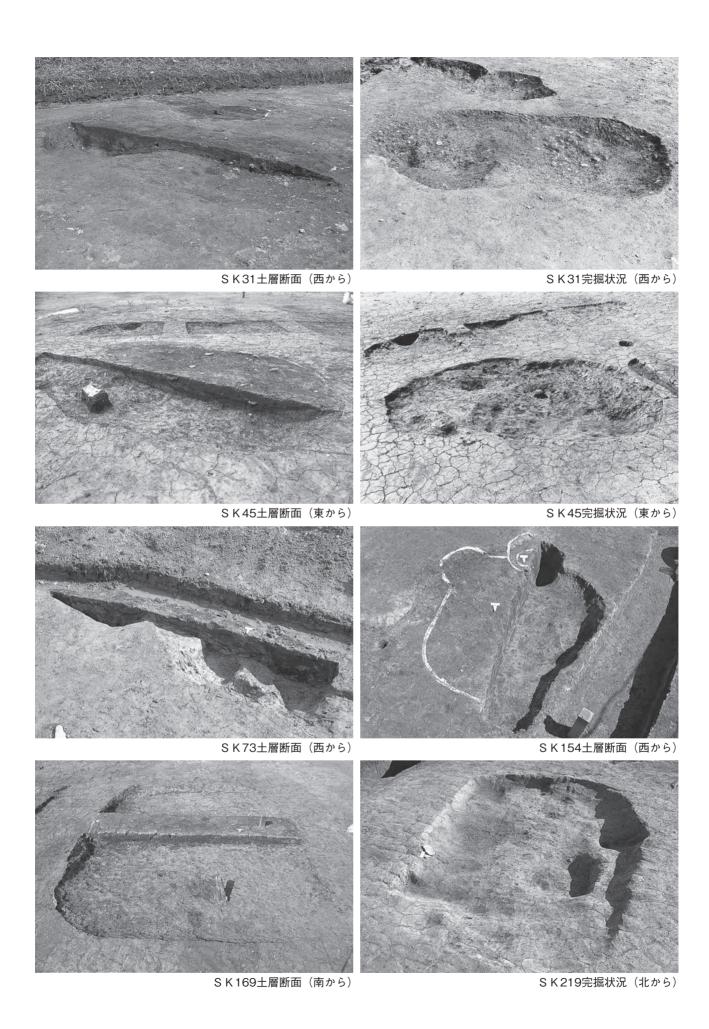
SE523土層断面(東から)



SE523完掘状況(北西から)



S E 516土層断面(北西から)





SK411完掘状況(北西から)



SK767土層断面(西から)



S X 851・S K 852土層断面(南西から)



SX316土層断面(南西から)



S X 783・784、 S K 785~787 土層断面(北から)



S X 783・784、 S K 785~787 完掘状況(北西から)



SG55完掘状況(南から)



SG55土層断面(南東から)



SG55-RP8~12出土状況(北東から)



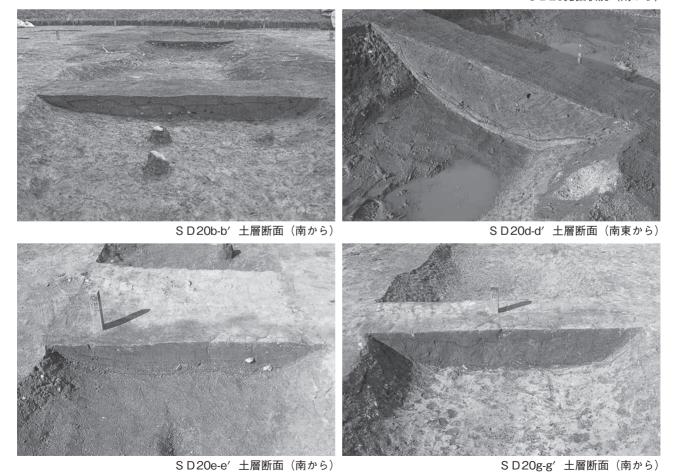
SG55-RP32~45出土状況(東から)



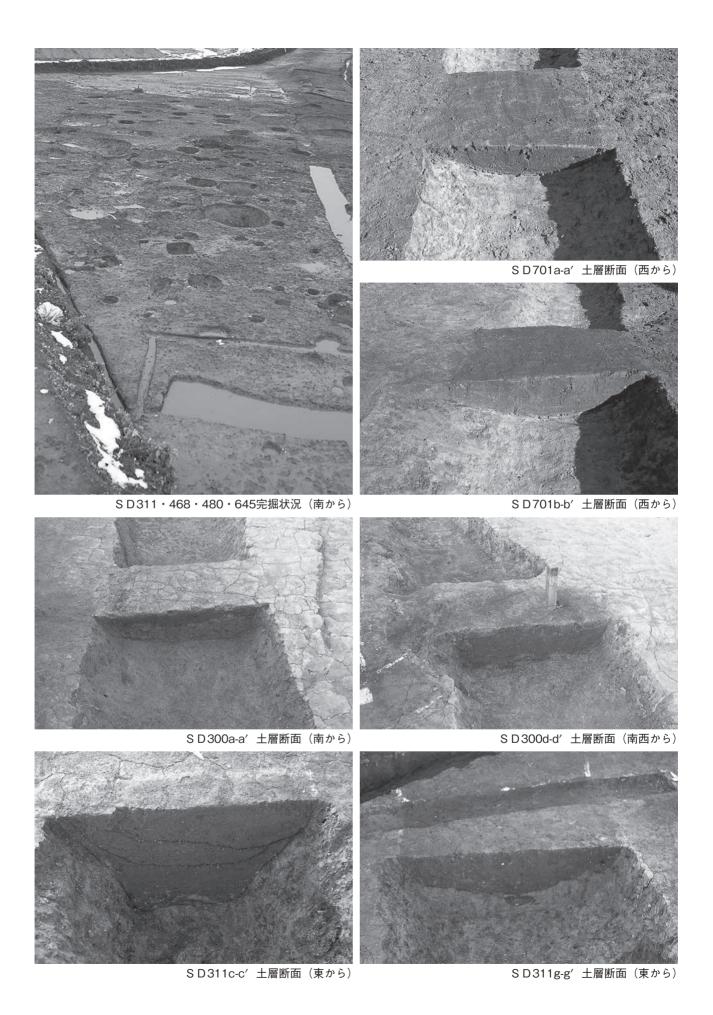
SG55-RP27・28・49~51出土状況(東から)

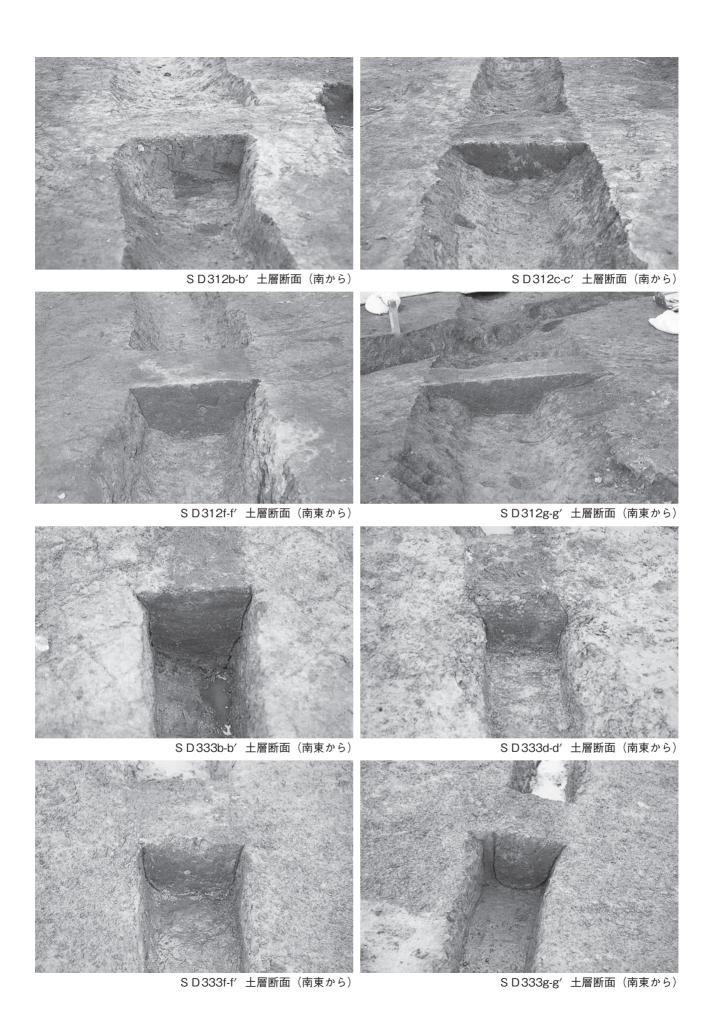


SD20完掘状況(南から)



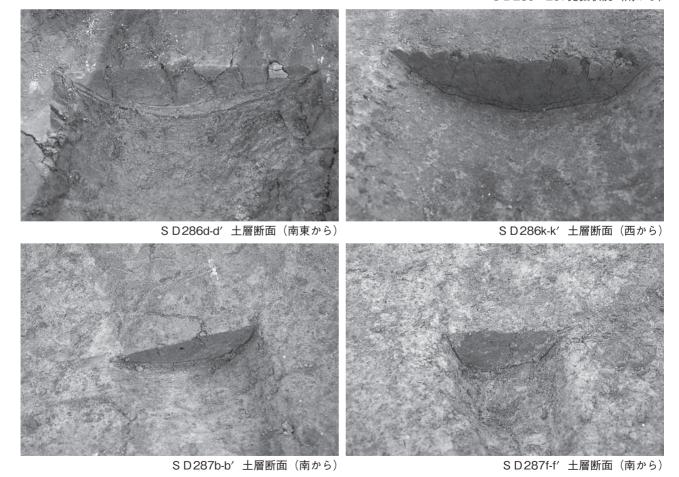
写真図版 20



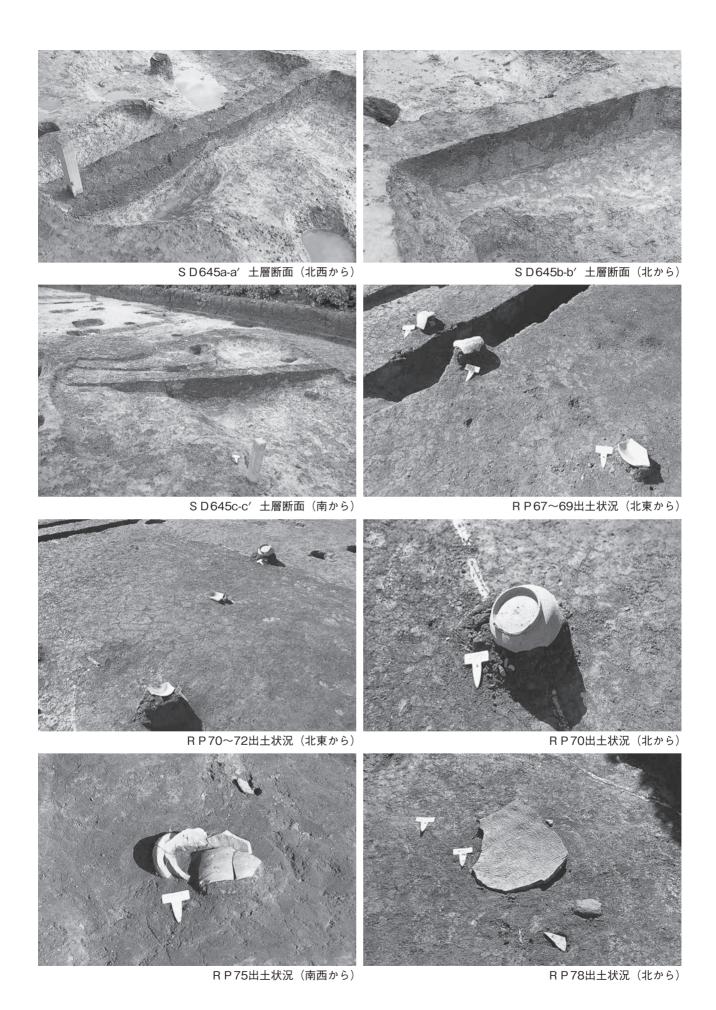




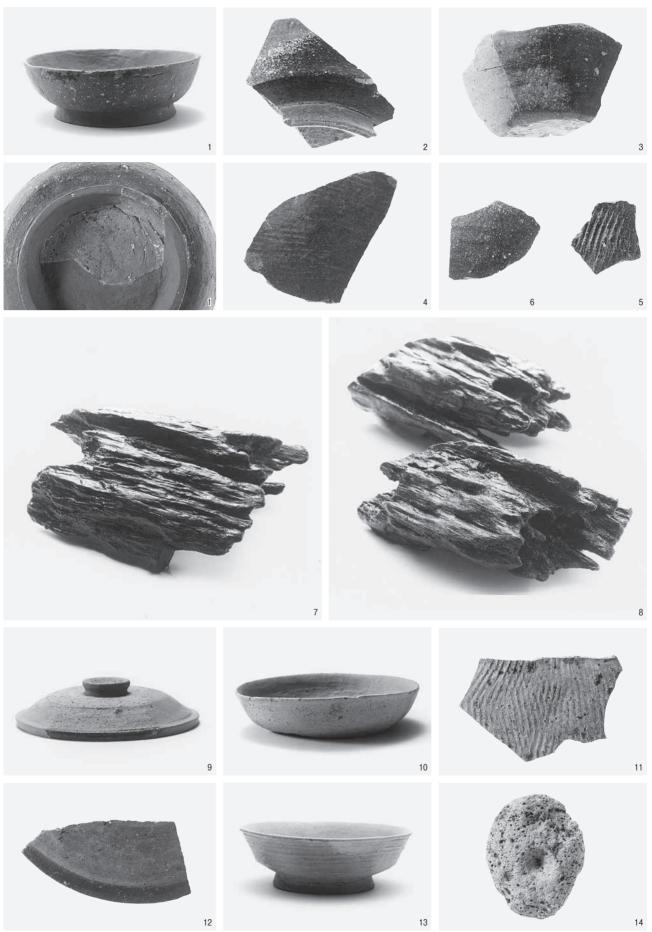
S D 286・287完掘状況(南から)



写真図版 23



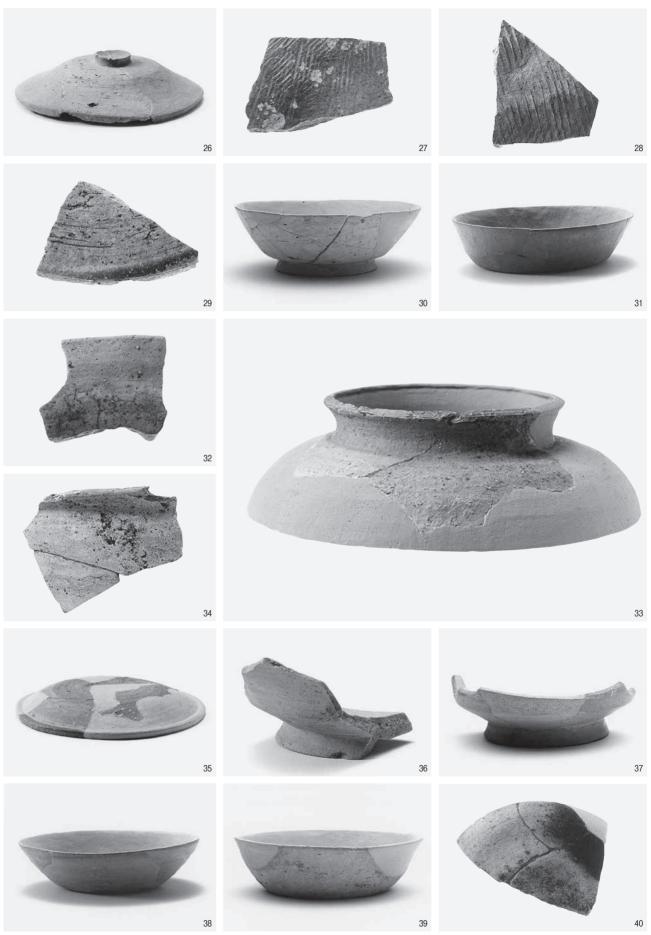
写真図版 24



SB出土遺物



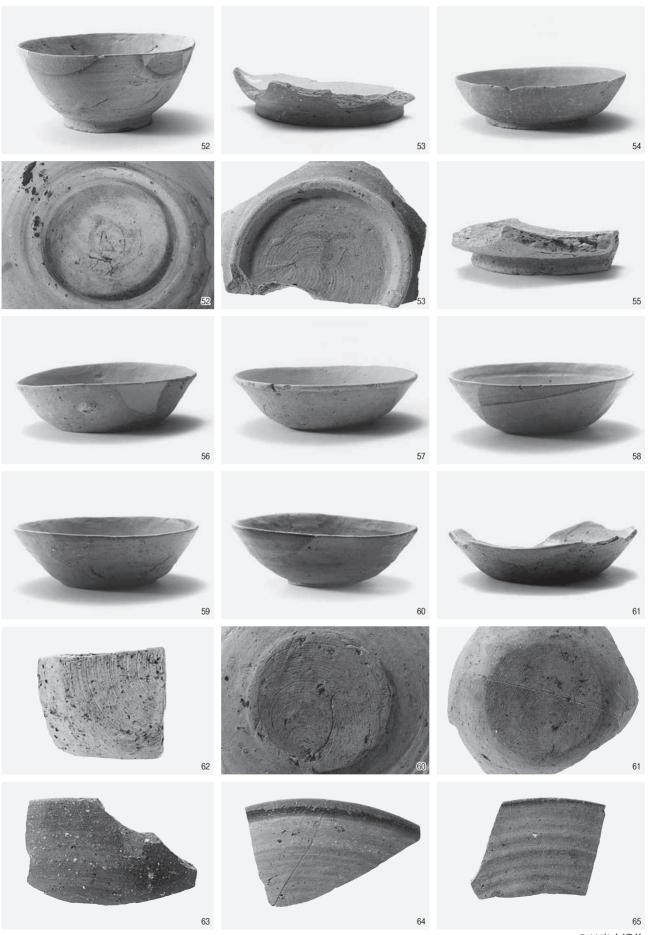
EU・SK出土遺物



SK・SX出土遺物



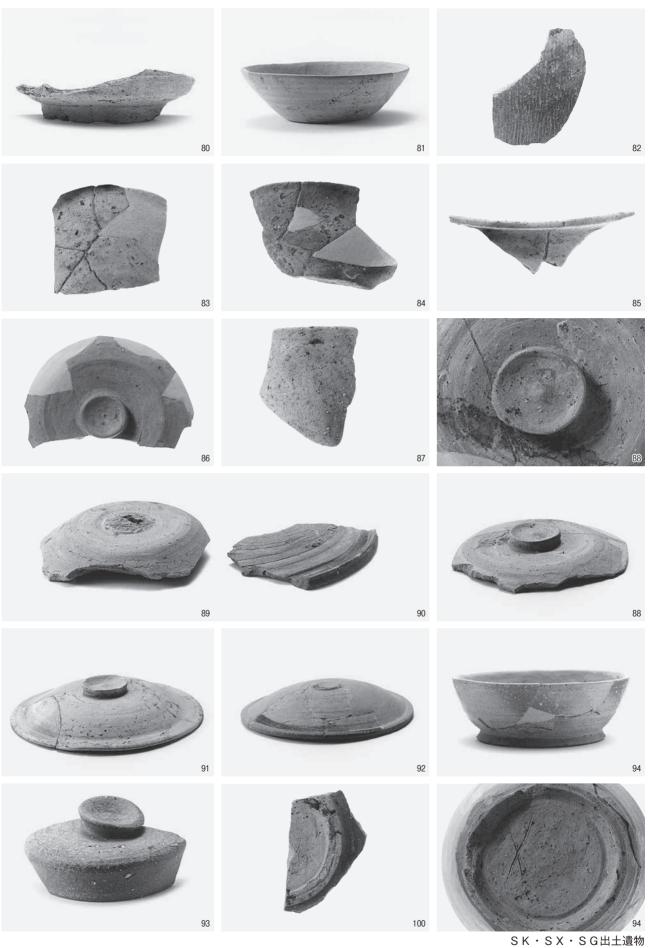
SK・SX出土遺物

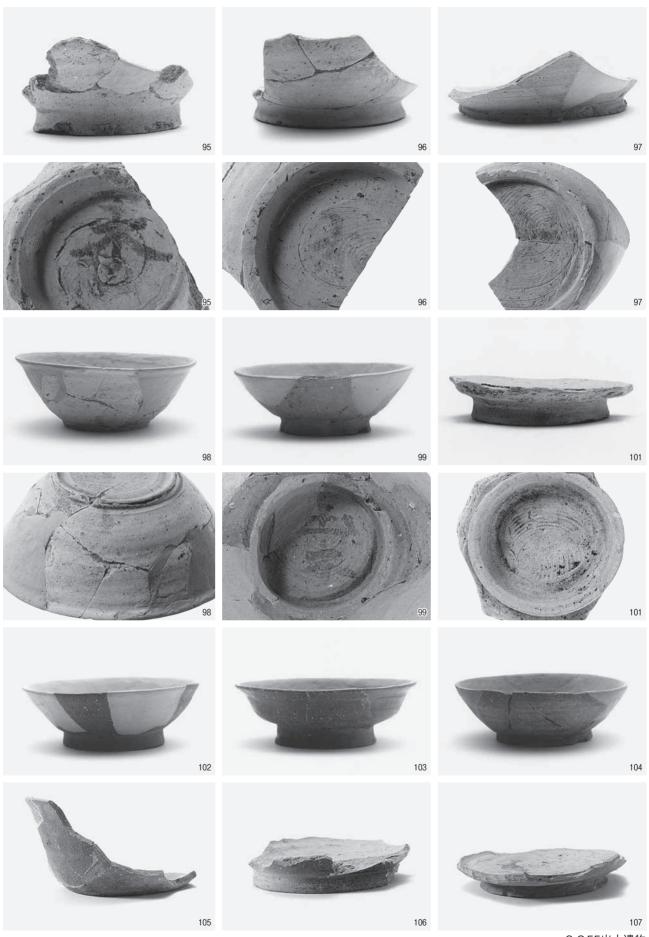


SX出土遺物

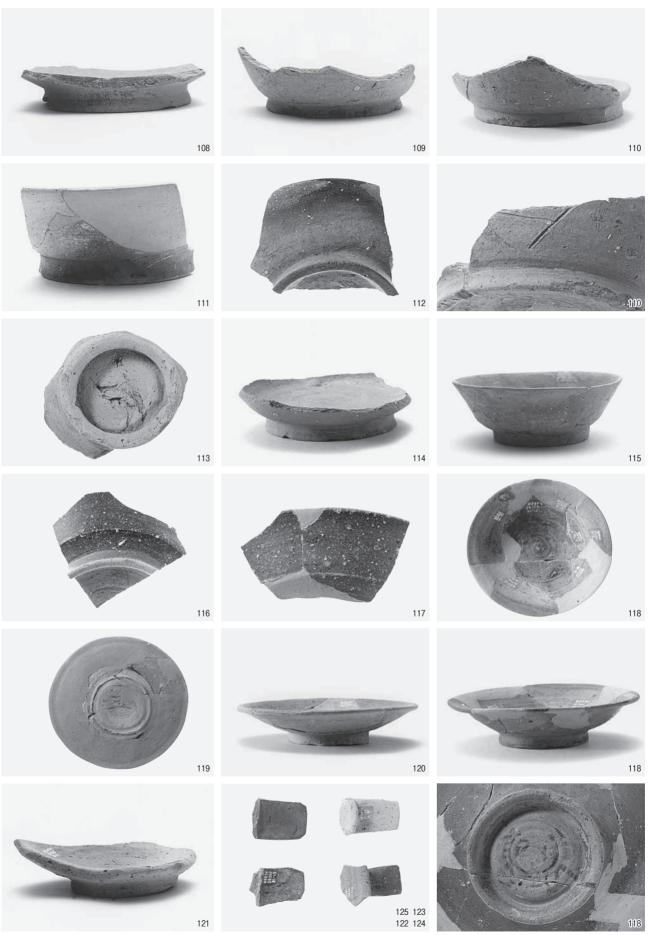


SK・SX出土遺物





SG55出土遺物



SG55出土遺物

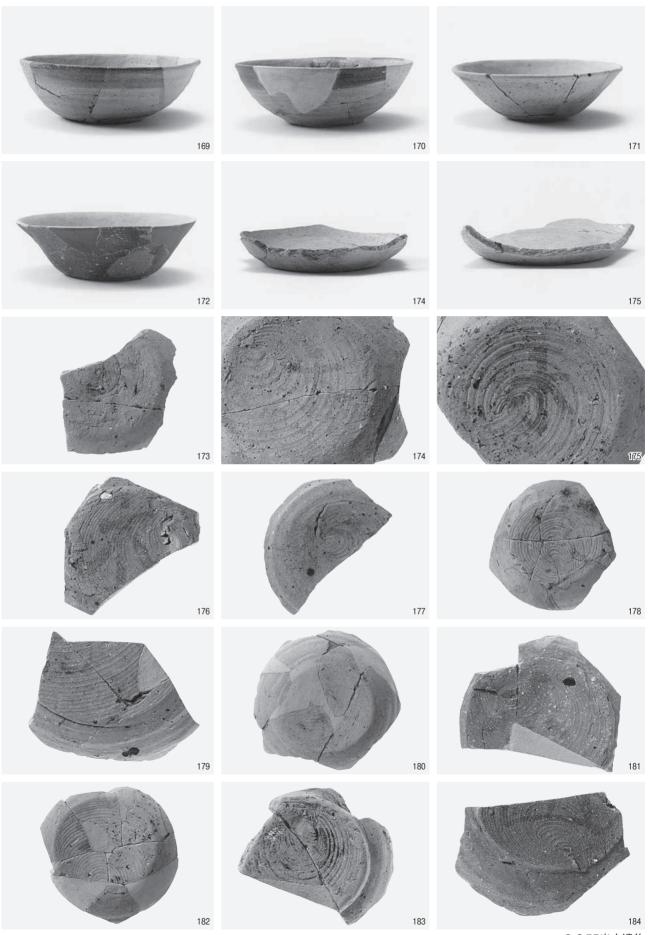


写真図版 34

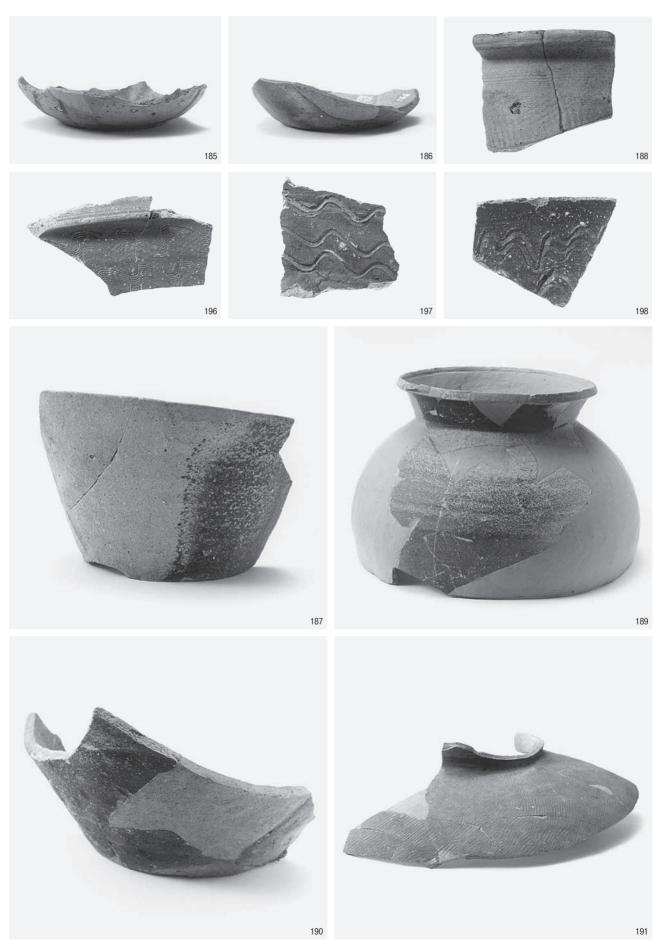




SG55出土遺物



SG55出土遺物



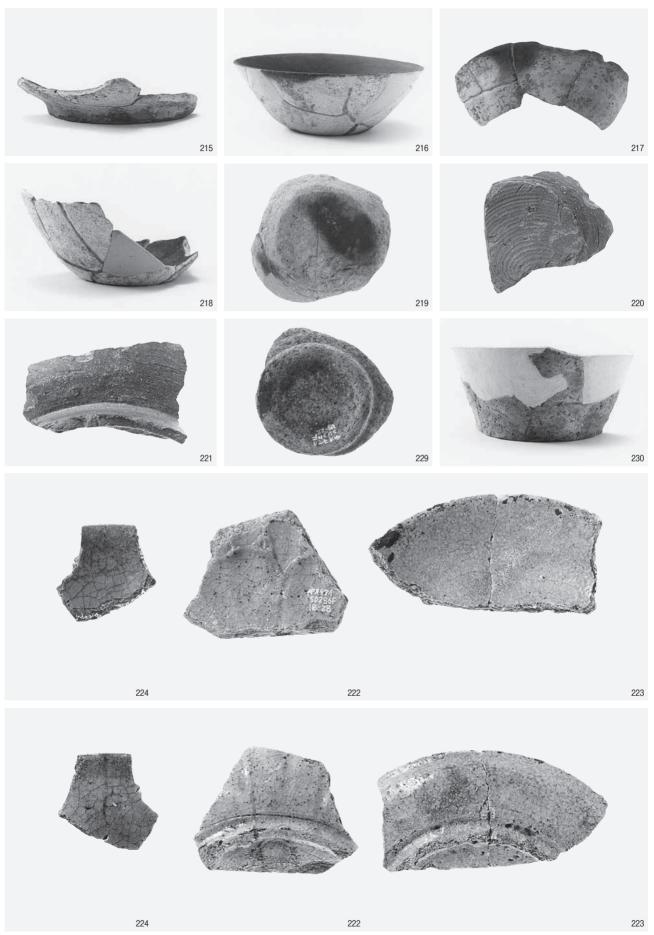
SG55出土遺物



SG55出土遺物



SG55出土遺物



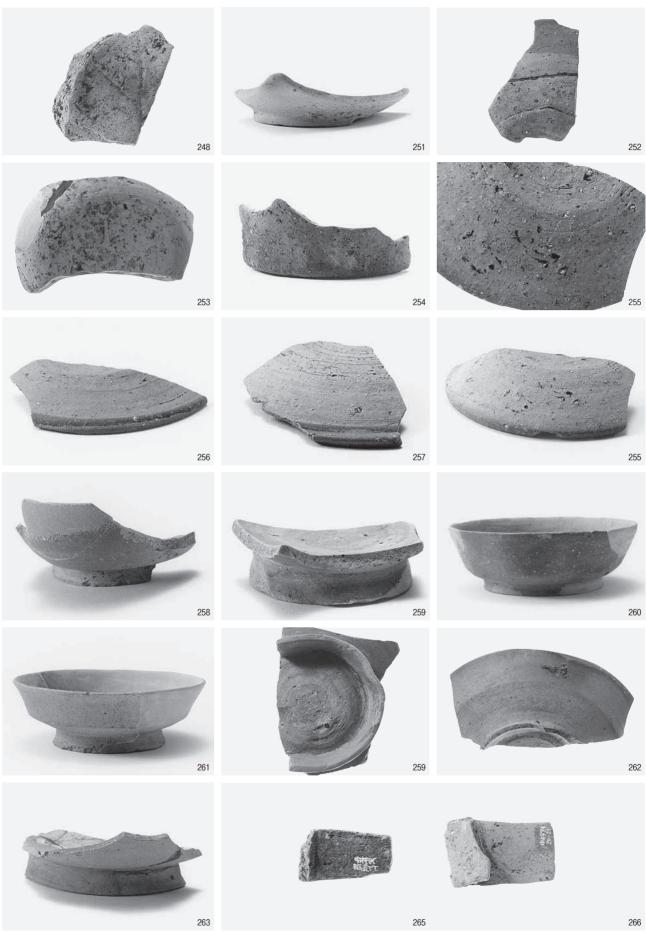
SG55・SD出土遺物



写真図版 42



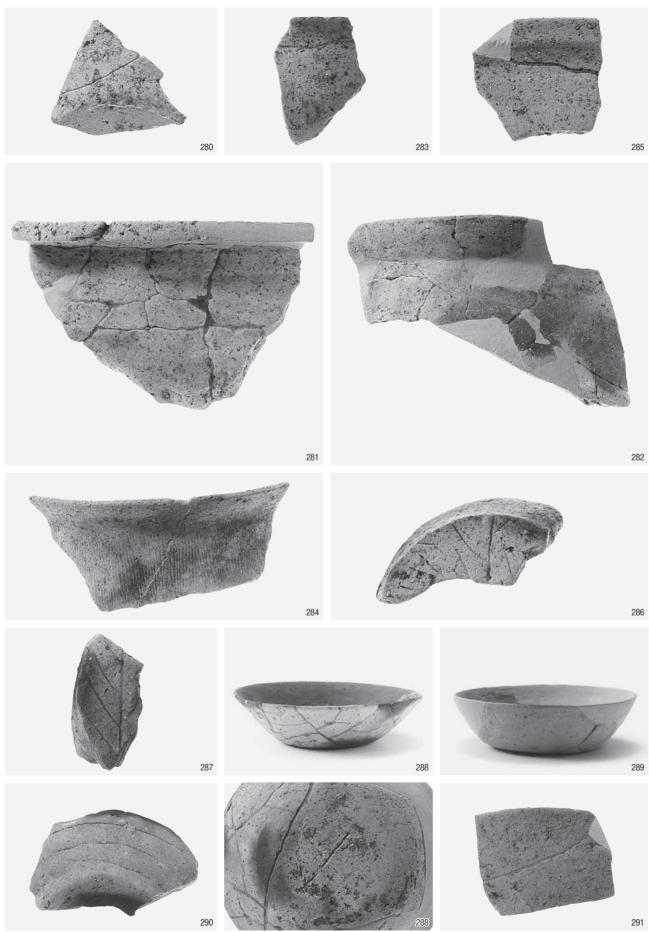
SD・SP出土遺物



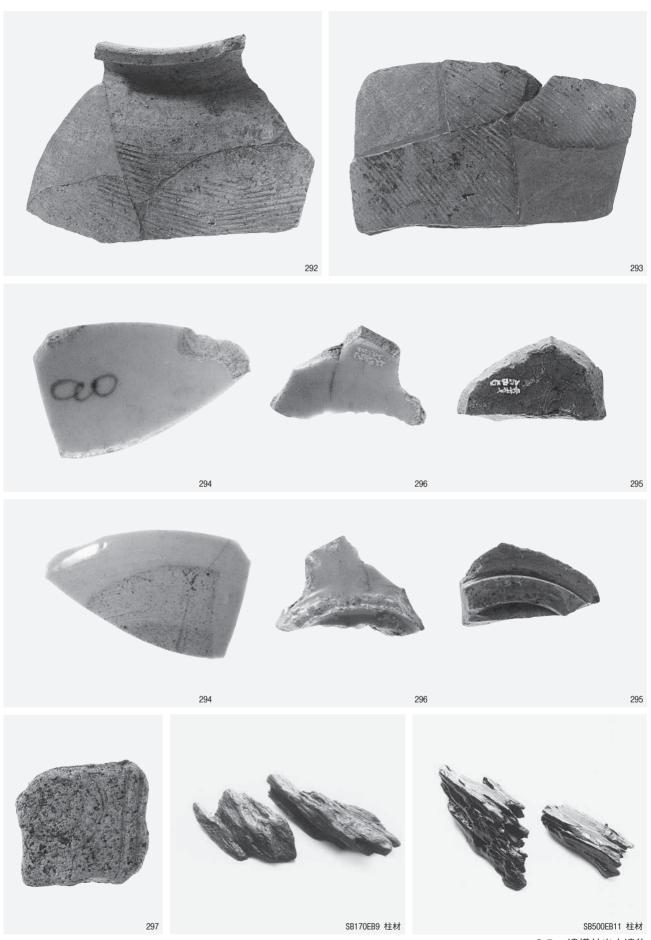
SP・遺構外出土遺物



SP・遺構外出土遺物



遺構外出土遺物



SB・遺構外出土遺物

報告書抄録

ふり	がな	なかおちあいいせきはっくつちょうさほうこくしょ								
書	名	中落合遺跡発掘調査報告書								
副書名										
卷次										
シリーズ名		山形県埋蔵文化財センター調査報告書								
シリーズ番号		第168集								
編著者名		氏家信行 髙桑弘美								
編集機関		財団法人山形県埋蔵文化財センター								
所 在	〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301									
発行年	西暦2008年3月31日									
ふりがな	ふりが	な	コ	- F	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	
所収遺跡名	所 在	地市	市町村	遺跡番号	o , "	0 / "				
なかおちあいいせき中落合遺跡	やまがたけん 山が県 なんようし 南陽市 おおあざなかおちあい 大字中落合		6213	昭和55年度 登録	38° 02′ 48″	140° 08′ 13″	20050601	5700m²	一般国道113号 赤湯バイパス 改築事業	
所収遺跡名	種別	主な	時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
		古墳時代		周溝	1	古墳時代 が1基検出		代の遺構は周溝 出された。		
		奈良時代平安時代		掘立柱建物	14	土師器		奈良・平安時代では、 掘立柱建物、井戸、区画		
				区画施設	1	須恵器				
なかおちあいいせき				井戸 6		黒色土器		施設、河川などが検出さ		
中落合遺跡	集落跡			土坑		墨書土器		れ、掘立柱建物は南北軸		
				河川	1			に沿って計画的に配置さ		
		近世		溝				れている。		
				溝		陶器			は、墨書土器が	
				1冊		磁器		多数出土している。 (文化財認定箱数:40)		
						TANN HH		CALIBAT	HISTOCITIES 10/	
	 吉野川・織機川扇状地の中央を流れる上無川の自然堤防の微高地に立地する古墳時代。奈良・平安									

吉野川・織機川扇状地の中央を流れる上無川の自然堤防の微高地に立地する古墳時代、奈良・平安時代、近世の複合遺跡である。古墳時代と思われる周溝や、近世の溝のほか、奈良・平安時代の掘立柱建物、区画施設、井戸、河川、土坑などが確認された。

要 約

区画施設に囲まれた建物が左右対称コの字状で、軸線がほぼ一致しているという計画的に配置された様相を呈する。出土遺物から、建物などの主たる時期は8世紀末から9世紀後半と考えられる。

遺跡の所在する沖郷地区は、郡山という地名から8世紀末から9世紀末にかけて古代郡衙が存在したと考えられている地域であることから、古代置賜郡衙に関連する施設の一部とも考えられる。

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第168集

中落合遺跡発掘調査報告書

2008年3月31日発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター 〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 電話 023-672-5301

印刷 藤庄印刷株式会社 〒990-0821 山形県山形市北町一丁目3番1号 電話 023-684-5555

